

但明治六年ヲ以テ取立初年ト定ム

第二條 天保十四癸卯年以前ノ各種ノ貸附ハ一切棄捐弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄二十四ヶ年間ノ部ハ全數ノ三分一棄捐明治元戊辰年ヨリ慶應迄ノ部ハ全額可取立事

第三條 嘉永六癸丑以來藩列ニ被加又ハ一旦滅亡サラニ新立ノ藩ヨリ貸附ノ分右列藩以後ノ分ノ可取立事

第四條 各種ノ貸附高現在返辦殘ノ内元利結込有之分ハ利子ハ除去元金ノ可取立事

第五條 產物起立ノ爲戊辰ノ年藩々石高ニ應シ拜借有之楮幣ヲ以貸附有之分ハ其節定則ノ通可取立事

但藩費ニ遣拂候分ハ非此限

第六條 米金貸附ノ節物品引當有之分其物品ハ入札拂ノ上代價一時上納可致事

但家屋敷田畑山林等靜産ノ類引當ノ分並引當物品現今無之分ハ其事故可申出事

第七條 米穀ハ各地方壬申三月平均相場ヲ以テ金直シ可取立事

第八條 銀價ハ東京ハ金壹圓ニ付六十目西京ハ一ヶ年平均相場大坂ハ戊辰五月銀相場廢止ノ節布達ノ平均相場ヲ以テ可取立事

第九條 藩造各種ノ紙幣ハ新貨比較表ニ基キ計算シ可取立事

第十條 正租雜稅不納ニテ證文差入レ貸附ニ相成候分ハ別段詮議ニ可及就テハ右貸附ノ原由並實地取立振等調査ノ上可伺出事

第十一條 貧民ヘ救助夫食糧農具代トシテ貸附ノ分明治元戊辰年以前ノ分ハ總テ棄捐以後之分ハ半高棄捐半高十ヶ年賦可取立事

第十二條 產資ノ爲金穀及品物貸附ノ分ハ八ヶ年賦可取立事

第十三條 掛屋用達等ヘ無利足預ケ金又ハ諸勘定殘金預有之分ハ一時可取立事

第十四條 稅外產物及貯蓄米等ノ内貸附有之分十ヶ年賦可取立事

第十五條 講金ノ類掛ケ込有之分ハ其出金高ノ半高棄捐半高一時可取立事

第十六條 士族歸農商產資金トシテ貸附有之分ハ從前ノ方法ヲ以テ可取立事

但通常家祿引當トシテ貸附候分ハ可爲棄捐事

第十七條 宿場助成金トシテ金穀貸附ノ分ハ取立ニ不及事

第十八條 凡通常(證文面無據入用ニ付借用又ハ要用ニ付拜借等名義判然無之分)ノ貸附金穀ハ十ヶ年賦可取立事

第十九條 借人共一時返納致度旨願出ル者ハ元高ヘ一割利引ノ算計ヲ以テ本額ヲ減シ返納差免候事

右之通相定候條每歲十一月中割賦通取立十二月廿日限管轄廳ヨリ大藏省ヘ可相納候尤追テ從前ノ證書ヘ調査ノ印ヲ捺シ各管廳ヘ可下渡候條請取方並上納手續等同省ヘ可伺出事

附錄

一明治二己巳六月以來舊知藩事手許金ヲ以貸附ノ金穀

但藩々ニ借入候分ハ非此限
一舊幕府日光上野ノ外宮諸藩社寺ノ名目ヲ以貸附ノ金穀

但同上

一藩列ニ被加候家及再立ノ家ヨリ列藩並再立以前貸附ノ金穀

一舊藩々貸附一紙證文金高ノ内元入並ニ棄捐引去全ク取立高金五圓以下五十錢以上(銀錢

札ハ價額表ニ照準金直)米並品物ハ代價五圓以下五十錢以上雜穀ハ五石以下五斗以上都

テ法則ニ定タル年賦ニ應シ一割利引ノ計算ヲ以テ一時取立大藏省へ相納可申事六年第百五號布告

追加

一右同斷取立高全數金五十錢未滿(銀錢札前同斷)米並品物ハ代價五十錢未滿雜穀ハ五斗未

滿ノモノハ各悉皆棄捐タルヘキ事同

但右二ヶ條ニ法則第五條第十六條ハ非此限
右貸借ハ雙方相對ヲ以返辦可致因テ證書類下戻候條請取方大藏省へ可申出事

○舊藩々貸下金ノ内年賦返納ノ分一時返納利引算則方明治十年五月一日
大藏省乙第拾八號府縣へ達

舊藩々貸下金ノ内明治六年第八十一號公布第十九條ニ據リ年賦返納スヘキモノ一時返納願出候節一割利引ノ算則同七

年第三十號ヲ以テ相違候處今後一時返納願出候モノハ七月前後ノ區別ヲ以別紙利引算則ノ通返納可取計候此旨相違候

(別紙)

一割利引千圓率

至ハ七月上納之分其年ノ利息至年分引也
半ハ七月後上納之分其年ノ利息半年分引也

一年	全	九十圓九十錢九厘
	半	四十七圓六十一錢九厘
二年	全	百三十二圓二十三錢一厘
	半	九十九圓九十錢九厘
三年	全	百七十一圓四錢九厘
	半	百三十一圓五十七錢五厘
四年	全	二百七圓五十三錢四厘
	半	百六十九圓七十九錢七厘
五年	全	二百四十一圓八十四錢三厘
	半	二百五圓七十四錢
六年	全	二百七十四圓十二錢三厘
	半	二百三十九圓五十五錢八厘
七年	全	三百四圓五十一錢二厘
	半	二百七十一圓三十九錢三厘
八年	全	三百三十三圓十三錢四厘
	半	三百一圓三十七錢九厘
九年	全	三百六十圓十錢八厘
	半	三百二十九圓六十三錢七厘
十年	全	三百八十五圓五十四錢三厘
	半	三百五十六圓二十八錢三厘

但十ヶ年賦ノモノ假令ハ三ヶ年納済七ヶ年残リノ分ハ殘金ヘ七年率(七月前上納ナレハ全年率七月後上納ナレハ半年率)ヲ乘シ四捨五入ニシテ單位ニ止メ即チ利引高ヲ得ル右差引殘高ヲ以上納金ト定ム亦八ヶ年賦ノモノニヶ年上納済ノ分ハ殘金ヘ六年率(七月前後ノ區別前ノ如シ)ヲ乘シ利引高及ヒ上納高ヲ得ルノ前ニ同シ

○貸下金其他諸上納金未納者他ノ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受クルル并取扱方 明治十五年二月四日

第拾貳號官省院
使廳府廳へ達

貸下金其他諸上納金未納ノ者他ノ負債ノ爲メ裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ル時ハ自今左ノ通處分スヘシ此旨相違候申
一 貸下金其他諸上納金未納ノ者裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ受クル時ハ其徵收ヲ取扱フ官廳ニ於テ通常公文用紙ニ未納ノ金額ヲ記載シ證書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ其裁判所ニ請求スヘシ
一 裁判所ニ於テハ該請求ノ金額ニ就テ負債者異論ナキトキハ身代限ノ配當金ヲ不足アルトキハ定例ノ通證書ニ裏書ノ上其裁判所所在ノ郡區長ニ交付シ郡區長ハ之ヲ其官廳ニ送達スヘシ

● 伺指令

● 貸下金負債者失踪後出訴ノ儀ニ付福島縣ヨリ大藏省へ伺 十七年五月二十八日

貸下金負債者失踪後ノ出訴明治八年第六號公布ニ據リ履行候節ハ十五年第拾貳號公達ニ準シ取扱可然哉

指令 伺之通 十七年十一月十九日

第十二類 軍事

第百二十 戒嚴令

明治十五年八月五日
第三拾六號布告

戒嚴令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

戒嚴令

第一條

戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條

戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條

戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰客上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

十五年第三拾七號布告ヲ以テ法律規則中テ戰時ト稱スルハ外應又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムル旨ヲ令ス

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ

但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ曩ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第十二類 軍事

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スルコト

第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スルコト

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢査スルコト

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖ヒ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

第百二十一 徵發令 明治十五年八月十二日 第四拾三號布告

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鑓臺司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

十五年第三拾七號布告ヲ以テハ戰時ト稱スルハ外思又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムル旨ヲ令ス

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シニ推ス

- 一 第十二條第一項ハ 府縣
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場

長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藎鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
 - 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍厩園及ヒ倉庫
 - 五 飲水石炭
 - 六 船舶
 - 七 鐵道瀛車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工礦夫洗濯人ノ類
 - 三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具藥劑治療器械及細帶具
 - 四 水車搗春ノ類

五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一 皇族所用ノ車馬

二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬

三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹

四 郵便用ノ車馬

五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一 公務ニ屬スル麻署

二 皇族ノ邸宅

三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校并ニ同等官現任ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院養兒院

八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厩園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第十二類 軍事

第二十四條 第十二條第六項及第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ船艀ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル流車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟

議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラズ若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劔官ヲ附加ス

○徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者處分方及右費用ニ關シ不服

アル者出訴方 明治十六年八月八日 第三拾壹號布告

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年^{十一月}第七拾九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年^{五月}第貳拾貳號布告ニ依ル可シ右奉 勅旨布告候事

○徵發事務條例ヲ定ム 明治十五年十二月十八日 第貳拾六號布告

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規程ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

十年第七拾九號布告(第九十七)及十五年第二十二號布告(第九十八)

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊長若クハ各艦隊司令官分遣隊長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊長司令官ト雖モ其部下ノ各艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊長司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊長ヲ統フル長^{士官}以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦隊長トハ先任艦隊長又ハ初立艦隊長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊長若クハ各艦往返發着ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦隊長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人^{其町ニ在スル親屬又ハ預リ主又ハ同物品ノ管業者ノ内ヨリ}戶長ノ撰定スルモノ立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時勢切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ

但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證書ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發書ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別ク速ニ其處迄ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ海陸軍官憲若クハ府縣區郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲グル受領證書ハ附錄第二號雜形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證書ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵發令後之ヲ交付ス可シ但徵發令後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲グルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證書ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲グルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ并ニ同令第十二條第六項ニ掲グルモノノ解船及ヒ船ヲ借切トシテ徵發令スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證書ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵發令第十五日以上ニ及ブモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證書ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲グルモノハ徵發ノ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙未完セザルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ
- 二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量
- 三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號雜形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ陸軍省ニ送付スヘシ

第二十二條 郡區長ハ徵發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戸長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ物産ヲ除クノ外増減ヲ記シ供給ノ便宜ニ供ス可シ

第二十三條 徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ

- 一 馬匹車輛ハ其郡區内ニ於テ當時實用ヲ爲スモノ
- 二 人夫ハ其郡區内ニ於テ負擔ニ係ル業體ヲ爲スモノニシテ年齢十七歳ヨリ六十歳迄ノモノ
- 三 厩園倉庫ハ貸取貸庫ニ限ル
- 四 職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備考中ニ就キ其業體ヲ分チ記ス可シ
- 五 官解社寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス
- 六 物産中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ
- 七 郵便局アル町村ニハ〇其爲替局ハ◎電信分局ハ△其線路ハ一鐵道ハ一ノ符號ヲ附ス可シ

第二十四條 府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徵發物件表ニ照シ附錄第四號雜形ニ依リ其管下ニ係ル徵發物件概覽表

ヲ製シ各郡區徵發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十五條 戶長ハ附錄第五號輪形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ船舶裝ヲ製シ郡區長ヲ經テ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ海軍省ニ送付ス可シ

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必用ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸生敷貸厩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一 廟署 陸海軍官廳ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋

三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室

四 士官又ハ同等軍屬二名 一室

五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿則主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一茶漬物 午飯一茶漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藁五百目 晝秣藁五百目 晚秣藁五百目 夕大麥二升秣藁五百目 晚藁二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藁五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藁一貫目 晚藁五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝小麥一升 晚藁一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合 晚藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升 晚藁一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升 晚藁一貫目

疲弊ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室內所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セズ徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ外有家屋社寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受買ヲ立ツル廠若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定貨ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區ト爲スモノハ差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設ク可シ

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲グルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ關スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ遺算若クハ不公式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應ジテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ

應ジテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損原因ヲ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況并ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲グル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラズ但被災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其被災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號圖形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲グル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確證ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲グル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其

物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 賠償委員ハ陸軍若クハ海軍官憲ニ名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戸長一名及ヒ其町村ノ場所ノ在民ニレテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他 町村ノ在民ヲ用ユルモ妨ケナシ 二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル賠償委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 賠償委員ニ採用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戸長ニ於テ撰擧ス可キモノトス

其撰擧セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰擧セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 賠償ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通過ス可シ

第五十九條 賠償ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價格ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル賠償ノ一例ヲ掲グ

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ賠償委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ適當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

賠償委員ハ賠償額ノ後左ニ掲グル要目ニ准シ所有主毎ニ賠償明細書ヲ製ス可シ

一 賠償ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何種類ニ依リテ金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ 其季ノ收穫

限リ其植物ノ前年平均ヲ以テ賠償金額ヲ定メタル歟其損害ノ程度分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收

穫ノ前年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應ジ賠償スヘキ金額中ヨリ幾分ノ手間

費及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又承存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノ損傷ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收

實ニ止マルトキ損傷ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 賠償委員ハ賠償明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ハ其

明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

●同指令

徵發事務條例中不判然ノ件ニ付山口縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年四月十一日

第一條 徵發事務條例第八條中訓註ニ其町村内ニ在スル親族云々ト有之候處其町村内ニ同營業者及親族等無之場合ニ於テハ如何取計可然哉

第二條 同條例附錄第二號ノ一表備考中存留證票式未タ相見ヘス右ハ如何相心得可然哉又假受領證ヲ交付相成場合ニ於テモ總テ此式ニ據ルヘキ旨ヲ示サレタル儀ニ有之候哉

右相伺候也

指令 十六年七月三日

第一條 戸長ニ於テ他ノ相當ト認ムル者ヲ撰定シ證人トナス可シ

第二條 存留證票ハ一葉ノ證票ニ受領スヘキ物件ヲ復記シ其中央ニ契印シテ之ヲ折半シ其一ヲ官ニ留メ其一ヲ交付スルモノニシテ假受領證モ亦此式ニ依ル

●徵發令中疑義之儀ニ付鳥取縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年六月廿七日

第一條 本令第十四條免除ヲ受クヘキモノノ中第三項ニ乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹ト有之候處警察官兼用之馬

匹モ合當スル候ニ候哉

第二條 本令第四條第二項第三項ノ徵發區ハ行政區(數郡ニ一郡長ヲ置キ數町村ニ一戸長ヲ置クノ類)ヲ指シタルモノニ非スシテ郡區毎町村ノ負擔ニ候哉

指令 十六年七月七日

第一條 伺之通

第二條 數郡ヲ合シテ一郡長ヲ置キ數町村ニ一戸長ヲ置キタルモノハ一郡又ハ一町村ト見做シ取扱フヘシ

●徵發令及事務條例中ノ疑義ニ付群馬縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年二月廿八日

第一條 徵發令第十五條第五項ノ同等官トハ陸海軍ニ限リ候哉

第二條 同令第三十一條賠償金延滞ノ利子ハ日割ナル乎又三ヶ月ヲ超ユルトハ滿三ヶ月ナル哉

第三條 同令第三十三條第二項評價委員ノ告示スル時日トハ其都府評價委員ニテ時日ヲ定メ持主若クハ操業者ハ告示スル儀ニ候哉

第四條 徵發事務條例第廿三條第二項負擔ニ係ル業體ヲナスモノトハ平素負擔ノ業ヲ以テ渡世トナスモノハ勿論士族農商等ニテモ常ニ力業ヲ營ミ荷物糧食等ヲ負擔シ令第十七條ノ里程ヲ運搬ニ耐ユルモノハ悉皆取調候儀ト心得

可然哉

第五條 同條例第四項ノ職工ハ業體ノ何タルヲ問ハス總テ記載スヘキ哉

第六條 同條例第六項物産ハ徵發物件外ノモノト雖モ悉ク登記スヘキヤ且其高ヲ記スヘシトハ其產出高ヲ掲記候儀ニ可有之哉

第七條 徵發物件表中各戸坪數ハ宿舍ノ徵發ニ應用スヘキ居室ノ坪數ノミ可取調哉或ハ各戸全体ノ坪數即チ寢所厩

厩店舖及ヒ仕事場等ニ係ハラズ惣坪數ヲ記載候儀ト心得可然哉

第八條 同令附錄第二號一表備考ニ存留証票トアルハ如何ナル書式ニ候哉

第九條 同令第四十一條中近傍町村ヲ適宜ニ割合云々ト有之然ルハ其便宜ニ據リ他郡又ハ隣縣ニ跨ルモ差支ナキ儀ニ候哉

第十條 同令第四十八條ニ據リ假令ハ七日期限内三日間ヲ經タル後被災厄難ニ罹リタル者アルハ前ノ三日間ハ除却シ其災厄ヲ免レタル日ヨリ更ニ起算シテ可然哉ニ候哉

右條々目下取調ニ際シ疑團ヲ生シ候條何分之御指揮相成度候也

指令 十六年七月四日

第一條 同等官ノ儀ハ陸軍ニ在テ會計軍醫馬醫各部ノ士官以上ニシテ將校ト同等ナル者ヲ謂フ海軍ニ在テハ准將校ヲ謂フ

第二條 利子ハ日割ヲ以テ算シ三ヶ月八月ヲ以テ算ス

第三條第四條 伺之通

第五條 軍車ニ必用ノモノト認メ候分ノミ取調フヘシ

第六條 徵發物件外ノモノト雖モ軍車ニ必用ノモノト認メ候分ハ取調可申且產出高ヲ掲載候儀ハ伺之通

第七條 後段伺之通

但備考ニ起臥營寮ニ必用ナル分ヲ除キ宿舍ノ徵發ニ應スヘキ坪數ヲ掲載スヘシ

第八條 存留証票ハ一葉ノ証票ニ受領スヘキ物件ヲ復記シ其中央ニ契印シテ之ヲ折半シ其一ヲ官ニ留メ其一ヲ交付スルモノヲ云フ

第九條 一縣内ニ限ル

第十條 伺之通

●軍需徵發ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年二月十六日

客年第四十三號公布徵發令同年第二十六號及通同事務條例中疑團ノ廉左ニ相伺候條御明示有之度候也

一令第十五條ニ徴發スヘキモノハ徴發區内ニ現在スルモノニ限ルトアレド同第九條供給時期ニ違ヒ他ノ方法ヲ以テ調達スルルハ及條例第九條他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルルハ并ニ同第三十五條宿舍ニ附帶スル食飼等ハ必ラスシモ本條ニ據ラサル儀ニ候哉又ハ條例三十五條ノ如キ該徴發區内ニ於テ供給ニ堪ヘサルルハ直ニ條例第十二條ニ據ルヘキ哉

二令第十條供給ヲ拒ムニ該品若シ同第十二條第一項ニ係リ或ハ他人ノ寄託品ナリト稱シ又ハ既ニ賣渡ノ約束アル等ノ証左ヲ以テスルル物件尙營業者ノ許ニ存スルモノハ條例第二十條ニ據リ先收スルモノ不替候哉

三令第二十二條二十三條人馬ノ食飼ハ即同第十二條第四項第六項ニ包含シ該賠償方ハ令第三十九條ニ含有スル儀ニ候哉條例第三十三條ニ室內所裝ノ慣用具ノミヲ掲ケ該食飼ニ付別段明文ナキヲ以テ疑ニニ應シ候

四令第九條他方ヲ以テ調達ノ爲メ特ニ生シタル費用ニシテ條例第五條復期ノ事由正當ナルルハ條例第四十條ト同シク該徴發區ノ負擔タルヘキ歟

五令第三十三條毀損ノ物件若シ同第十二條第二第六第七諸項ノ屬具ニ係ルルハ條例第二十六條ニ准シ該賠償ヲ請求スルコトヲ得サル儀ニ候哉

六條例第四十一條ニ隣接郡區長ハ人馬供給ノ便宜ヲ圖リ二郡區ノ間ニ組合町村ヲ定ムルヲ得ル儀ニ候處若シ一郡區内ニ在テ總テノ便宜ニ依リ豫メ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一徴發區トナスモ妨ナキ哉

七條例第二十三條第二項負擔ニ係ル業務ヲ爲スモノ云々凡ソ農工商トモ其徵賦ナルモノニ至リテハ多少負擔ニ從事セサルハナント雖モ前項御明記ニ據レハ日常物貨運搬等ニ從事スル者ヲ單稱候儀ニ候哉

指令〔海軍省〕 十六年八月二日

第一 前段向之通後段條例第三十五條ノ場合ハ直ニ同第十二條ニ依ルニ及ハス

第二 何之通

第三 何之通但令第十二條第六項ニ係ルモノハ同第四十一條及七條例第三十八條ニヨリ賠償ス

第四 何之通但第五條トアルハ第十五條ノ限リナルヘシ

第五 令第三十三條ニヨリ請求スルコトヲ得

第六 雜則

第七 幣ニ物貨運搬ノ業ヲナス者ニ限ラス總テ負擔ニ係ル業務ヲナス者ヲ云

●徴發令ノ儀ニ付新潟縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年二月二十一日

第一條 徴發令第九條後段ヲ課セラレタルモノ(中略)他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシムト在リ右等場合アリ本人費用ノ辨償ヲ拒ム者アルルハ如何ナル法ニ依テ取立可然哉

第二條 同令第十條ニ徴發ヲ課セラレタルモノ(中略)被匿シタルルハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得ト在リ其使用ノ權アルモノハ當該官憲ハ勿論府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ於テハ之ヲ取揚ケ徴發書ヲ發シタル官憲ニ送付スル權アル儀ト心得可然哉

但本文之場合ト雖モ徴發ヲ課セラレタル物品代價ハ賠償相成儀ニ候哉

第三條 同令第三十條ニ徴發物件ヲ送付場所ニ輸送スルハ徴發區ノ義務云々ト有之然ルニ人夫及ヒ牛馬等送付場所ニ至ル旅費若クハ食費等モ該條ニ準シ賠償相成ラサル儀ト心得可然哉

右相向候條至急何分ノ御指揮相成度候也

指令 十六年八月十四日

何之趣左之通可相心得申

第一條 本年市會第三十一號ノ通

第二條 但書共何之通

第三條 何之通

●軍需徴發ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ陸軍海軍兩省ヘ再伺 十六年八月十三日

去ル二月十六日付兵甲第六號同第六件一郡區内ニ在テ便宜ニ依リ豫メ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一徴發區トナ

スハ難聞旨御指令之趣敢承然ルニ其聯合村一戸長役場ノ管理ニ屬スル者ハ尙一村ト同視シ徵發區トナスヲ得ル儀ト相心得候得共一應相伺候候何分ノ御指揮有之度候也

指令 同之通 十六年九月六日

●徵發令及事務條例ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年四月五日

第一條 徵發令第廿二條但書駐軍三日以上ニ至リ陸軍若クハ海軍自辨ノ場合ニ於テ馬匹ニ要スル喰草糞草等ノ徵發區ハ別段明條モ無之右ハ本令第十二條第一項ニ包含スルモノト相心得可然哉

第二條 徵發事務條例第四十五條日割ヲ以テ賠償スルト里程ニ應シテ賠償スルトノ區分ノ儀本年二月九日付庚申第一九號ヲ以テ伺候處伺ノ通但行程六里ヲ以テ一日トシ貨金ヲ給スルモノト御指令有之右ハ六里未滿ト雖モ三里以上ハ一日分ヲ給シ三里未滿ハ其半日分ヲ給セラルヘキ儀ト相心得可然哉

第三條 徵發令第十二條第一項ニ係ルモノヲ差出場所ニ輸送シタル後若シ官ノ都合ニテ其幾分又ハ全分不用トナリタルハ其品物ハ徵發區ニ返還シ爲メニ生シタル費用ハ徵發區ノ義務トシ官ヨリ賠償不相成儀ト相心得可然哉又ハ一日差出場所ニ輸送シタル上ハ官ニ於テ適宜處分シ徵發區ニ於テハ關係無之儀ト相心得可然哉

第四條 徵發物件表中各戸坪數ノ儀ハ實際起臥ヲ爲シ得ル場所ノミヲ調査シ本令第十八條揭示ノ居住者ノ起臥及營業ニ必要ナル場所ハ相除キ可然哉

右相伺候候何分ノ御指令被下度候也

指令 十六年十月四日

第一條 喰草ハ伺之通運搬令第十二條第九項材料中ニ包含ス

第二條 終日若クハ連日使用スル時ト六里以外ノ地ニ使用スル時トハ其使用六里未滿ト雖モ一日届切ノ平常賃價ヲ以テ賠償シ其他ハ使用ノ里程ニ應スル平常賃價ヲ以テ賠償スヘシ

第三條 後段伺之通

第四條 表中各戸坪數表内ニハ總坪數ヲ記載シ其備考ニ起臥及營業ニ必要ナル場所ヲ除キタル坪數ヲ記載スヘシ

●徵發令第拾條ノ儀ニ付陸軍省ヨリ太政官ヘ伺 十六年七月十三日

徵發令第拾二條第一項米麥等物主ニ於テ既ニ賣渡ノ契約ヲ爲シタルモノ若クハ其第六項船舶ノ如キ豫メ物主ト訂約ヲ爲シ現ニ物品ヲ積ミ入レ出帆ニ頃風ヲ得シテ碇泊中ニ係ルモノト雖モ總テ同令第拾條ニ依リ直ニ徵發スルハ勿論ニ有之候處右徵發ノ爲メ其賣渡ノ契約上ヨリ生シタル損金并回漕停止ノ爲メニ生シタル損金ハ官ニ於テ賠償セサル儀ト相心得可然哉徵發令中明文無之候間何分ノ儀御指令相成度此段相伺候也

指令 同之通 十六年十一月八日

●徵發區ノ儀ニ付神奈川縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十六年十二月五日

徵發令第四條其第三項ニ揭示アル町村トハ一村ヲ指示セラレタルモノニシテ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ案ヨリ一徵發區ト雖見做筋ト相心得居候處本年九月八日發兌官報第六拾號同指令欄内ヲ閱スルニ其聯合村一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ一村ト同視シ一徵發區トナスヲ得ルモノノ儀和歌山縣伺ニ伺之通ト御指令アリ果シテ然ルハ其聯合町村ニシテ一村ヲ於テ現在スル供給物即宿舎厨材料器具ノ類モ其聯合セシ故ヲ以テ他ノ町村ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルヲ得サル儀ニ有之儀相見ヘ前條第四條第三項(第十二條第四項以下各項及第十三條各項)町村トアル名稱ヨリ生スル同五條ノ明文ハ徒文ニ屬スルモノ、如ク被存候得共抑同縣(御指揮ノ儀ハ一戸長役場ノ管理ニ屬スル聯合町村ニシテ縱令ハ其經濟ヲ價ニシ町村會モ價ニ開設スル如キ其名ハ甲乙町村ニシテ其實一町村ヲ爲スノ類ニ適用スヘキ儀ニ付假令一戸長役場ノ管理ニ屬スルモ各其經濟ヲ異ニシ至ク甲乙町村ヲ爲スノ類ハ前段見解之通處分候儀ト心得可然哉此段相伺候也

指令 十六年十二月十八日

伺之趣取町村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ經濟ヲ價ニスルト否トニ拘ハラズ一徵發區ト看做スヘク其徵發物件ハ徵發令第五條明文之通其徵發區内ノ町村ニ現在スルモノニ限リ候儀ト可相心得候事

●徴發ノ儀ニ付新潟縣ヨリ海軍省ヘ伺 十六年九月八日
茲ニ甲申間ヲ往復スル漁船アリ本吐ヲ甲地ニ置キ乘客取扱所ヲ乙地ニ置ク若平時乙地ニ於テ之ヲ徴發セントスルハ
ハ徴發事務條例第八條ニ據リ取扱所ヘ課セラレ候儀ニ候哉

指令 伺之通 十七年一月廿二日

●徴發令第拾貳條第六項給船ノ儀ニ付新潟縣ヨリ海軍省ヘ伺 十七年一月九日

徴發令第拾貳條第六項ノ船舶並同事務條例附錄第五號ノ貳日本形船舶表ニハ農家ニ於テ耕作一途ニ用フル船モ含有
候哉

指令 十七年一月廿二日

伺之趣徴發令第拾貳條第六項並同事務條例附錄第五號ノ貳ノ船舶表ニハ含有不致事

●徴發事務條例第二十五條ニ依リ船舶取調ノ儀ニ付静岡縣ヨリ海軍省ヘ伺 十六年九月十
一日

徴發事務條例第二十五條ニ依リ戸長ニ於テ取調ヲ要スル船舶ノ儀ハ其所有者申付ニアリト雖モ其村ヲ定縣場ト定ム
ルモノ有之依テ所有者アル町村ニ於テ取調フルハ船舶ノ現在ニ非スシテ所有者ノ現在ニ似タリ實際ノ便ヲ得ル
能ハス徴發令第五條ニ徴發スヘキモノハ徴發區内ニ現在スルモノニ限ルトアリ候之考フレハ該取調ノ儀ハ船舶ノ現
在定縣場ノ町村ニ於テ取調候下相心得可然哉

指令 伺之通 十七年一月廿二日

●徴發費ノ儀ニ付福岡縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年七月廿八日

徴發令第八條ニ因リ便宜ノ方法ヲ制定スル時ハ其便宜方法ノ爲メニ費用ヲ要スル場合假令ハ畝十石ノ米麥ヲ徴發セ
ラルニ當リ迅速其供給ヲ完全ニスル爲メ時價ノ平均價ヨリ貴キ時ト雖モ米麥商一人若シクハ二人ニ賦課シテ供給
セシメ時價ノ貴キカ爲メニ紫ソタル損失ハ徴發區ノ負擔トシテ之ヲ賸價スル等ノ費用ノ如キモノハ同令第三十條ニ
云フ所ノ輸送費ノ外ニ徴發區内ニ賦課シ得ル後ト相心得可然乎果シテ然ラハ其賦課額ヲ總納スル者アリタルハ輸

送費同様處分取計可然乎

指令 十八年九月十四日

伺ノ趣平均價ト時價トノ差額賸價ノ儀ハ徴發令第八條ノ例ニ從ヒ地方ノ便宜ニ依リ豫定シタル方法ニ由リ一定
スヘキモノニシテ其費用ヲ徴發區内ニ賦課スルモ不苦其費用ノ總納者處分ノ儀ハ伺ノ通

●沿革要領

明治六年三月第百十六號布告ヲ以テ非常出兵並ニ戍兵交番ノ節隣村人馬糧立方章程ヲ定ム
十五年八月第百四十三號布告ヲ以テ徴發令ヲ定ム

〔第百廿二〕 徴兵令 明治十六年十二月二十八日 第四拾六號布告

徴兵令別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徴兵令

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リ

タル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

十五年第三十七號布告ヲ以テ法律規則中
戰時ト稱スルハ外忠又ハ内
亂アルニ際シテ定
ムル旨ヲ令ス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス
第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齡二十歲ニ滿タスト雖モ滿十七歲以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ

減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校ヲ除クノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰事若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰事若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人
第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟

一人

第三項 戸主年齢満六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫
第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徴集ヲ猶豫ス

第一項 改正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以

内徴集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏判任以上及ヒ戸長

第二項 教導職試験補ヲ除ク

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徴集ヲ猶豫スルコトアル可シ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徴集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齢六十歳未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシ

ヲ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主廢疾又ハ不具等ニシ

テ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齢六十歳未滿ノ者廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自届出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從テ其軍管ニ從テモノヲ軍管徵兵區ト爲

シ師管ニ從テモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從テモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシ

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ擧クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一箇年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス
補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人戸主ナレハ自身以下ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十

五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止メ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者戸主ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ檢査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先テ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃

亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セヌ又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日第四十一條ニ掲クヨリ起算ル者ハ入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍管師管

國 名

第 一 第	武藏ノ内	勸野區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 南多摩郡 北多摩郡 久長坂郡 橋本郡 都筑郡 新坐郡 入間郡 高麗郡 比企郡 相模 甲斐 伊豆 上野 横見郡 秩父郡 児玉郡 那珂郡 賀美郡 大里郡 榛郡 榛澤郡 明倫郡
-------	------	--

一	信濃ノ内	南佐久郡 北佐久郡 小縣郡 埴科郡 更級郡 上高井郡 下高井郡 上水内郡 下水内郡
	武藏ノ内	本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 南葛飾郡 北葛飾郡 南足立郡 北足立郡 東多摩郡 西多摩郡
二	陸前ノ内	仙臺區 名取郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡
	陸前ノ内	宮城郡 黒川郡 加美郡 志田郡 玉造郡 遠山郡 栗原郡 登米郡 本吉郡 桃生郡 牡鹿郡 氣仙郡 陸中 陸奥 羽後
三	尾張ノ内	名古屋區 愛知郡 津島郡 中島郡 信濃ノ内
	三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内	東筑摩郡 西筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡 海東郡 海西郡 知多郡 南牟婁郡 北牟婁郡 南牟婁郡 北牟婁郡
四	尾張ノ内	東春日井郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登 越中 飛騨 越前
	攝津ノ内	東區 西區 南區 紀伊ノ内
五	河内 和泉 近江 伊賀	和歌山區 名草郡 海部郡 那賀郡 伊都郡 八咫郡 東成郡 住吉郡 有田郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡
	攝津ノ内	神戶區 西成郡 島上郡 島下郡 豐島郡 能勢郡 八咫郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡 播磨 淡路 若狹 丹波 丹後 但馬
六	美作 備前 因幡 伯耆	
	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	
七	阿波 讃岐 伊豫 土佐	

第七	第六	第五	第四	第三	第二	第一
渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千島	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩				

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス

徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

○徵兵事務條例ヲ定ム 明治十七年七月十九日 第拾八號布達

徵兵事務條例別冊ノ通相定ム 右布達候事

(別冊)

徵兵事務條例

第一章 徵兵事務官及ヒ其職掌

- 一 鎮臺後備軍司令官
- 二 營所後備軍司令官
- 三 府縣駐在官
- 四 郡區駐在官
- 五 醫官
- 六 府知事縣令
- 七 府縣兵事課長
- 八 郡區長

第二條 鎮臺後備軍司令官ハ其軍管内徵兵ノ事ヲ掌ル

第三條 營所後備軍司令官ハ其師管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ヲ巡行シ兵種ノ撰定簿冊ノ審査

兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集猶豫ニ係ル者ハ府知事縣令ト商議シ之ヲ裁決ス但鎮臺所在地ニハ營所後備軍司令官ヲ置カサルヲ以テ鎮臺後備軍司令官其職掌ヲ兼攝スルモノトス

第四條 府縣駐在官ハ其府縣内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際醫官及ヒ府縣兵事課長ト共ニ徵兵檢査所ヲ巡行シ壯丁檢査ノ事ヲ掌ル

第五條 郡區駐在官ハ其郡区内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調査ノ事ヲ掌ル

第六條 醫官ハ毎年新兵徵集ノ際一等軍醫以下軍醫試補以上ヲ以テ之ニ充ツ 一等軍醫ハ後備軍司令官ニ從ヒ府縣徵兵署ヲ巡行シ壯丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ檢査スルコトヲ掌ル 二等軍醫以下軍醫試補以上ハ府縣駐在官ト共ニ徵兵檢査所ヲ巡行ス其職掌一等軍醫ニ同シ

第七條 毎年新兵徵集ノ際前條條官員ノ外海軍將校ヲシテ後備軍司令官ノ事務ニ參セシムルコトアル可シ

第八條 府知事縣令ハ管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ニ於テ後備軍司令官ト商議シ徵集猶豫ノ裁決ヲ掌ル

第九條 府縣兵事課長ハ其府縣内徵兵ノ事務ヲ整理シ又毎年新兵徵集ノ際府縣駐在官ト共ニ徵兵檢査所ヲ巡行シ檢査ノ事務ヲ補助ス

第十條 郡區長ハ郡区内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調査ノ事ヲ掌ル

第十一條 毎年新兵徵集ノ際師管徵兵區ノ諸記録ハ後備軍司令官部書記ヲシテ之ヲ掌ラシム 檢査及ヒ抽籤ノ筆記ハ筆生ヲシテ之ヲ掌ラシメ身體檢査ノ記録ハ地方醫官ヲシテ之ヲ掌ラシメ又身體檢査ノ補助ヲ爲サシムルコトアル可シ

第十二條 徵集猶豫ノ事ニ係リ後備軍司令官ト府知事縣令ト商議整ハサルトキハ各其事由ヲ具シ陸軍卿ニ伺出可シ但

第十二類 軍事

後備軍司令官ハ其所管長官ヲ經由ス可シ

第二章 徵兵検査所及ヒ徵兵署

第十三條 壯丁ノ検査ヲ施行スル爲メ府縣管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ集合便宜ノ地ヲ撰ミ若干ノ徵兵検査所ヲ設ク可シ

第十四條 各府縣徵兵區ニ於テ其事務ヲ整理スル爲メ毎年新兵徵集ノ期ニ先チ府縣廳所在ノ地又ハ管内便宜ノ地ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ但一府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ毎師管ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ

第十五條 徵兵検査所及ヒ徵兵署ハ毎年新兵徵集中關クモノニシテ該事務竣レハ之ヲ閉ツ可シ

第三章 各自届出

第十六條 徵兵令第三十四條ノ届書ハ第一書式第三十五條ノ届書ハ第二書式第三十六條ノ届書ハ第三書式ニ據リ之ヲ認メ戸長ニ送付ス可シ但第三十五條ノ届書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一 徵兵令第七條ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

二 徵兵令第十七條第一項第二項ニ當ル者ハ事由ヲ記シタル詳細書第三項第五項ニ當ル者ハ第四書式ノ事由書及ヒ戸籍寫第四項并ニ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル者ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル爲メ徵集

猶豫ニ關スル者ハ事由ヲ記シタル詳細書及ヒ第五書式ノ醫師診斷書并ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以

上ノ保證書及ヒ戸籍寫重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫

三 徵兵令第十八條第一項ニ當ル者ハ辭令書寫第二項ニ當ル者ハ卒業證書寫及ヒ辭令書寫第三項第四項ニ當ル者ハ

學校長若クハ所屬長ノ證明書第七項ニ當ル者ハ地名校名及ヒ修業ノ學科并ニ入校ノ年月日等記載ノ書及ヒ公

使又ハ領事ノ證明書第八項ニ當ル者ハ檢察官ノ證明書第九項ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

四 徵兵令第十九條ニ當ル者ハ學科并ニ等級ヲ記シタル學校長又ハ所屬長ノ證明書

五 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ決裁書ノ寫

第十七條 各自届出ヲ爲スニ當リ戸主旅行又ハ外國寄留等ニテ届出ヲ爲ス能ハサルハ本人又ハ親族ノ者ヨリ届出可シ

第十八條 各自届出ヲ終ルノ後抽籤ノ前他ノ府縣ニ轉籍スル者ハ三日以内ニ舊任地新任地雙方ノ戸長ニ届出可シ

第四章 下調

第十九條 毎年九月一日以前戸長ハ各自届出ヲ爲ス可キ者ヲシテ徵兵令第三十四條第三十五條第三十六條ノ届出ヲ意

タラシメサル様注意ス可シ

第二十條 戸長届書ヲ領收セハ其町村ノ戸籍ニ照シ届出ノ者ナキヤ否ヲ調査シ國民兵入籍者ト徵兵相當者トヲ分チ徵

兵相當者ノ各自姓名ノ頭ニ記載シタル簡條并ニ事由書或ハ證書等相違ナキヤ否ヲ検査シ其届書ニ署名押印シ更ニ徵

兵令第七條第十七條第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者ト檢査ヲ受ク可キ者トヲ區別シ國民兵入籍者ノ届書ト共

ニ書類目錄ヲ添ヘ毎年九月二十五日迄ニ郡區長ニ送付ス可シ但徵兵令第三十五條但書ニ當ル者ハ戸長之ヲ調査シ其

族職業氏名任所誕生年月日及ヒ隊號ヲ記シ本條ノ書類ト共ニ郡區長ニ送付ス可シ

第二十一條 戸長ハ検査ヲ受ク可キ者ノ戸籍ニ基キ人別表^{第六}ニ製ヲ製シ各自届書ト共ニ郡區長ニ送付ス可シ但人別

表用紙ハ各自届出ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ下付ス可シ

第二十二條 各自届出ノ後身上ノ異動ヲ届出ルトキハ戸長之ヲ調査シ三日以内ニ郡區長ニ送付ス可シ

第二十三條 郡區長ハ戸長ヨリ送付スル所ノ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ點檢シ然ル後壯丁名簿^{第七}

式及ヒ壯丁異動名簿^{第八}ヲ製シ卷末ニ署名押印シ各自届書人別表其他諸書類ト共ニ十月十五日迄ニ之ヲ郡區駐在官

ニ送致ス可シ

第二十四條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿并ニ諸書類ヲ點檢シ其郡區内ノ壯丁中遺漏或ハ差違ナキヤ否

ヲ調査シ又人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ點檢シ訂正加書シ然ル後名簿ノ卷末ニ署名押印シ諸書類ト共ニ

郡區長ニ送付ス可シ

第二十五條 郡區長ハ郡區駐在官ヨリ送付スル所ノ名簿ニ各自届書人別表其他諸書類ヲ添ヘ十月二十五日迄ニ之ヲ府

縣廳ニ送付ス可シ

第二十六條 壯丁名簿調製ノ際郡區長ハ人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ點檢シ訂正加書ス可シ

第十二類 軍事

第二十七條 寄留地ニ於テ徵集ニ應シ又ハ検査ヲ受ケント欲スル者ハ該部内ノ者ト混セサル爲メ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ本籍地ニ於テハ他府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ別簿ニ作ル可シ

第二十八條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿整頓前第二十二條ニ據リ身上ノ異動屆書ヲ戸長ヨリ差出ストキハ之ヲ調査シ名簿ヲ訂正ス可シ若シ名簿整頓後ニ係ルトキハ府縣廳又ハ徵兵署或ハ検査所ニ送ル可シ但徵兵令第三十四條ノ各自届出後身上異動ノ屆書ハ三日以内ニ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十九條 他府縣ニ籍ヲ轉スルノ異動屆書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ差出シ該廳ヨリ新任地府縣廳ニ通牒ス可シ

第三十條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿等ヲ府縣廳ニ差出シタル後國民兵入籍者ノ屆書ニ據リ國民兵名簿式ヲ調製シ卷末ニ署名押印シ各自屆書ト共ニ十月三十日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第三十一條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿ヲ點檢シ其郡區内ノ國民兵入籍者ノ遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然後卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付シ郡區長ハ各自屆書ト共ニ十一月十日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第五章 徵兵配當

第三十二條 毎年徵集ス可キ陸軍新兵ノ員數ハ陸軍卿之ヲ告示シ海軍新兵ノ員數ハ海軍卿之ヲ告示ス可シ

第三十三條 鎮臺司令官ハ其告示ニ基キ後備軍司令官ヨリ差出ス所ノ人員ヲ率トシ軍管徵集人員配當表式ヲ作り之ヲ陸軍省ニ開申シ又管内府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ府縣廳ニ於テハ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第六章 検査準備

第三十四條 府縣廳ニ於テハ毎年十一月一日ヨリ徵兵署ヲ開設シ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生出頭シ徵兵検査ノ準備ヲ爲ス可シ

第三十五條 府縣廳ニ於テハ各自屆書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査シ戸籍帳ト照較シ遺漏又ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然後徵兵署ニ送致ス可シ

第三十六條 府縣駐在官ハ府縣廳ヨリ徵兵署ニ送ル所ノ諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ調査シ又壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ニ應ス可キ者ノ總人員ヲ管所後備軍司令官ニ差出ス可シ但管所後備軍司令官ハ之ヲ一師管ニ取捨メ額定後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第三十七條 府縣駐在官ハ前條書類調査ノ後府縣兵事課長ト商議シ管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ検査所并ニ巡回日割ヲ定メ其表面式^{第十一}ヲ製シ後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ府縣兵事課長ハ府知事縣令ニ之ヲ開申ス可シ

第三十八條 検査所并ニ巡回日割已ニ定マルトキハ府縣廳ヨリ郡區長及ヒ戸長ニ達シ戸長ハ之ヲ其町村内検査ヲ受ク可キ者ニ達シ翌キ徵集ノ日時ニ至レハ壯丁ヲ引繼メ指定ノ場所ニ出頭ス可シ

第三十九條 府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ人別表ニ基キ検査表式^{第十二}ヲ製セシメ検査ノ席ニ備ヘ置ク可シ但検査表用紙ハ検査ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第四十條 壯丁中疾病處刑又ハ逃亡失踪等ニテ検査所ニ出頭セサル者アルトキハ戸主或ハ親族ノ者ヨリ逃亡失踪等ノ者ハ其事由書ニ戸長ノ與書證明應兵部若クハ警察署ノ證明ヲ受ケ疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書^{第五}處刑中ノ者ハ刑名宣告書寫ヲ以テ郡區長ヲ經テ徵兵検査所ニ届出可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ其家ニ就キ之ヲ検査シ若クハ他ノ検査所ニ出頭セシムル等府縣駐在官府縣兵事課長商議シテ之ヲ處分ス可シ

第四十一條 徵兵検査所ニ於テ領收スル所ノ諸書類書ハ府縣駐在官府縣兵事課長ト商議シ之ヲ處分シ壯丁名簿壯丁異動名簿ニ訂正ヲ加ヘ若シ處分スルコト能ハサルモノ或ハ成規外ニ係ルモノハ意見書ヲ添ヘ之ヲ巡回ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第七節 検査

第四十二條 検査ハ概テ十一月十日ヨリ始メ第三十四條ニ掲クル所ノ諸員徵兵検査所ヲ巡回シ其事務ヲ調理ス

第四十三條 戸長ヨリ検査ノ達ヲ受ケタル者ハ戸長ニ從ヒ指定ノ日時ニ其場所ニ出頭シ府縣駐在官府縣兵事課長ノ面前ニ於テ身體ノ検査ヲ受ク可シ

第四十四條 身體検査ヲ爲ストキハ郡區駐在官郡區長列席シ郡區駐在官ハ壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ノ部ニ記載シタル順序ニ壯丁ヲ呼出シ醫官ハ徵兵検査規則ニ據リ體格ヲ検査シ合格ノ者ハ更ニ其體格ノ等位ヲ區別ス不合格ノ者

第十二類 軍事

及ヒ身幹四尺九寸未滿ノ者ハ地方醫員ヲシテ之ヲ検査表ニ記註セシメ醫官之ニ捺印シテ府縣駐在官ニ差出ス可シ但四尺九寸未滿ノ者及ヒ不合格者ノ骨相ハ検査表ニ記註スルヲ要セス唯其尺度并ニ骨相ノ部ニ主任ノ醫員捺印ス可シ

第四十五條 壯丁ノ身體検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵車課長ト共ニ人別表ニ據リ本人ニ姓名任所族職業父兄ノ姓名等相違ナキヤ否ヲ尋問ス可シ

第四十六條 人別表調査ノ後府縣駐在官ハ検査表ニ據リ重生ヲシテ人別表中身幹尺度ノ區畫ニ各自ノ寸尺ヲ記註セシメ又疾病缺損又ハ身幹四尺九寸未滿ノ者ノ備考區畫ニハ何ノ事故ニ付徵集猶豫疾病缺損ニ付除役等其要領ヲ記註セシム可シ

第四十七條 壯丁中癩痢狂病白痴夜盲瘰癧遺尿等ノ如キ疾病アリ其狀ヲ申告セントスル者ハ平素其病狀ヲ豫知スル近隣ノ戸主二人以上ノ證書ヲ添テ検査所ニ申出可シ醫官ニ於テ相違ナシト認定スルトキハ之ニ與書證印ス可シ若シ認定スルト能ハサルトキハ府縣駐在官ニ致ス可シ駐在官ハ之ヲ徵集ノ部ニ加フ可シ

第四十八條 壯丁ノ身體検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵車課長ト共ニ合格又ハ不合格或ハ徵集猶豫ノ要領ヲ壯丁名簿壯丁異動名簿中ノ各自姓名ノ頭ニ記註ス可シ

第四十九條 身體検査終ルタル後郡區長ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ撰ハシメ其姓名任所ヲ府縣兵車課長ニ通牒ス可シ

第五十條 府縣駐在官ハ人別表備考區畫ヲ案シ訂正ヲ加フ可キモノハ之ヲ加ヘ醫官ニ謀リ身體最モ健全ニシテ近衛兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ近衛何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十一條 府縣駐在官ハ壯丁ノ職業ニ注意シ海軍兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ海軍何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十二條 府縣駐在官ハ合格者ノ人別表及ヒ検査表ニ照シ各自ノ身材藝能職業ニ應シ徵メ兵種ヲ區別ス可シ

第五十三條 近衛諸兵ハ總テ品行方正ニシテ且體格最健全ナル者ヨリ之ヲ撰フ可シ其身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵砲重兵ハ五尺二寸以上ノ者ヲ以テ之ニ充テ仍ホ不足スルトキハ臨時其定尺ヲ減スルコトアル可シ

第五十四條 鎮臺ニ屬スル兵諸ノ身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵砲重兵ハ五尺三寸以上ノ者タル可シ若シ不足スル兵ハ砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵砲重兵ハ五尺二寸以上ノ者ヲ以テ之ニ充テ仍ホ不足スルトキハ臨時其定尺ヲ減スルコトアル可シ

第五十五條 陸軍雜卒又ハ職工トシテ徵集スル者ハ身幹五尺以上ニシテ雜卒又ハ職工ノ勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シト雖モ若シ所要ノ人員不足スルトキハ其體格五種兵ニ亞ク者又ハ身幹四尺九寸以上ニシテ各其勤務ニ堪フ可キ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第五十六條 海軍兵ハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ撰フ可シ其身幹水兵火夫ハ五尺以上ヲ定尺トス

第一項 航海學又ハ機關學卒業ノ者

第二項 西洋形船舶ニ乘組ノ者

第三項 漁車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者

第四項 現ニ前諸項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上醫テ之ニ從事セシ者

第五項 日本形五百石以上ノ船舶ニ乘組ノ者

第六項 日本形五百石未滿ノ船舶ニ乘組ノ者

第五十七條 海軍職工トシテ徵集スル者ハ身幹四尺九寸以上ニシテ其勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第五十八條 兵種ノ區別已ニ竣レハ府縣駐在官ハ府縣兵車課長ト共ニ壯丁名簿壯丁異動名簿人別表検査表其他一切ノ書類ヲ取纏メ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第八章 抽籤準備

第五十九條 營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ノ報告ニ據リ一府縣ノ徵兵検査事務完了ノ日時ヲ量リ巡回日割表ヲ作リ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ之ヲ鎮臺司令官ニ開申シ又其巡行ス可キ府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第六十條 府縣廳ニ於テハ後備軍司令官ノ通牒ニ據リ其日時場所ヲ抽籤總代人ニ達シ出頭セシム可シ

第六十一條 抽籤施行ニ先テ府縣兵事課長ハ徵兵者ニ於テ筆生ヲシテ籤丁名簿及ヒ籤札ヲ圖製セシメ抽籤ノ席ニ備ヘ
置キ又其府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種現役補充ノ徵員ヲ記載セシメ之ヲ抽籤場所ニ揭示ス可シ
第六十二條 籤丁名簿ハ籤丁ノ姓名住所ヲ記シ又籤札ハ左式ノ如ク厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ切リ之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ
拵リ合格者ノ數ニ應ジ圖製スヘシ

近衛(鎮臺)
(海軍)
何兵第何番

第六十三條 後備軍司令官ハ府縣巡行期日ニ至レハ徵兵署ヲ巡行シ壯丁名簿壯丁異動名簿其他諸書類ノ成現ニ適スル
ヤ否ヲ審査ノ上捺印シ又徵集猶豫ニ關スル書類ハ府知事縣令ト商議シ成規ニ照シテ之ヲ處分ス可シ

第六十四條 後備軍司令官ハ抽籤施行ニ先テ徵兵令第四十一條ニ當ル先入兵同令第四十條ニ當ル入管延期ノ者及ヒ同令
第十條ニ當ル志願兵ヲ調査シ現役兵編入ノ順序ニ從ヒ現役番號ヲ附ス可シ

第九章 抽籤

第六十五條 抽籤ハ後備軍司令官府知事縣令府縣駐在官府縣兵事課長郡區長及ヒ郡區駐在官列席シ徵集人員配當表ニ
基キ近衛諸兵種諸兵及ヒ海軍諸兵ヲ區別シ雜卒職工亦其種類ヲ分チ之ヲ行フ可シ

第六十六條 抽籤總代人ノ抽キタル籤ヲ確證スル爲メ籤簿掛ハ其籤ヲ總代人ヨリ領收シ籤丁名簿姓名ノ頭ニ貼付シ徵
兵署ノ刺印ヲ押シ然ル後總代人ニ返付ス可シ

第六十七條 抽籤施行ノ際後備軍司令官ハ書記ヲシテ人別表ニ番號ヲ記入シ又籤簿第十四ヲ圖製セシム可シ
籤簿ハ兵種ヲ分チ當番番號ノ順序ヲ以テ登記シ卷末ニ籤簿掛署名押印ス可シ但籤簿ハ別ニ一部ヲ作リ府縣廳ニ備ヘ
置ク可シ

第六十八條 抽籤施行ノ後徵兵者ニ於テハ人別表ニ據リ番號割符第十五ヲ作リ籤簿ニ引合セ徵兵者ノ刺印ヲ押シ籤札

ニ照シ抽籤總代人ニ交付ス可シ但抽籤總代人ハ受領證書第十六ヲ差出ス可シ

第十章 簿冊表面圖製

第六十九條 抽籤簿ルノ後徵兵署ニ於テ左ノ名簿ヲ作ル可シ

- 一 除役名簿
- 二 徵兵令第七條及ヒ第十六條ニ當ル者ノ部類ヲ分チ第十七書式ニ據リ登記ス
- 三 徵集猶豫名簿
徵兵令第十七條第十八條第十九條及ヒ第二十一條ニ當ル者ノ部類并ニ條目ヲ分チ第十八書式ニ據リ登記
ス但同令第十八條第五項及ヒ第六項ニ當ル者ハ年度ヲ分チ別冊ニ登記ス
- 四 先入兵不登名簿
- 五 徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ其年検査ヲ受ケサル者ヲ第十九書式ニ據リ登記ス
- 六 入管延期不登名簿
- 五 一年志願兵名簿
- 六 近衛現役兵名簿
- 七 鎮臺現役兵名簿
- 八 海軍現役兵名簿
- 九 近衛補充員名簿
- 十 鎮臺補充員名簿
- 十一 海軍補充員名簿
- 十二 現役兵検査名簿
- 十三 補充員検査名簿

右九名簿ハ番號ノ順序ニ從ヒ兵種及ヒ部類ヲ分チ人別表及ヒ檢査表ヲ以テ編製ス

第七十條 前條ニ掲クル名簿ハ各二部ハ一部ハ檢査名簿ヲ作リ卷末ニ後備軍司令官府知事縣令署名押印シ一部ハ府縣廳ノ原簿トシ一部ハ府縣徵兵表ト共ニ後備軍司令官之ヲ領收ス可シ

第七十一條 抽籤竣ルノ後徵兵者ニ於テハ府縣徵兵表一書式^{第二十}ヲ作リ又師管内徵兵事務全ク竣レハ後備軍司令部ニ於テ府縣徵兵表ヲ以テ師管徵兵表ヲ編製シ第六十九條ニ掲クル所ノ諸名簿并ニ一師管ノ徵兵景況書及ヒ書類目錄ヲ添ヘ營所後備軍司令官ハ領收後備軍司令官ヲ經テ鎮守司令官ニ提出ス可シ

第七十二條 鎮守司令官ハ前條ノ名簿諸書類領收ノ後師管徵兵表ヲ以テ軍管徵兵表ヲ編製シ徵兵景況書ヲ添ヘ五月十日迄ニ之ヲ陸軍省ニ送致シ近衛兵名簿海軍兵名簿ハ四月一日迄ニ直ニ近衛局或ハ海軍省ニ送致ス可シ

第七十三條 國民兵名簿ハ壯丁名簿調査ノ原簿タルヲ以テ之ヲ府縣廳ニ備ヘ置キ二十歳以下ノ者ノ年齢二十歳ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ訂正ヲ加フ可シ

府縣廳ハ國民兵名簿ニ從ヒ毎年十二月一日調ヲ以テ國民兵人員表^{第二十}ヲ製シ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ陸軍省及ヒ領收ス可シ

第二十二條 翌年一月三十一日迄ニ之ヲ陸軍省及ヒ領收ス可シ

第十一章 現役兵ニ編入順序

第七十四條 現役兵ニ編入ノ順序左ノ如シ

- 一 徵兵令第四十一條ニ當ル者
年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從フ
- 二 徵兵令第四十條ニ當ル者
第一項ノ者ニ亞キ年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從フ
- 三 徵兵令第十條ニ當ル者
第二項ノ者ニ亞キ年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從フ

四 現役當籤ノ者

第三項ノ者ニ亞キ當籤番號ノ順序ニ從フ

五 補充當籤ノ者

步兵ニ在テハ師管徵兵區内其他ハ軍管徵兵區内ニ平均シ當籤番號ノ順序ニ從フ

第七十五條 步兵ノ補充員不足シ師管徵兵區内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ營所後備軍司令官ハ鎮守後備軍司令官ヲ經テ鎮守司令官ニ上申シ鎮守司令官ハ他ノ師管ヨリ之ヲ充實シ又他兵ノ補充員不足シ軍管内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ鎮守司令官ヨリ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第十二章 新兵入營ノ扱

第七十六條 現役當籤ニ當リタル者ハ入營ノ命ヲ待ツモノナルカ故五日間ニ往復スル能ハサル地ニ出ルヲ許サス

第七十七條 新兵ハ概テ毎年四月二十日ヨリ五月二十日迄ニ入營セシム可シ

第七十八條 新兵入營ノ日時及ヒ場所ハ毎年近衛局鎮守又ハ鎮守府ヨリ府縣廳ニ通牒シ府縣廳ハ速ニ其旨ヲ入營ス可キ者ニ達セシメ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 鎮守兵ハ其員數及ヒ入營地ニ應ジ最寄ヲ分チ所要ノ附添人ヲ附シ入營地ノ後備軍司令部ニ出頭セシム可シ

二 近衛兵及ヒ海軍兵ハ一府縣ニ二人若クハ二人ノ附添人ヲ附シ近衛局或ハ鎮守府ニ出頭セシム可シ

第七十九條 新兵入營地迄ノ旅費并ニ附添人ノ旅費ハ定則ニ照準シ大藏省ヨリ支給ス可シ

第八十條 新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等ノ故ヲ以テ入營延期ヲ願フ者ハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ(其重病ハ醫師ノ診斷書^{第五}ヲ添ヘ)戸長郡區長與書証印シ郡區駐在官ヲ經テ府縣廳駐在官ニ出頭ルニ於テハ陸軍省ノ上十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第八十一條 前條ノ延期ヲ許セシトキハ府縣廳駐在官ハ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ通牒ス可シ

第八十二條 入營延期ノ許可ヲ得タル者期滿ツレハ即日戸長ニ届出戸長ハ直ニ出發セシメ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ通牒ス可シ

第十二類 軍事

營地ノ後備軍司令部ニ届出ツ可シ

第八十三條 新兵入營ノ期ニ臨ミ其身疾病犯罪等ニテ入營シ難キ旨戸長ニ届出ルトキハ戸長與書證印シ郡區長ヲ經テ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ尤モ疾病延ヒテ十五日以上ニ及フ者ハ最初届出ノ日ヨリ三十日毎ニ届出其年九月一日ニ至ルモ事故尚止マサル者ハ本人所持ノ番號刺符ヲ添ヘ同月十五日限リ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ届出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第八十四條 新兵入營前甲府縣ヨリ府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ即日戸主ヨリ甲府縣戸長ニ届出戸長ハ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ届出可シ又乙府縣ニ到着スルトキハ前同様ノ手續ヲ以テ番號刺符ヲ添ヘ届出可シ然ルトキハ甲府縣ノ當該番號ヲ存シ他日入營ノ時ニ至リ乙府縣同番號ノ者ニ次テ入營セシム可シ但本人ヨリ轉籍又ハ全戸寄留ノ旨ヲ甲乙府縣ノ郡區駐在官ニ届出可シ

第十三章 歸休歸省

第八十五條 徵兵令第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルハ抽籤以前該條項ニ當ル者ニ限ル但戸主若クハ父兄等死没シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ癩疾不具等トナリ本人ヲ要スルニアラザレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ抽籤ノ上郷里ニ歸休セシメ又ハ第一豫備徵兵ニ編入ス

抽籤後養子又ハ他家ノ相續人トナリ前項ノ事故ヲ生スルモ除議ニ及ハス

第八十六條 前條但書ニ當ル者ハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ其事由ヲ詳記シ戸籍寫者クハ刑名宣告書寫者クハ醫師診斷書第五并ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以上ヲシテ事實ヲ證シシメ戸長郡區長與書證印ノ上郡區駐在官ヲ經テ府縣廳駐在官ニ呈出シ該官ハ後備軍司令部ヲ經テ近衛局鎮守府或ハ鎮守府ニ申陳シ近衛局鎮守府ハ陸軍省ニ鎮守府ハ海軍省ニ關申ス可シ但癩疾不具等ノ者ハ陸軍海軍醫官ヲシテ地方醫師診斷書ノ當否ヲ判定セシメ又ハ府縣駐在官及ヒ其地陸海軍醫官ヲシテ其家ニ就キ検査セシムルコトアル可シ

第八十七條 前條ノ者生兵或ハ二等若水兵若クハ二等若火夫ノ卒業後ナレハ郷里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ之ヲ

第一豫備徵兵ニ編入ス

第八十八條 近衛兵ニシテ前條ニ據リ歸休セシメ又ハ第一豫備徵兵ニ編入スル者ハ近衛局ヨリ本籍所管ノ鎮守府ニ通牒シ該鎮守府ノ管理ニ屬ス可シ

第八十九條 現役兵在營在艦中父母ノ重病或ハ死亡等ニテ歸省ヲ願フトキハ其戸主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ(其重病ハ醫師ノ診斷書^{第五}ヲ添ヘ)戸長ノ與書證印ヲ以テ直ニ本人所屬ノ鎮守府ニ願出ルニ於テハ除議ノ上往復ヲ除キ十四日以内ノ歸省ヲ許ス可シ尤モ旅費ハ自辦タル可シ但生兵二等若水兵二等若火夫ノ卒業ニ至ラス或ハ臨時ニ演習觀兵ノ學了ルトキ又ハ航海中ハ本條ノ限ニ在ラス^{十八年第十拾號布達ヲ以テ(戸長)}

第十四章 補充員及ヒ豫備徵兵

第九十條 補充員ハ臨時補充ヲ除クノ外額定ニ於テ毎年九月一日ノ現役兵缺員ニ應シ概テ十月二十日ヨリ同月三十一日迄ニ入營スルモノトス但近衛兵海軍兵ニ在テハ近衛局海軍省ヨリ所要ノ人員ヲ九月二十日迄ニ陸軍省ニ通牒シ陸軍省ハ之ヲ各軍管ニ賦課ス可シ

第九十一條 補充員入營ノ期ニ臨ミ疾病又ハ犯罪等ニテ入營スル能ハサル者ハ其事實ヲ詳記シ本人所持ノ番號刺符ヲ添ヘ(疾病ハ醫師ノ診斷書^{第五}ヲ添ヘ)速ニ戸長ニ届出可シ戸長ハ與書證印シ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ呈出ス可シ該廳ニ於テハ其次番號ノ者ヨリ順次ニ繰上ケ徵集人員ヲ充實シ入營セシメ其官ヲ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第九十二條 前條ノ事故ニ據リ入營セサル者ハ翌年徵集ノ期ニ當リ郡區長ニ於テ其名簿ヲ作り府縣廳ニ呈出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第九十三條 補充員ニシテ入營ヲ命セラレタル者其入營迄ノ扱ハ總テ現役當該者入營前ノ扱ト異ナルコトナシ

第九十四條 補充員ハ十日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ出ルヲ許サス然レトモ已ムヲ得サル事故ヲ生シ其日限ヲ越セル地ニ出テントトヲ欲スル者ハ事實并ニ往先ヲ詳記シ戸長郡區長ノ與書證印ヲ受ケ郡區駐在官ニ出願ス可シ

第九十五條 補充員ニシテ現役ヲ志願スル者ハ本人ノ願書ニ親族連署シ戸長郡區長ノ與書證印ヲ受ケ郡區駐在官ニ願

第十二類 軍事

出ルトキハ陸議ノ上當該番號ノ順序ニ拘ハラズ補充員徵集同時之ヲ入管セシム可シ

第九十六條 補充員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出戸長郡區長與番證印シ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ府縣駐在官ニ届出可シ

第九十七條 補充員ニシテ甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ第八十四條ノ例ニ據ル可シ

第九十八條 補充員ニシテ第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生シ徵集猶豫ヲ出願スル者ハ第八十六條ノ手續ニ據リ主務省ニ關申ス可シ但主務省ニ於テハ陸議ノ上第一豫備徵員ニ編入ス可シ

第九十九條 第一豫備徵員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出戸長ハ第九十六條ノ例ニ據リ之ヲ處分ス可シ

第一百條 第一豫備徵員ニシテ十五日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ旅行セント欲スル者ハ其往先ヲ詳記シ戸長郡區長ヲ經テ郡區駐在官ニ届出テ然後旅行ス可シ但其届書ニハ旅行中徵集ノ命アルトキハ直ニ之ヲ通牒ス可キ者ノ姓名住所ヲ記入ス可シ

第一百一條 徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員トナル者ハ其年四月二十日ニ至レハ別ニ命ナクシテ第二豫備徵員ニ編入セラレタル者ト心得可シ

第一百二條 補充員服役年期ノ計算ハ現役兵ト同シク四月二十日ヨリ起算シ第一豫備徵員服役年期ノ計算ハ其編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス可シ但第八十七條ニ當リ第一豫備徵員トナル者ハ其入管年ノ四月二十日ヨリ起算ス

第一百三條 徵兵令第十一條ニ據リ一個年間現役ニ服セシトシテ志願スル者ハ毎年九月一日ヨリ同月十五日迄ニ其願書ニ封シテ戸長ニ提出ス可シ月長ハ之ニ與事証印シ郡區長ヲ經テ十月一日限リ府縣廳ニ提出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第一百四條 志願者ハ當分ノ内各自ノ志望ニ由リ歩兵看護卒及ヒ看護卒ノ内ニ就キ其種類ヲ撰ビ出願スルコトヲ得

第一百五條 食料被服等ノ自辦金ハ一名金壹百圓ニシテ其現品ハ官ヨリ之ヲ支給ス但自辦金ハ二月一日迄ニ府縣廳ヲ經テ領還ニ納ム可シ

徵兵令第十一條第二項ニ據リ若干月ニシテ歸休ヲ命シタル者ニハ殘金返付ス可シ

第一百六條 志願兵ハ總テ現役當該者ト異ナルコトナシ

入管後第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生セシトキハ第八十六條及ヒ第八十七條ヲ適用ス可シ

第一百七條 歩兵志願者ハ各軍管ニ之ヲ編メ別段ノ教育ヲ受ケシメ看護卒看護馬卒志願者ハ各軍管ノ其部ニ屬シ教育ヲ受ケシム可シ

第一百八條 志願兵現役一個年ヲ終レハ六個年間豫備役ニ服ス可シ

第一百九條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪フ可キ者ニハ其適任證書ヲ付與ス可シ

又教育上拔群ノ結果ヲ得タル者ハ豫備下士ニ任レ士官適任證書ヲ付與ス可シ

第一百十條 志願兵検査所往復及ヒ入管歸郷ノ旅費ハ總テ自辦トス

第十六章 臨時徵兵事務

第一百十一條 戰時若クハ軍變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ徵集ス可シ

一 徵兵令第四十條ノ事故止ミタル者

二 補充員

三 第一豫備徵員

四 徵兵令第十七條ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者

五 第二豫備徵員

第一百十二條 豫備徵員ハ年次ヲ逐ヒ服役日尚淺キ者ヨリ當該番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集シ又徵兵令第十七條ニ當リ徵

集ヲ猶豫セシ者ハ項目及ヒ當該番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

第百十三條 第百十一條第一項第二項第三項ニ掲クル者ヲ徵集スルノ手續ハ平常補充員ヲ徵集スルニ同シ

第百十四條 第百十一條第四項第五項ニ掲クル者ヲ徵集スルトキハ府縣廳ニ於テ臨時徵兵署ヲ設ケ徵集ノ準備ヲ爲ス可シ

第百十五條 臨時徵兵署ニ於テハ檢査所并ニ巡回日割ヲ定メ後備軍司令官及府知事縣令ニ開申ス可シ但府縣廳ニ於テハ戶長ヲシテ壯丁ヲ引續メ指定ノ日時場所ニ出頭セシム可シ

第百十六條 檢査所巡行ノ諸員ハ府縣廳在官醫官府縣兵車課長地方醫員及ヒ養生トス但郡區長郡區駐在官ハ檢査所ニ出頭シ同所ノ事務ヲ補助ス可シ

第百十七條 身體檢査政ルノ後府縣駐在官ハ臨時徵兵署ニ於テ府知事縣令ト商議シ徵兵令第十七條ニ當ル者ハ各項目ニ番號ヲ分チ第二豫備徵員ハ各年度ニ番號ヲ分チ抽籤ヲ施行ス可シ

第百十八條 一府縣ノ臨時徵兵事務全ク竣ルノ後府縣駐在官ハ人別表檢査表ヲ點檢シ兵種及ヒ部類ヲ分チ人別表ハ臨時徵員明細名簿トシ檢査表ハ臨時徵員檢査名簿トシ籤簿ト共ニ營所後備軍司令官ニ差出シ該官ハ之ヲ一師管ニ取纏メ兵種ヲ分チ人員表ヲ製シ名簿ト共ニ鎮守後備司令官ヲ經テ鎮守司令官ニ差出シ鎮守司令官ハ其軍管人員表ヲ製シ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第百十九條 臨時徵兵事務ハ本章ニ揚クル諸條ヲ除クノ外定期徵兵事務ニ準シ便宜處分ス可シ

第百二十條 國民兵徵集スルノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十七章 雜則
第百二十一條 徵兵令第十條ニ據リ現役志願ノ者ハ其願書^{第二十二}戸長郡區長ノ與書^{第二十三}證印ヲ受ケ徵兵檢査所ニ出願ス可シ但檢査所ニ往復ノ旅費ハ合格者ニ限リ官給ス

第百二十二條 徵兵令第十七條第十八條第一項乃至第三項及ヒ第十九條ニ當ル者年齢滿二十七歲以下ニシテ現役ヲ志願スルトキハ前條ノ手續ヲ以テ徵兵檢査所ニ出願ス可シ但旅費ハ前條ニ同シ

第百二十三條 徵兵令第十一條及ヒ第十八條第二項ノ卒業證書ハ學期二個年以上ノ學校ニ於テ二個年以上ノ課程ヲ卒業タル證書ニ限ル

第百二十四條 徵兵令第十七條ニ當ル者ヲ徵集スルトキハ其項目ノ順序ニ從フ可シ

第百二十五條 徵兵令第十七條第一項及ヒ第二項ノ兄弟ハ同戶籍中ノ實兄弟ニ限ル

第百二十六條 徵兵令第十七條第一項ノ兄弟同時徵集ニ當リ檢査ノ上共ニ合格スルトハ情願ニ據リ一人ヲ猶豫ス可シ前項ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ケント欲スルトキハ各自届出ヲ爲ス年ノ八月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戶長ニ願出本籍戶長ニ届出可シ

第百二十七條 武官并ニ陸軍生徒ノ兄弟ハ徵兵令第十七條第一項第二項ニ據ルノ限ニ在ラス

第百二十八條 豫備兵後備兵召集中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄弟徵集ニ當ルトキハ徵兵令第十七條第二項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百二十九條 徵兵令第十七條第一項ノ現役兵ノ兄弟一人ハ徵集ヲ猶豫スヘント雖モ現役中ノ者其年四月現役滿期或ハ脱走中又ハ師管懲罰中ナルトキハ徵集ニ應ス可シ

第百三十條 徵兵令第十七條第十八條第十九條及ヒ第二十一條ニ當ル者七個年間に其資格ヲ失ヒタルトキハ徵集スト雖モ更ニ徵兵令第十七條及ヒ第十八條第七項ニ當ル者并ニ陸軍生徒トナル者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百三十一條 各自届出後即チ九月十六日以後ニ於テ徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項^{陸海軍生徒ヲ除ク}第十九條及ヒ第二十一條ニ當ルモ徵集猶豫ノ限ニ在ラスト雖モ翌年四月十一日以後九月十五日迄ニ該條項ノ名稱ヲ得タル者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百三十二條 徵兵令第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒業タル者ハ同令第三十一條ニ據リ第一豫備徵員ニ編入ス可キヲ以テ徵兵檢査時限ニ至レハ郡區長ヨリ其學校ニ通牒シ最寄ノ徵兵檢査所ニ出頭セシメ身體ノ檢査ヲ

第十二類 軍事

受ケシム可シ
第百三十三條 徵兵令第十八條第三項ニ掲ケタル官立大學校ニ準スル官立學校ハ左ノ如シ

- 一 工部大學校
- 二 農商務省動物札幌農學校

三 司法省法學校
第百三十四條 徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項第十九條第二十條第五項及第二十一條ニ當ル者其事故止ミタルトキハ學校長若クハ所屬長ヨリ本人所管ノ府縣廳ニ通報ス可シ

第百三十五條 徵兵令第十九條ニ掲ケル修業一一年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒トハ該校ニ於テ其課程ヲ卒リタル者ノミニ限ラス他ノ學校ヨリ入學レ一一年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ニ編入セラルタル者亦該條ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百三十六條 官吏 判任 及ヒ戶長ハ徵兵令第二十條第一項ニ據リ召集ヲ猶豫スト雖モ准官吏ハ該條項ニ據リ召集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第百三十七條 附籍戶主及ヒ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令第二十二條第一項ニ據リ徵集スト雖モ其戶主徵兵各自屆出期限即チ九月十五日以前ニ一戶ヲ設立スルトキハ徵兵令第十七條第三項及ヒ第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ但分家

レ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主ニシテ更ニ附籍シタル後別ニ一戶ヲ設立スルモ本條ノ限ニ在ラス
第百三十八條 徵兵令第二十二條第四項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ其戶主分家又ハ絶家廢家再興後廢疾不具

等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ
第百三十九條 徵兵令第二十二條第二項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ各自屆出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ前嗣

子承祖ノ孫若クハ相続人 同戶籍 中ノ者廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百四十條 徵兵令第二十二條第二項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其第六項ニ據リ戶主トナリタル者及ヒ其第七項

ノ戶主ハ徵集スト雖モ其徵集ニ應ス可キ年ノ一月迄ニ前戶主 同戶籍 中ノ者 已ニ六十歳ニ至ルカ又各自屆出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第百四十二條 徵兵令第十七條第三項第二十二條第三項及ヒ第七項ニ掲ケル六十歳又同令第二十二條第五項及ヒ第九項ニ掲ケル五個年ハ徵集ニ應ス可キ年ノ一月ヲ以テ分界ト爲ス可シ

第百四十二條 徵兵令第十八條第五項第六項ニ當ル者ハ事故ノ存スル間徵集猶豫ニ屬スト雖モ毎年檢査所ニ出頭シ身體ノ檢査ヲ受ク可シ

第百四十三條 徵兵檢査呼出又ハ入營ニ際スルトキハ民事訴訟ノ爲メ裁判所ノ召喚アリト雖モ檢査又ハ入營日時ヲ延期セズ

第百四十四條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第八十條第八十五條但書及ヒ第八十九條ニ當ル事故生スト雖モ陸議ニ及ハス

第百四十五條 徵兵令第十七條第四項及ヒ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ハ徵兵檢査所ニ呼出シ檢査ス可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ府縣駐在官醫官及ヒ府縣兵車課長其家ニ就キ檢査スルコトアル可シ

第百四十六條 前條ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ケント欲スルトキハ適齡者ノ各自屆出ヲ爲ス年ノ八月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戶長ニ願出本籍戶長ニ届出可シ

第百四十七條 徵兵令附錄後徵兵令第三十六條ニ當ル者ハ翌年之ヲ徵集ス可シ

第百四十八條 徵兵令第四十一條ニ當ル者其年疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營スルコト能ハスシテ九月一日ニ至ルモ事故尚止マサルトキハ翌年更ニ檢査ヲ遂ケ仍ホ先入兵トシテ徵集ス可シ

第百四十九條 徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ爾後同令第十七條第十八條 第四項第五項第六項 及ヒ第十九條ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ在ラス

第十二類 軍事

第五百十條 徵兵既行ノ地在籍ノ者ニシテ沖繩縣及北海道ノ内徵兵未行ノ地ニ轉籍シ更ニ他ノ府縣ニ寄留スル者ハ寄留地ニ於テ各自届出ヲ爲シ其本籍ノ者ト同シク徵集ニ應ス可シ

徵兵未行ノ地ニ單身寄留ノ者ハ本籍地ニ歸リ徵集ニ應ス可シト雖モ全戸寄留ノ者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第五百十一條 徵兵令第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ怠リ又ハ兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セサル者アルトキハ普通治罪法ノ手續ニ據リ之ヲ告發ス可シ

第五百十二條 徵兵者又ハ徵兵検査所ニ差出ス可キ願者ハ三通届書ハ二通徵兵者宛ニテ差出ス可シ

第十八章 附則

第五百十三條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十八條ニ當リ國民軍ノ外免役ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年検査時限内ニ在テ名籍ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ其第七年検査時限ヲ經過スル者ハ舊徵兵令ニテ處分セシ儘之ヲ名籍ニ据ヘ置ク可シ

第五百十四條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十九條第三十條第三十一條及ヒ第三十四條ニ當リ平時免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年検査時限内ニ在テ名籍ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ其第七年検査時限ヲ經過スル者ハ新徵兵令第三十二條ニ據リ第二條備徵員ト爲ス可シ

第五百十五條 現今豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ四個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム但定期ニ在ラズシテ臨時豫備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

第五百十六條 現今後備兵役中ノ者ハ最初後備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ五個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム但定期ニ在ラズシテ臨時後備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

シメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム
第五百十七條 舊徵兵令第三十六條ニ據リ第一豫備兵服役中ニシテ年齢二十七歳ヲ經過セシ者及ヒ現ニ第二豫備徵兵服役中ノ者ハ新徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員ト爲ス可シ

第五百十八條 新徵兵令第二十二條ノ諸項ニ當ル者ト雖モ其事柄ノ明治六年一月十日即チ徵兵令制定以前ニ係ル者ハ該條項ヲ以テ處分スル限ニ在ラズ

第五百十九條 明治十六年十二月迄ニ年齡滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第六十條第六十一條及ヒ舊徵兵事務條例第八十條ノ届出ヲ怠タル者明治十七年九月十五日迄ニ届出サルトキハ新徵兵令第四十三條ニ據リ處分ス可シ

(書式及表式等略之)
◎新徵兵令施行方 明治十六年十二月二十八日 陸軍省達甲第四拾四號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)ハ達

今般第四十六號布告徵兵令改正相成候處本年徵兵通諭即チ來十七年徵集ス可キ者ハ既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最早歸名簿整頓後ニ係ルヲ以テ十七年徵集ス可キ者ハ舊令ニ據リ徵集致シ新令第十一條第十七條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十五條第二項第三十條第三十一條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ來十七年通諭即チ十八年徵集ス可キ者ヨリ實施致候儀ト可心得此旨相達候事

◎賭博犯處分中徵兵猶豫方 明治十七年五月二十二日 陸海軍兩省達甲第三拾三號府縣(札幌根室沖繩ノ三縣ヲ除ク)ハ達

徵兵ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受ケ右處分中ハ徵集ヲ猶豫シ又其處分中常備年期ヲ經過スル者ハ年齡滿三拾二歳迄第二豫備徵員トスヘキ儀ト可心得此旨相達候事

◎陸軍徵兵事務取扱手續ヲ定ム 明治七年八月十五日 陸軍省達甲第三拾六號府縣(札幌根室沖繩ノ三縣ヲ除ク)ハ達

徵兵事務條例布達ニ付陸軍徵兵事務取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事
陸軍徵兵事務取扱手續
第二項 近衛局及ヒ鎮臺ハ十一月一日ノ現員ニ依リ翌年ノ所要徵員表ヲ製シ十一月十五日迄ニ之ヲ陸軍省ニ開申スヘシ

テ抽籤施行ノ後一人毎ニ之ヲ裁チ切テ總代人ニ付與スヘシ

第二十三項 徵兵事務條例第七十八條ニ掲クル附添人ノ割合ハ概テ新兵五人以上三十人未滿ノ一群ニハ附添人一名三十人以上ノ一群ニハ三十八人毎ニ二名ノ附添人タルヘシ

但四名以下ハ附添人ヲ要セス各自單行セシムヘシ

第二十四項 徵兵各自屆出期限ハ徵兵令第三十四條第三十五條及ヒ第三十六條第三十七條ノ如シト雖モ土地廣闊或ハ遠隔ノ島嶼ヲ管轄スル府縣ニ在テハ所管領署ト議シ其期限ヲ繰上クルモ妨ケナシ尤同令第二十三條揭示ノ項目ニ當ル徵集猶豫ニ關スル者ハ凡テ九月十五日ヲ以テ分界トスヘシ

第二十五項 徵兵令第十七條ノ項目ニ當ルモノニシテ同令第十八條若クハ第十九條第二十一條ニ當ル名稱ヲ併有スル者ハ尚ホ第十七條ノ名稱ニ從ヒ徵集猶豫名稱ニ登記シ又同令第七條ニ當ル者ハ之ヲ除役名稱ニ登記スヘシ

第二十六項 徵兵事務條例第十五條式ノ番號劃符ノ用紙ハ領章ニ於テ左ニ示ス雖形ノ如ク厚紙ヲ以テ之ヲ製スヘシ

第二十七項 徵兵事務條例第六條式ノ人別表用紙及ヒ第十二條式ノ檢査表用紙ハ府縣廳ニ於テ左ニ示ス雖形ノ如ク美濃紙半葉ニ之ヲ製シ又雖形圖面ノ身許度尺ヲ製シ檢査所及ヒ徵兵署ニ備ヘ置クヘシ

(番號劃符雖形及徵兵人別表檢査表雖形等略之)

○農商務省所轄東京商船學校生徒ハ海軍生徒ニ準ス 明治十七年八月廿五日
陸軍省達甲第三拾七號府縣へ達

農商務省所轄東京商船學校生徒ノ儀ニ付大政官ヨリ別紙之通御達相成候條爲心得此旨相達候事

別紙

陸軍省

農商務省所轄東京商船學校生徒ノ儀ハ海軍徵備員志願者ニ限ルヲ以テ徵兵令第十八條第四項海軍生徒ニ準シ候條此旨相達候事

明治十七年八月十一日

大政大臣三條實美

○郡區長壯丁名簿及壯丁異動名簿送致方 明治十七年九月六日
陸軍省達甲第三拾九號府縣(沖繩根室札幌ノ三縣ヲ除ク)へ達

徵兵事務條例第二十三條及第三十條ニ據リ郡區長ハ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ヲ製シ各自屆書人別表其他書類ト共ニ郡區駐在官ニ送付可致候ニ候處當分之内壯丁名簿壯丁異動名簿ノミ駐在官ニ送致シ該官ニ於テハ其名簿ノ卷末ニ署名押印シ郡區長ニ送付スヘキ儀ト心得此旨相達候事

○徵兵令第廿壹條ニ依リ徵集猶豫同出方 明治十七年十月十四日
陸軍省達甲第四拾四號府縣へ達

明治十六年十二月第四拾六號布告徵兵令第貳拾壹條ニ依リ徵集猶豫同出ノ節ハ本人履歷并其技術ニ係ル明細書ヲ添フヘシ此旨相達候事

○從前教導職タリシ者徵集又ハ召集猶豫方 明治十七年十一月十九日
陸軍省達甲第四拾八號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)へ達

本年第拾九號布達ヲ以テ教導職被廢候付テハ徵兵令第拾八條第壹項及ヒ第貳拾條第貳項ハ消滅ニ屬シ候處舊教導職タリシ者ハ其在職ノ時ノ等級ニ準シ徵集又ハ召集ヲ猶豫シ又明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿貳拾伍トナリタルモノニテ舊徵兵令ニ據リ既ニ教導職試驗以上ニテ國民軍外免役ニ處分セシモノハ其儘間クヘキ儀ト心得此旨相達候事

○舊徵兵令ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者其名稱ヲ罷メタル時屆出方 明治十七年十一月四日
陸軍省達甲第二拾號告示

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿貳拾伍トナリタル者ニシテ舊徵兵令第貳拾八條乃至第三拾壹條及ヒ第三拾四條ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者常備年期ノ第七年檢査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルハ更ニ徵集スヘキ儀ニ付本年九月十六日以後其名稱ヲ罷メタルハ新徵兵令第三拾六條ニ據リ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ此旨告示候事

但本文ノ届出ヲ爲サハルハ新徵兵令第四拾壹條及ヒ第四拾三條ニ據リ處分スヘキモノトス

○士官學校教導團生徒檢査合格ニテ未タ入校入團セサル以前徵兵檢査又ハ入營ニ際スルトキ取扱方 明治十七年十一月十三日
陸軍省達甲第四拾六號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)へ達

士官學校若クハ教導團生徒検査合格者ニシテ未タ入校入團ヲ命セサル以前ニ在テ徵兵検査又ハ入營ニ際スルハ尋常
徵集者同様可取此旨相達候事

但入營以前入校入團ヲ命スルモノハ其校團ヨリ府縣廳ニ照會シ入營迄ニ入校入團ヲ命セサルモノハ其府縣廳ヨリ其
旨ヲ近衛局鎮臺士官學校若クハ教導團へ通牒シ追テ入校入團之儀其校團ヨリ近衛局鎮臺へ照會スヘキ儀ト心得可シ

○嗣子承祖ノ孫及相續人ニテ舊徵兵令ニ據リ免役ニ屬シ新徵兵令頒布後名稱ヲ罷メ更ニ
免役ノ名稱ヲ得タルモノ處分方 明治十七年十二月四日 陸軍省達甲第四拾九號府縣(沖繩札幌根室)ノ三縣ヲ除クヘ達

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタルモノニテ適齡ノ當時舊徵兵令第貳拾八條第三項第四項若
クハ第貳拾九條第壹項ニ據リ嗣子承祖ノ孫及ヒ相續人ノ名稱ヲ有シ免役ニ屬シ新徵兵令發布後常備年期間ニ在テ戸主
隠居シ其跡ヲ繼キ戸主トナリ前戸主年滿六拾歳未滿ナルルハ徵兵事務條例第百五拾三條第百五拾四條前段ニ據リ徵集
スヘキ儀ニ候處本年各府縣徵兵抽籤ノ當日迄ニ免役名稱ヲ罷メ更ニ免役名稱ヲ得タルモノハ其當時屆出ヲ爲スモノト
否トナハス其儘免役ニ屬シ抽籤翌日以後ニ係ルモノヨリ新徵兵令第貳拾貳條第七項ニ據リ更ニ徵集スヘキ儀ト可心
得此旨相達候事

○軍用電信技手服役中ノ者徵集猶豫 明治十八年九月二日 陸軍省達甲第三拾八號府縣(沖繩札幌根室)ノ三縣ヲ除クヘ達
軍用電信技手服役中徵兵相當ノ節ハ徵集猶豫ニ屬スル儀ト可心得此旨相達候事

但本文ニ當ル者ハ徵兵令第三十五條ノ屆書ニ辭令書寫ヲ添ヘ爲差出徵兵事務條例第七書式其二第十八書式其二名稱
ハ附記スヘシ

○正當ノ故ナク徵集ニ應セス若クハ徵集ニ洩レタル者徵集方 明治十八年九月二十六日 陸軍省達甲第四拾貳號府縣(沖繩札幌根室)ノ三縣ヲ除クヘ達
正當ノ故ナク徵集ニ應セス若クハ徵集ニ洩レタル者ハ其時々當省へ經同ノ上處分致來候處自
ラ除クヘ達

今年齡滿四十歳迄ハ經同ヲ要セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○徵兵検査所諸費支辨方 明治十七年十一月二十日 內務大臣兩省第七拾四拾壹號府縣(沖繩札幌根室)ノ三縣ヲ除クヘ達
明治十三年十一月 內務省第七拾四拾貳號ヲ以テ徵兵下検査ニ係ル經費支辨方相達候處今般徵兵令改正ニ付テハ検査所へ
往復スル檢丁ノ旅費及ヒ検査所諸費ハ本廳經費ノ內徵兵費ヨリ支辨スル儀ト可心得此旨相達候事

○徵兵旅費定則ヲ定ム 明治十八年七月十七日 大藏省第四拾貳號府縣(沖繩札幌根室)ノ三縣ヲ除クヘ達
明治十五年三月陸軍省達甲第六號徵兵入費定則十八年度限リ相廢シ徵兵旅費定則左ノ通相定メ來十九年度ヨリ施行ス
右相達候事

徵兵旅費定則

第一條 檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄並ニ抽籤總代人検査所又ハ抽籤場へノ旅費往復六里旅行ヨリ一里ニ付金貳錢五
厘以割合ヲ以テ之ヲ給ス其支給方法ハ一検査所又ハ一抽籤場毎ニ打切り一里未滿ノ端數ハ切棄トス若シ同所ニ滞在
セシムルハ滞在日當金貳拾貳錢ヲ給ス

第二條 檢丁若クハ呼出ニ係ル父兄廢疾不具等ニシテ保護人ヲ要セザレハ検査所ニ出頭シ難キ場合ニ於テ該保護人ニ
給スル旅費並滞在日當額ハ前條ニ據ル

第三條 檢丁若クハ呼出ニ係ル父兄廢疾不具等ニシテ歩行シ難キモノハ第一條旅費日當ノ外一里ニ付金七錢ノ割ヲ以
テ車駕賃ヲ給ス

第四條 新兵入營ノ旅費ハ三里以上ヨリ一里ニ付金四錢ノ割ヲ以テ給シ若シ滞在セシムルハ滞在日當金貳拾八錢ヲ
給シ其附添人ハ一般旅費定則ニ據リ支給ス

第五條 新兵入營途中川留支那待若クハ病氣等ニテ延滞ノ片ハ其地郡區長又ハ戸長ノ證明書及醫師ノ診斷書アル者
ハ滞在日當ヲ給ス又疾病足痛等ニシテ歩行シ難ク車駕ヲ雇ヒタルトキハ醫師ノ診斷書及ヒ通運會社等ノ受取證書アル者
ル者ニ限リ其車駕賃ヲ給ス

但車駕實ノ申請ニハ入管附添人ノ證明書其附添人ナキ場合ハ沿道戸長ノ證明書ヲ付スヘシ

第六條 各團ノ便宜ニヨリ此定則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

○豫備軍後備軍編制條例ヲ定ム 明治十四年三月十九日 陸軍省達甲第八號府廳へ達

豫備軍及後備軍編制條例別冊之通相定候條此旨相達候事

(別冊)

豫備軍及後備軍編制條例

第一 豫備軍

第一條 豫備軍ハ戰時或ハ非常ノ事故アル時直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加ヘ戰時ノ人員ヲ充實シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ以テ常備諸隊ノ補缺ニ任スル者ナリ

第二條 豫備軍ハ戰時常備諸隊ノ缺員ヲ補充スルニ二種ノ法アリ

其一 常備諸隊ニ編入セシメ戰時ノ人員ニ充實スル者

其二 補充隊ニ編制シ常備諸隊ノ臨時缺員ヲ補充スル者

第三條 常備軍ニ編入セシメ戰時ノ人員ニ充實スルノ法ハ豫備軍ノ兵卒中服役日尚ホ淺キ者則チ初年二年ノ兵卒中ヨリ其增加ニ要スル人員ヲ採テ以テ常備ノ諸隊ニ編入セシムル者ニシテ步兵ノ聯隊ニ在テハ該師管内ノ兵卒ヲ以テシ他ノ諸兵隊ニ在テハ該軍管内ノ者ヲ以テス

第四條 戰時ニ當リ常備諸隊中ニ未ダ卒業セサルノ生兵或ハ不熟ノ兵卒アルハ補充隊ニ編入シ其訓練ヲ爲サシムルヲ以テ其補缺モ亦豫備軍ノ兵卒ヲ以テス

第五條 常備諸隊ノ臨時缺員則チ死傷等ノ缺員ヲ補充スルノ法ハ上條ニ示ス如ク豫備軍ノ兵卒ヲ以テ戰時ノ人員ニ充實スルノ後其剩餘ノ兵卒ヲ以テ隊伍ヲ編制シ一ノ補充隊ト爲シ常備諸隊ノ人員缺乏スルニ隨フテ漸次ニ該隊ノ兵卒ヲ編入セシメ其補充ヲ爲ス者トス

十五年第三十七號布告ヲ以テ法律規則中戰時ノ稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定タル旨ヲ令ス

第六條 常備ノ諸隊中ニ未ダ卒業セサルノ生兵或ハ新ニ召集スル新兵アリテ補充隊ニ編入セシムル時ハ特ニ缺員ノ補充ヲ爲スノミナラス其兵ノ訓練ヲモ望ムル者トス

第七條 補充兵ノ隊制ハ其兵種ニ由テ各差異アリ則チ步兵ニ在テハ大隊トシ他ノ諸兵ニ在テハ中隊或ハ小隊トス

第八條 補充隊ハ其軍管或ハ其師管諸隊ノ補充ニ任スルヲ以テ其隊稱ハ其屬スル常備諸隊ノ名號ヲ冠スル者トス則チ步兵ニ在テハ步兵第何聯隊補充大隊ト稱シ騎砲工ノ三兵ニ在テハ騎兵砲兵或ハ工兵第何大隊補充中隊ト稱ス則チ左表ノ如シ

砲兵ノ補充隊ハ豫備砲隊中ニ含有セシムルヲ以テ別ニ其名稱ヲ揭示セス

(各軍管補充諸兵隊員數等ノ表略之)

第九條 補充隊ハ前表ニ示ス如ク各定制ノ隊伍ニ編制スト雖モ步兵ニ在テ一中隊ノ人員二百五十名以上ニ及フ時ハ一大隊ヲ五中隊ニ編制スル者トス又其人員平時ヨリモ寡小ナル時ハ其期ニ臨ミ後備軍兵卒中服役日淺キ者或ハ第一線備役兵ヲ以テ之ヲ補足スルヲアルヘシ

第十條 常備諸隊ノ人員缺乏スルニ隨ヒ漸次之ニ編入セシムト雖モ補充隊ハ又生兵或ハ新募兵等ノ訓練ニ任スルヲ以テ其兵卒ノ凡三分一若クハ四分一ヲ殘シ步兵ハ其管所ニ他兵ハ其管下ニ駐屯セシメ以テ其幹部ト爲スヘシ

第十一條 常備諸隊中砲兵ハ戰時ト雖モ特ニ其人員ヲ增加セサルヲ以テ豫備軍兵卒總員ノ十分一ヲ採テ其補充隊ト爲シ其餘ノ兵卒ヲ以テ豫備砲兵隊ヲ編制シ其所要ニ應シテ師團砲兵隊或ハ海岸砲隊ト爲スヲアリ然レモ新兵等ノ訓練ノ爲メニ幹部ヲ置クハ他ノ諸兵ニ異ナルヲナシ

第十二條 豫備軍ノ兵卒ハ戰時常備ノ諸隊ニ編入シ或ハ其補充ヲ爲スヲ以テ平時ニ在テモ術科ノ復習ハ必ス其本隊ニ召集シ且縱令兵卒一軍管内ニ在テ他ノ師管ニ轉任スルモ戰時ハ勿論平時ノ復習モ常備軍ニ在テ服務スル本隊ニ召集スル者トス

第十三條 豫備軍ハ現役ノ將校下士ヲ以テ其艦員ニ充テ戰時補充隊ヲ編制スルニ方リ之ニ配屬ス其人員ハ常備ノ諸隊編制表ニ示スカ如シ只砲兵ヲ除クノ外他ノ諸兵ノ中隊ニ在テ小隊長中尉一名軍曹伍長各四名ヲ減シ半小隊長ヲ置カスル者トス

第十二類 軍事

サルヲ異ナリトス而シテ其編員ニ缺員アルハ後備軍編員條例第十一條ニ據リ後備軍編員中ノ者ヲ以テ補足ス

第二 後備軍

第十四條 後備軍ハ常備軍ノ後援ニシテ戰時或ハ非常ノ事故アル時直ニ之ヲ召集シ悉ク隊伍ニ編制ス又時宜ニ由リ該軍中服役日淺キ者ヲ撰ヒ豫備軍ノ缺員ヲ補充スルヲアツ

第十五條 後備軍諸兵ノ隊數ハ戰時ニ當リ多少増減アリト雖モ概テ常備軍ト同一ナリ故ニ步兵ニ在テハ一師管ニ一聯隊ヲ編制シ他ノ諸兵ニ在テハ一軍管ニ一二ノ大隊或ハ中隊等ヲ編制スル者トス則チ左表ノ如シ

(各軍管後備諸兵隊員數表略之)

第十六條 後備諸兵隊ノ編制ハ常備ノ諸隊編制表ニ示ス如シト雖モ其兵卒ハ現時ニ至リ多少ノ差異アルヲ以テ常備諸隊ノ如ク常ニ人員齊一ナル隊伍ニ編制スル能ハサル者トス

第十七條 後備軍兵卒ヲ以テ隊伍ヲ編制スルハ之ニ後備軍ノ編員ヲ配屬セシメ諸給養等ハ總テ常備ノ諸隊ト同一タルヘシ

第十八條 召集ノ順序ハ豫備後備二軍ノ召集條例ニ示ス如シト雖モ其集合ノ地ハ其期ニ當リ指示スルヲ以テ豫メ定メ難シ然レモ概テ步兵ハ師管營所ニ他ノ諸兵ハ臺下ニ召集スル者ナリ

第十九條 平時ニ在テ臨時ニ技藝復習ノ學アル時ハ各其所轄師管ノ後備軍司令部ニ召集シ其兵種ニ應シテ定規ノ隊伍ニ編制シ之ニ後備軍ノ編員ヲ屬シ以テ諸演習ヲ爲サシム

第二十條 凡豫備後備ノ二軍ハ戰時ニ非サレハ隊伍ニ編制セサルヲ以テ平時其編員ヲ屬スト雖モ常ニ之ヲ管轄セシメ步兵ニ在テハ師管ノ後備軍司令官他ノ諸兵ニ在テハ鎮臺所在ノ師管後備軍司令官之ヲ管轄シ其兵種ニ據リ二軍ノ編隊人員辦ヲ作リ時ヲ逐ヒ其人員ヲ點檢補足ス

第二十一條 本條例ハ豫備軍及ヒ後備軍編制ノ大綱ニシテ其細目及ヒ平時ノ事項ニ至テハ豫備後備二軍ノ召集條例並ニ後備軍司令部條例等ニ揭示スルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○徵兵令改正ニ付豫備後備兵服役中ノ者服役年限心得方

明治十七年三月四日 陸軍省達甲第拾五號府廳へ達

昨十六年十二月第四拾六號布告ヲ以テ徵兵令御改正相成候付テハ目下豫備兵及後備兵服役ノ者ハ同令第三條及第四條ニ據リ左之通可相心得此旨相達候事

一目下豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍へ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

但定期ニ非スシテ臨時豫備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

一目下後備兵服役中ノ者ハ最初後備軍へ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ五ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

但定期ニ非スシテ臨時後備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

○後備軍召集條例ヲ定ム

明治八年十一月八日 陸軍省達第百拾貳號府廳へ達

後備軍召集條例別冊之通相定候條此旨相達候事 (別冊)

後備軍召集條例

第一條 凡後備軍召集法ハ平時戰時共連ニ之ヲ召集シ得且隊伍ニ編制スルヲ容易ニシテ枝梧ナキヲ要ス爰ニ記載スル所ノモノハ概テ平時復習ニ當テ召集スルノ順序トス然レモ戰時ニ在テ召集スル法モ亦此例ニ據ル唯其緩急ヲ異ニスル而已

第二條 復習ノ爲メ第一後備兵ヲ召集シ之ヲ各隊ニ分配スルハ戰時ノ人員ニ適當スルヲ以テ別ニ隊伍ヲ編制スルヲナク營所或ハ分屯ノ地ニ召集シ戰時ノ人員トナシ復習セシムルヲ法トス最在營中ハ百車常備兵ト異ナルナシ

第三條 毎年ノ復習ハ二月ヨリ五月中便宜ヲ量リ陸軍卿ノ許可ヲ得テ之ヲ行フ而シテ其期限ハ概テ四週間乃至八週間ヲ以テ例トス然レモ時トシテ之ヲ變更セサルヲ得

但軍隊ノ都合ニヨリ八月ヨリ十月中ニ延期スルコトモアルヘシ

第四條 凡ソ復習ノ術科ハ左列ノ通ナルヘシ然ソト雖モ該軍司令長官ハ時宜ニ依リ之ヲ取捨スルコトヲ得ヘシ

(復習術科表略之)

第五條 第一後備兵ノ召集ハ凡ソ一ヶ月前ニ所管鎮守司令長官ヨリ其府縣ニ左ノ書柬ヲ以テ通報スヘシ

但料紙ハ美濃界紙ヲ用ユ第十三條第二十三條皆同シ

來ル何月何日ヨリ定例ノ通第一後備軍操練復習爲候條其管下同軍各兵ハ兼テ御布達可有之最召集手續詳細之儀ハ其府縣駐在曹長ヨリ該區長へ通達ニ可及候此段及御達候也

年號月日

府縣知事令宛

何鎮守司令長官
官 姓 名

第六條 召集ノ期ニ至レハ後備軍司令ハ該軍司令長官ノ命ヲ奉シ府縣駐在ノ曹長ニ達シ第一後備兵ヲ召集シムヘシ

第七條 駐在曹長ハ復習ノ期ニ於テ軍務極メテ緊副ナルキハ後備軍司令ノ許可ヲ得テ其地方後備兵ノ内元下士ニ服役シタル者一二名ヲ撰拔シテ助手トナスコトヲ得ヘシ

第八條 各駐在曹長其府縣下ノ兵員ヲ集合セシムル場所ヲ第一集合所ト云ヒ而シテ後備軍司令ノ許ニ集合スル場所ヲ第二集合所ト云フ

第九條 第一集合所ニ於テ復習中居民ノ倉庫或ハ家屋ヲ借受ケ各兵ノ略服及ヒ私服ヲ入ルヘキ用ニ供スヘシ

第十條 後備軍司令ハ豫メ鎮守司令長官ノ許可ヲ得テ武庫主管ヨリ武器ヲ請取リ後備兵到着ノキ分與スヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十一條 後備軍司令ハ召集ノ兵員ニ應シ通行免狀ヲ製シ豫メ駐在曹長ニ渡シ置ヘシ

第十二條 後備軍司令ハ召集ニ先チテ各營所ニ分配スル兵員ヲ豫算シ一府縣下ノ兵員許多ノ差ヲ生シ一營所ニ送附スルノ員ニ剩餘或ハ不足ヲ生スルキハ他府縣ノ兵ト交互交付スヘキコトヲ前以テ駐在曹長ニ達シ置クヘシ

但兵員寡少ニシテ各營所ニ分配スルニ足ラサルキハ該軍司令長官ノ許可ヲ得テ彼ノ營所ヲ省キ此ノ營所ノミ集合スルコトアルヘシ

第十三條 駐在曹長ハ後備軍司令ノ命ヲ受ケ左式ノ書翰ヲ作り其人員ニ應シ通行免狀ヲ併セテ該府縣ノ區長ニ送達スヘシ

書 式

明治何年兵種番號

第何大區何小區何郡何村住第一後備軍兵卒
姓 名

同

同

此度定例之通操練復習有之候條右人員來ル何月何日某地へ無相違到着候條御取計可有之候也

年號月日

何府縣駐在

官 姓 名 印

某 府 縣

第何區長

御 中

追テ通行免狀何枚送致候條各員へ御分配可有之候也

通行免狀雛形寸法左ノ通
但厚紙ニテ製スヘシ

五寸

<p>第何軍管第何師管後備軍兵卒 明治何年兵種 第何番 姓 名 自何府(縣)何大區何小區何村(町)至何々管所往復 通行免狀 後備軍司令印</p> <p>此免狀ハ歸郷ノ上直ニ區長ニ提出スヘシ</p>	
<p>往</p> <p>一旅費 金何程 一所持 金何程 一何年何月何日 發途 區長或ハ戶長 姓名印</p>	<p>還</p> <p>一旅費 金何程 一所持 金何程 一何年何月何日 發途 後備軍書記 官姓名印</p>
<p>何月何日何地某方ニ宿ス 何府(縣)第何大區何小區 區長或ハ戶長 姓名印</p>	<p>其他書法上ニ同シ</p>

一何日ヨリ何日迄病氣或ハ何々ニ依テ滞在
右同斷
姓名印

一何月何日何地乘船何月何日何地上陸
何船長
姓名印

第十四條 區長ハ該區中第一後備兵ニ前條ノ旨趣ヲ通達シ各兵出發ニ際シテ通行免狀及ヒ徵兵令參考第三十一條ニ掲示スル如ク旅費ヲ渡シ其兵卒ヲシテ某ノ地ニ單行セシムヘシ

第十五條 區長ハ召集ノ後備軍若シ病氣或ハ事故出來召集ニ應シ難キ者アルハ徵兵令第六章第三條ニ準シ各兵到着當日ニ第一集會所出張ノ駐在曹長ヘ還漏ナク届出ヘシ

第十六條 駐在曹長ハ預ル所ノ被服ヲ兼テ第一集會所ニ輸送シ置キ而シテ集會前日迄ニ同所ニ出張シ事務ヲ辦理スヘシ

第十七條 駐在曹長ハ後備兵到着ニ當テ通行免狀ヲ檢査シ人員ヲ較計シ兼テ預ル所ノ帽 衣袴靴等ヲ分付シ其私服ヲ纏メ一名毎ニ木札ヲ付ケ之レニ番號及ヒ姓名ヲ記シ第九條ノ倉庫或ハ家屋ニ藏シ置キ又各區長ヨリ差出ス不參ノ届書ヲ取纏メ然ル後管所或ハ分屯ノ地ニ送附スヘシ

第十八條 若シ第十二條ニ掲示スル如ク他府縣駐在ノ曹長ニ交付スヘキ兵員アルハ其員中ニ就テ一二名ヲ撰擢シ之ニ取締ヲ命シ他ノ集會所ニ送附スヘシ

第十九條 後備軍司令ハ後備兵ノ到着セシ片名簿及ヒ病氣事故等ニテ不參ノ者ノ届書ヲ照査シ各員ニ武器ヲ分與シ然ル後之レヲ各隊長ニ交付スヘシ

第二十條 師管ニアラサル管所或ハ分屯ノ地ニ在テハ後備軍司令豫メ武器ヲ輸送シ且副官ヲ差遣シ召集ノ事務ヲ總理

セシムヘシ

第二十一條 各隊長ハ後備軍司令ヨリ兵員ヲ受領シ之ヲ隊中ニ分賦スヘシ

第二十二條 後備兵病氣或ハ事故等ニテ召集ニ應セサル者復習ノ半ハ迄ニ治愈シ或ハ事故了ルハ區長直ニ此者ニ通行ノ免狀ヲ與ヘ駐在曹長ノ許ニ至ラシムヘシ

第二十三條 前條ノ者到着スレハ駐在曹長ハ通行免狀ヲ檢シ被服ヲ與ヘ後備軍司令ニ左ノ書簡ヲ添ヘ直ニ出途ヲ命スヘシ

書式

何府縣第何大區何小區何村第幾後備軍兵卒

姓名

明治何年兵種番號

何府縣駐在

年號月日

官姓名印

後備軍司令宛

第二十四條 後備軍司令ハ復習竣ルノ前豫メ後備兵ノ旅費ヲ請取置キ當日ニ至リ配當スルノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二十五條 復習竣ルノ翌日各隊長ハ後備軍司令ト共ニ後備兵ヲ整列場ニ導キ人員武器ノ檢査ヲ爲シ檢査了レハ直ニ武庫主管ニ武器ヲ返却シ曹長一名軍曹二名ヲシテ第二集合所ニ導カシムヘシ

第二十六條 其兵員第二集合所ニ到着スルハ後備軍司令ハ各員ノ通行免狀ヲ檢査シ旅費ヲ渡シ其員中ニ就テ二名ヲ選擧シ之ニ取締ヲ命ジ第一集合所ニ到ラシムヘシ

第二十七條 復習終ルノ日限ニ至レハ駐在曹長再ヒ第一集合所ニ出張スヘシ

第二十八條 後備兵第一集合所ニ到着スルハ駐在曹長各員ノ通行免狀ヲ檢査シ而シテ其被服ト私服トヲ交換シ各自歸路ニ就カシメ其被服ハ己レノ駐在所ニ送ルヘシ

後備軍司令部條例第廿六條參看

同上第廿一條第廿三條參看

第二十九條 後備兵若シ途中ニ於テ故意被服ヲ破綻スル等ノ所禁アルハ取締ノ者之ヲ取糺シ其姓名ヲ筆記シ置キ第一集合所ニ到着セシハ駐在曹長ニ届出ヘシ

第三十條 駐在曹長右等ノ者ノ姓名書ヲ受取ルハ更ニ本人ヲ取糺シ而シテ後其事由及姓名ヲ報告書ニ記載シ後備軍司令ニ上申スヘシ

第三十一條 復習終リ歸郷スルハ當リ若シ病氣ニ罹テ出發スルコト能ハサルハ全快ヲ待テ歸郷ヲ命スヘシ但病症ニヨリ不得止キハ醫官ノ診斷書ヲ証シ車駕料ヲ給スルコトアリ然ルハ其事由ヲ通行免狀ノ内ニ記載スヘシ

第三十二條 復習終テ歸郷セシムルハ當リ在營中ノ犯罪軍律ニ係ル者ハ裁判官ニ引渡スヘシ其懲罰ニ屬シ期限未々滿タサル者ハ其歸郷セシメ曹長ヨリ本人在居ノ區長ニ報知シ殘餘ノ罰ハ自宅ニ於テ禁錮セシムヘシ

第三十三條 後備兵各自歸郷スレハ區長ハ直ニ通行免狀ヲ取廻メ三十日以内ニ郵便ヲ以テ駐在曹長ノ許ニ返附スヘシ九年達第百四拾六號府縣ヘ達

第三十四條 後備軍服役中他家養子或ハ分家相續人等出願方 明治九年九月二十三日 陸軍省達第百四拾六號府縣ヘ達

後備軍服役中他家ノ養子トナリ或ハ分家相續人等ニ取極度者ハ復習並非常ノ際無故障 召募ニ應スヘキ後証ヲ以テ其管轄ニ顯出其歸ニ於テ係ト事實ヲ取糺シ無相違者ハ開屆直ニ所管鎮臺ヘ届出候様可致此旨相達候事

第三十五條 後備兵服役中北海道ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ徵兵既行未行ノ地ヲ問ハス仙台鎮臺ノ管轄ニ屬シ戰時或ハ非常召集ヲ除ク外定例ノ復習並ニ點呼召集ノ儀當分差免候條此旨相達候事

第三十六條 但本文轉籍又ハ全戸寄留セント欲スル者ハ後備軍司令部條例第二十二條第二書式ニ準シ出願シ又轉籍地到着ノ上ハ第一書式ニ準シ三日以内ニ後備軍開拓使函館駐在官ニ届出候様可取計事

第三十七條 後備軍司令部條例ヲ定ム 明治十四年三月十九日 陸軍省達第百七號府縣ヘ達

第十二類 軍事

後備軍司令部條例別冊之通相定候條此吉相達候事

但明治八年十一月相達候後備軍官員服務概則ハ自今廢止ト心得ヘシ

(別冊)

後備軍司令部條例

第一章 後備軍司令部職員及其職掌

第一條 後備軍司令部ハ各師管營所所在ノ地ニ之ヲ置キ徵兵調査及ヒ豫備軍後備軍一切ノ事務ヲ管理スル處トス
甲第二十二號百達ヲ以テ(處トス)ノ下廿六字ヲ刪ル

第二條 後備軍司令部ノ職員ハ之ヲ別テ司令官副官府縣駐在官郡區駐在官司令部書記及ヒ府縣駐在書記トス而シテ卷末後備軍司令部職員配置表ニ記載スル如ク各官各地ニ駐劄シ其管掌ノ事務ヲ整理ス
同上(司令官)ノ下(使府縣駐在官及ヒ)ヲ(府縣駐在官)以下廿一字ニ改ム

第三條 後備軍司令部ハ鎮守使司令官ニ隷シ部下ノ職任ヲ管轄シ該師管内徵兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ヲ整理ス
同上(隷シ)ノ下(後備軍司令部)ノ下(部)ト改ム

第四條 後備軍司令部ハ後備軍司令官ニ隷シ司令部一般ノ庶務ニ任ス司令部書記ハ記載書寫ノ事ヲ掌ル
同上(隷シ)ノ下(部)ト改ム

第五條 府縣駐在官ハ後備軍司令官ニ隷シ常ニ府縣ニ駐劄シ其府縣内徵兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ヲ擔任ス府縣駐在書記ハ府縣駐在官ニ屬シ記載書寫ノ事ヲ掌ル
同上

第六條 總テ徵兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ハ地方人民ニ關スル一緊切ナルヲ以テ後備軍司令部官員ハ細密ニ注意セサル可ラス之方爲ニ徵兵令ハ勿論其他諸兵條例規則等民間ニ貫徹スヘキヲ主トシ又兼テ在郷兵ノ動作ヲ監視スヘシ

第二章 徵兵調査及ヒ入營

第七條 徵兵調査ニ係ル事務ノ條款ハ徵兵令及ヒ徵兵事務條例ニ詳カナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第八條 後備軍司令部ハ毎年常備新兵入營ノ期ニ臨ミ鎮守使司令官ヨリ領收スル所ノ徵兵諸名簿
徵兵事務條例第百一十一條ニ據ルヘシ其聯隊ヲ爲サハハ中隊ニ在ニ遊附スヘシ又新兵入營ノ節ハ後備軍司令部ヨリシテ其入營施行ノ場所ニ參列シ其事務ヲ取扱ハシム
同上(節)ノ下(部)ト改ム

第九條 新兵入營ノ途中或ハ滯在中番號制符ヲ損傷遺失スルハ後備軍司令部官其本人ノ口書并ニ附添人ノ事由書ヲ發按シ事實全ク過失ニ係ル者ハ更ニ制符ヲ附與シ入營セシメ其趣ヲ鎮守使司令官ヘ具狀スヘシ
同上(在テハ)ノ下(後備軍司令部)ト改ム

第十條 新兵入營ノ期ニ臨ミ已ムヲ得サル事故ヲ生シ免役或ハ一時入營猶豫等出願ノ者アルハ後備軍司令部官其事ヲ審按シ鎮守使司令官ヘ具狀スヘシ

第十一條 新兵入營ノ期ニ臨ミ疾病或ハ犯罪等已ムヲ得サル事故ニテ入營猶豫ノ者十月一日ニ至ルモ事故猶止マサル者ハ後備軍司令部官其名簿ヲ製シ各自姓名ノ頭ニ事由ヲ記載シ鎮守使司令官ヘ差出スヘシ

第十二條 常備兵員ヲ補充シ爲メ補充兵ヲ要スルハ徵兵事務條例第百條ニ掲ル如ク歩兵ニ在テハ師管内他ノ兵種ハ軍管内府縣ヲ平均シ補充番號順序ニ入營セシムヘキヲ以テ鎮守使所在ノ師管後備軍司令部官ハ府縣毎ニ同年常備ノ最モ高キ番號ヲ調ヘ同府縣補充番號ノ最モ低キ者ヨリ順序ニ補充シ其人員ヲ每府縣ニ區別シ之ヲ鎮守使ヘ差出スヘシ又該兵入營ノ上各師管後備軍司令部官ハ各自番號制符ノ裏面ヘ其事由ヲ記註シ更ニ本人(附與スヘシ)同上(府縣)ノ但補充兵服役中常備入營ヲ命セラレサル者ハ滿期ノ時番號制符ノ裏面ヘ第一豫備徵兵編入ノ事ヲ記註スヘシ

第十三條 常備軍滿期ノ者該管師管ノ節ハ各師管後備軍司令部官成規ノ如ク番號制符ノ裏面ヘ事由ヲ記註シ之ヲ各兵ニ附與スヘシ又各兵ハ歸著ノ日ヨリ三日以内ニ戸長ノ稟書證明ヲ以テ郡區駐在官ヘ届出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在官ヘ届出ヘシ
同上(以內)ノ下(郡區長戸長)ヲ(戸長)トシ(以テ)ノ下(使)ヲ(除キ)郡區駐在官ヘ届出シメ同官ヨリ之ヲ

但分管ノ地ニ在テハ其聯隊ヲ爲サハル隊ニ在ニ於テ各自ノ番號刺符ヲ取纏メ後備軍司令官ニ送達シ同官成規

ノ如ク番號刺符ノ裏面ヘ事由ヲ記註シ府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ本人ニ附與スヘシ(同上(記註シ)ノ下(本人所管ノ後備軍

第十四條 輪重隊卒郷里ニ在テ常備服役滿期豫備軍編入ノ者ハ郡區駐在官各自ノ番號刺符ヲ取纏メ府縣駐在官ヲ經テ

後備軍司令官ヘ差出シ同官ヘ成規ノ如ク番號刺符ノ裏面ヘ事由ヲ記註シ府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ本人

第十五條 甲鎮臺管下ニ於テ徵集ニ應シ常備軍滿期豫備軍編入ノ節身元既ニシ鎮臺管下ヘ轉籍又ハ全戶寄留スル者ハ

甲鎮臺ニ於テ該臺所管ノ者同様之ヲ處分シ鎮臺ヘ兵籍ヲ送致シ寄留地ニ於テ徵集ニ應シ常備軍滿期豫備軍ヘ編入

ノ節原籍地ヘ歸郷スル者亦同様處分シ原籍所管ノ鎮臺ニ兵籍ヲ送致スヘシ(同上(我)ノ下(スヘシ)ヲ(寄留

但騎兵ニ在テハ東京鎮臺ノミニ之ヲ置クヲ以テ他鎮臺管下ヘ轉籍又ハ全戶寄留シ或ハ寄留地ニ於テ徵集ニ應シ原

籍地ヘ歸郷スルモ其兵籍ヲ送ラサル者トス故ニ復習又ハ非常召集其他身上ニ係ル願屆等ノ取扱ハ第二十七條及ヒ

第二十八條ノ例ニ準スヘシ(同上(寄留)ノ下(シ)以下廿字ヲ加フ)

第三章 豫備兵及ヒ後備兵

第十六條 豫備兵後備兵ノ召集并ニ編制ニ係ル者ハ召集條例及ヒ編制條例ニ掲示スルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第十七條 豫備兵及ヒ後備兵服役中ハ軍中ニ係ル一切ノ命令布達等ヲ服膺スヘキハ勿論召集ノ命アル時ハ其命令到達

ノ時ヨリ二十四時間以内ニ發程シ指示セラレタル場所ニ出頭スヘキ様居常其準備ヲ爲シ置クヘキモノトス

第十八條 豫備兵及ヒ後備兵服役中ハ疾病傷損等ニテ兵役ニ堪ヘサル者又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外假

令ヒ戶主嗣子養子(嗣子分家又ハ相續人トナル者ト雖モ其服役ヲ免除セズ)

第十九條 前條疾病傷損等ニテ兵役ニ堪ヘサル徵候アル者ハ陸軍醫官(陸軍醫官不在ノ地ハノ診斷書ヲ添ヘ)戶長ノ與書

証印ヲ以テ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出テ同官ヨリ之ヲ鎮臺ヘ具狀スヘシ鎮臺ニ於テハ各

地病院醫官ニ於テ其診斷書ニ由リ兵役ニ堪ヘサルヤ否ヲ判定セシメ然ル後之ヲ處分スヘシ(十四年達甲第廿一號省通

下(鎮臺病院)及ヒ其下制註ヲ添キ(各地病院)ニ改メ十六年達甲第廿二號省達ヲ以テ

第二十條 地方裁判所ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書ノ寫ヲ添ヘ戶長ノ與書証印ヲ以テ其戶主

本人戶主ナリヨリ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出テ同官ヨリ之ヲ鎮臺ヘ差出スヘシ(同上(起頭(第

廿六字ヲ(地方裁判所)以下十二字ニ改メ(添ヘ)ノ下(郡區長)以下十二字ヲ(戶長)以下制註トモ三十一字ニ改メ

第二十一條 豫備兵及ヒ後備兵服役中平時ニ在テ旅行或ハ某地ヘ單身寄留セント欲スル者一軍管内ニ在テハ召集ニ支

ヘサル爲メ其往先ヲ詳カニシ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ヘ願出シメ同官ハ之ヲ府縣駐在官ヘ願出シメ又他軍

管ニ係ルハ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出シメヘシ尤府縣駐在官ハ

非常召集又ハ復習點呼等ニ妨害ナキヤ否ヲ審察シ其願書ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ後備軍司令官ヘ差出シ且軍管内外ヲ問

ハス旅行或ハ單身寄留中召集ノ命アルハ直ニ之ヲ通報スヘキ親族ノ者ヲ定メ置キ其姓名住所ヲ記シ願書或ハ屆書

ト共ニ差出サシムヘシ(同上但書共全條改正)

但外國ヘ旅行又ハ滞在セント欲シ本文ノ手續ヲ以テ願出ルルハ後備軍司令官ヨリ之ヲ鎮臺司令官ニ具狀シ許可ヲ

請フヘシ尤其旅行滞在中ハ復習及ヒ點呼ヲ免ス

第二十二條 豫備兵及ヒ後備兵服役中一軍管内ヘ轉籍或ハ全戶寄留セント欲スル者ハ左ノ第一書式ノ如ク郡區駐在官

ヘ願出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在官ヘ願出テ又他軍管ヘ轉籍或ハ全戶寄留セント欲スル者ハ左ノ第二書式ノ如ク郡

區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出シムヘシ(同上)

但轉籍或ハ寄留地着後三日以内ニ左ノ第一書式ノ例ニ準シ新任地ノ郡區駐在官ヘ願出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在

官ヘ願出ヘシ

第一書式同上

改正

私儀此度何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地(轉籍)全戸寄留(全戸寄留)致候間此段御届申候也

年月日

何府(縣)郡(區)駐在官官姓名殿

前書之通相違無之候也

府(縣)郡(區)町(村)番地
明治何年徵兵兵種番號
豫備軍(後備軍)何等卒
姓名 印

府(縣)郡(區)町(村)戸長
姓名 印

第二書式 同上
改正

私儀此度第何軍管々下何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地(轉籍)全戸寄留(全戸寄留)仕候間兵籍御送リ相成度此段奉願候也

年月日

第何師管後備軍司令官官姓名殿

前書之通相違無之候也

府(縣)郡(區)町(村)番地
明治何年徵兵兵種番號
豫備軍(後備軍)何等卒
姓名 印

府(縣)郡(區)町(村)戸長
姓名 印

府(縣)郡(區)駐在官 官姓名 印
府(縣)駐在官 官姓名 印

第二十三條 前條轉籍或ハ全戸寄留ノ者一軍管内ニ在ルハ各師管後備軍司令官 其兵籍ヲ交互交送シ又他軍管ニ在ル
ハ後備軍司令官領置司令官ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第二十四條 豫備兵及ヒ後備兵服役中結婚セント欲スル者ハ陸軍武官結婚條例第四條及ヒ第十二條ニ據リ其願書ニ身

元證書ヲ添ヘ戸長ノ証印ヲ以テ郡區駐在官へ提出シ同官及ヒ府縣駐在官與書證印ノ上後備軍司令官ヲ經テ領置司令官へ提出シ許可ヲ請フヘシ又既ニ婚姻濟ノ上ハ同條例第十條ノ本文ニ據リ前同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ 第十四年達甲達ヲ以テ全條ヲ改正シ十六年達甲達廿二號省達ヲ以テ添ヘ)ノ下(郡區長以下 第十五字ヲ(戸長)以下十字ニ改メ(同官)ノ下ニ(及ヒ府縣駐在官)ノ七字ヲ加フ
但離婚若クハ其婦ノ死去スルハ戸長ノ與書證印ヲ以テ速ニ郡區駐在官へ届出シメ同官ヨリ府縣駐在官へ届出ヘシ府縣駐在官ハ之ヲ後備軍司令官へ報告シ司令官ヨリ領置へ報告スヘシ 十六年達甲第廿二號 第一書式)同上(府)ノ上 第一書式)同上(府)ノ上 結婚願

府(縣)郡(區)町(村)番地

何族(平民)何某何女

某

何年何月何日生

右之者儀雙方熟談ノ上私妻ニ縁組仕度此段奉願候也

年月日

第何師管後備軍司令官

官姓名 殿

前書之通相違無之候也

府(縣)郡(區)町(村)番地
明治何年徵兵兵種番號
豫備軍(後備軍)何等卒
姓名 印

府(縣)郡(區)町(村)戸長
姓名 印

府(縣)郡(區)長

第二式同上

婚姻清御届

姓名印

府(縣)郡(區)町(村)番地

何族(平民)何其何女

某

何年何月何日生

右者何年何月何日願濟ニテ何月何日婚姻相整候間此段御届申候也

府(縣)郡(區)町(村)番地

明治何年徵兵兵種番號

豫備軍(後備軍)何等卒

姓名印

後備軍何使(府)(縣)駐在官

官姓名殿

前書之通相違無之候也

府(縣)郡(區)町(村)戶長

姓名印

年月日

府(縣)郡(區)長

姓名印

第二十五條 豫備兵及ヒ後備兵服役中諸官廳ニ奉仕スルハ妨ナシ然レモ戰時ハ勿論點呼復習或ハ非常召集ノ時ハ速カニ其命令ニ應スヘキモノトス故ニ之ヲ登用セント欲スルハ其官廳ヨリ戰時ハ勿論點呼復習又ハ非常召集ノ時ハ速カニ其命令ニ應セシムヘキ後證ヲ以テ本人所管ノ領置(照會)スヘシ
但點呼ハ其官廳所在地方ノ召集ニ應セシムルモ妨ケナシ十六年遠甲第廿二號
省達ヲ以テ本文改正

第二十六條 豫備兵及ヒ後備兵服役中戸主嗣子養子嗣子分家又ハ相續人トナル者或ハ死没犯罪逃走等身上ノ異動アルハ戸長ノ稟書証印ヲ以テ其戸主本人戸主ナレハ親族ヨリ速カニ郡區駐在官へ届出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在官へ届出テ同官ヨリ後備軍司令官へ報告スヘシ同上(アルト)ノ下(郡區長)以下十一字ヲ(戸長ノ)以下十文字ニ改メ(速カニ)ノ下(後備軍使)ヲ(郡區駐在官)以下十六文字ニ改ム
但親養子或ハ入夫等ノ者ハ第二十四條ノ例ニ準ス

第二十七條 徵兵事務條例第百二條ニ由リ甲鎮置管下ヨリ乙鎮置管下へ補缺ノ者ニシテ豫備兵及ヒ後備兵服役在郷中ハ原籍地方即チ甲鎮置ノ所轄ニ屬スルモノトス故ニ復習又ハ非常召集ノ時ハ乙鎮置ヨリ之ヲ甲鎮置へ通牒シ甲鎮置ニ於テハ本人へ達シ乙鎮置ノ召集ニ應セシムヘシ
但後備兵點呼ハ原籍地方ノ召集ニ應スヘキモノトス

第二十八條 前條補缺ノ豫備兵及ヒ後備兵ノ身上ニ係ル願届ハ原籍地方ノ郡區駐在官へ差出シ同官ヨリ其筋ヲ經テ甲鎮置へ差出スヘシ甲鎮置ニ於テハ該章所轄ノ者同様處分シ然ル後之ヲ乙鎮置へ報告スヘシ同上(地方ノ)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ト改ム
第二十九條 豫備軍服役滿期後備軍編入ノ者ハ郡區駐在官各自ノ番號割符ヲ取纏メ府縣駐在官へ差出シ同官ヨリ之ヲ後備軍司令官へ差出シ同官へ成規ノ如ク番號割符ノ裏面へ事由ヲ記註シ府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ本人へ付與ス同上(者ハ)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改メ(取纏メ)ノ下(帥管)ヲ(府縣駐在官)ト改ム
第三十條 後備軍服役滿期ノ者ハ別ニ命ナクシテ國民軍へ編入セラレタル者トス然レモ更ニ番號割符ノ記註ヲ要セス

第四章 後備兵點呼

第三十一條 後備兵ハ每放一度便宜ノ地ニ於テ其技藝ヲ復習セシムルノ成規タリト雖モ現今兵員未タ完備セサルヲ以テ府縣内集合便利ノ地ニ於テ後備兵點呼ヲ施行シ戰時或ハ非常ノ時ニ當リ之ヲ召集スルニ容易ナラシム同上(以テ)ノ下(使)ヲ削ル
第三十二條 後備兵點呼ハ每放一度郡區駐在官其管轄郡區ヲ巡行シ之ヲ行フヲ例トス而シテ出會ノ地ハ後備兵ノ概テ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ノ地ニ之ヲ設クヘシ同上(一度ノ)ノ下(使府縣)以下九字ヲ(郡區駐在官其管轄)ノ八字ニ改ム

第十二類 軍事

第三十三條 後備兵點呼ハ後備軍司令官或軍司令官ノ命ヲ受ケ召集ノ人員ヲ量リ出會ノ地及ヒ時日ヲ定メ之ヲ府縣駐在官ヘ達シ同官ヨリ郡區駐在官ヘ達スヘシ同上(之ヲ)ノ下(後備軍使府縣駐在官)ヲ府縣以下十七字ニ改ム

但本文召集ノ人員場所及ヒ時日等ハ鎮臺ヨリ陸軍省ヘ申告シ又之ヲ管下府縣ヘ通牒スヘキモノトス同上(管下)ノ下(使)ヲ削ル

第三十四條 點呼召集ノ期ニ至レハ郡區駐在官ハ左式ノ書翰ヲ作リ之ヲ郡區長ヘ送達スヘシ同上(至レハ)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改ム

書式十四年達甲第廿一號ヲ達シテ以テ次項(何年)ノ下(何月)ヲ削リ十六年達甲第廿二號ヲ達シテ以テ(年月日)ノ下(官姓名印)ノ肩(後備軍)以下十字ヲ削リ其項ニ(府縣)郡區駐在官ノ七字ヲ加フ

郡(區)町(村)番地

何年後兵兵種番號

何 等 卒 姓 名

同

同

同

同

同

同

同

同

右人員今度某地ニ於テ致點呼候條來ル月日第何時同所ヘ出會候條御取計有之度候也

年 月 日

府(縣)郡(區)駐在官 姓 名 印

何郡(區)長

姓 名 殿

第三十五條 點呼ニ出會スル所ノ後備兵ノ旅費等ハ官ヨリ之ヲ給セサルヘシ

第三十六條 點呼ニ出會スル所ノ後備兵ハ各自適宜ノ服ヲ着用スヘキモノトス

第三十七條 後備兵點呼召集ノ期ニ臨ミ疾病或ハ已ヲ得サル事故アリ期限ノ如ク出會シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ病氣

ノ者ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戸長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ヘ届出テシム十六年達甲第廿二號ヲ達シテ以テ(以下)ノ下(後備軍)以下廿九字ヲ(郡區駐在官)以下十一字ニ改ム

但點呼召集ノ時疾病或ハ犯罪等已ムヲ得サル事故ニテ召集ニ應セサル者ハ各自手帖ヲ本文届書ト共ニ郡區駐在官ヘ届出サシム同上(共ニ)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改ム

第三十八條 前條疾病或ハ犯罪等已ムヲ得サル事故ニテ召集ニ應セサル者其事實届書ト相違セシ者ハ事由ヲ告ケスニテ召集ノ命ニ應セサル者トシ之ヲ處分スヘシ

第三十九條 後備兵點呼ノ地ヘ到着スルハ各自手帖ニ名刺ヲ添ヘ郡區駐在官ヘ届出テシム同上(添ヘ)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改ム

第四十條 後備兵點呼ヲ爲スルハ郡區駐在官ハ便宜ノ場所ヲ撰ヒ後備兵ヲ各兵種ニ區別シ點呼名簿ノ順序ヲ以テ一線

ニ整列セシメ右翼ヨリ各自ノ姓名ヲ呼ヒ終テ圍列ヲ作り服役上ノ規則ヲ問查シ又ハ軍令定則等ヲ告示スヘシ同上(一線)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改ム

第四十一條 前條點呼施行ノ後郡區駐在官ハ後備兵ヲ左ノ三種ニ類別シ又疾病傷病等ニテ兵役ニ堪ヘサル者ノ實查ヲ爲ス同上(施行)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改ム

第一項 疾病或ハ事故ナクシテ直ニ召集ニ應シ得ル者

第二項 諸官衙ニ奉仕シ或ハ寄留旅行等ニテ直ニ召集ニ應スルヲ得サル者同上(應シ難キ者)ヲ(應スル)ヲ得サル者ト改ム

第三項 疾病傷病或ハ身體虛弱等ニテ戰役ニ堪ヘスト雖モ守衛等ニ服役スルヲ得ル者

第四十二條 後備兵點呼終ルノ後點呼出會ノ場所及ヒ年月日其他身上ノ異動アル者ハ其異動ヲ各自ノ手帖ニ記註シ本人ヘ返附スヘシ

第四十三條 各所ノ點呼全ク終レハ郡區駐在官ハ點呼ノ實況及ヒ第四十一條ノ諸項ニ當ル者ヲ郡區ニ取纏メ府縣駐在官ヘ差出シ同官ハ之ヲ一府縣ニ取纏メ後備軍司令官ヘ報告シ同官ハ之ヲ一師管ニ取纏メ鎮臺司令官ヘ差出スヘシ同上(終レハ)ノ下(後備軍使府縣)ヲ(郡區)ニ改ム(當ル者)ノ下(使府縣)ヲ(郡區)以下二十三字ニ改ム

但本文ノ報告ハ鎮臺ニ於テ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ

第四十四條 後備兵點呼ノ片ニ於テ郡區駐在官助手ヲ要スルハ之ヲ府縣駐在官ヘ申報シ同官ハ豫備軍後備軍ノ下士

又ハ上等卒ノ中適任ノ者ヲ撰ミ後備軍司令官(具狀シ其許可ヲ請フヘキモノトス)十四年達甲第廿一號省達ヲ以テ(具
キモノトス)ト改メ十六年達甲第廿二號省達ヲ以テ(於テ)ノ下(後備軍
使府縣)ヲ(郡區)ニ改メ(要スルルハ)ノ下(之ヲ府縣)以下十四字ヲ加フ
但駐在官ノ助手ハ點呼メ地毎ニ之ヲ採用シ或ハ各地ヲ通シテ隨行セシムルモ實際ノ便宜ニ由ルヘシ十六年達甲第廿
(或ハ)ノ下(使府縣)
ヲ(各地)ニ改ム
第五章 名簿

第四十五條 鎮臺所在ノ師管後備軍司令部ハ軍管内其他ノ後備軍司令部ハ師管内軍籍ヲ帶ヒテ地方ニ在ル軍人ノ名簿
ヲ備ヘ置キ死没轉居處刑失踪其他身上ノ異動アル毎ニ添削ヲ加ヘ常ニ明瞭ニシテ有事ノ日之ヲ召集スルニ湊滞ナカラ
シム因テ其帳簿ヲ分ツテ左ノ如シ

鎮臺所在師管後備軍司令部ニ備フ可キ名簿(略之)

第四十六條 豫備軍及ヒ後備軍將校名簿ハ從前ノ現役將校名簿ヲ用ヒ而シテ進士官以上並ニ會計軍醫馬醫軍樂隊各部同
等官ヲ兵種及ヒ各部ニ分チ之ヲ集成スヘシ

第四十七條 豫備軍後備軍下士常備歸休兵補充兵豫備兵後備兵及ヒ第一豫備徵兵人員簿ハ左式ニ準シ兵種及ヒ會計軍
醫馬醫軍樂各部ヲ分チ之ヲ調製スヘシ

書式 十四年達甲第廿一號省達ヲ以テ(曹長)ノ上(步兵)ヲ加ヘ十六年達甲第廿二
號省達ヲ以テ前欄(步騎砲)以下廿一字ヲ削リ第二欄(府縣)ノ上(使)ヲ削ル(略ス)

第四十八條 常備兵名簿ハ常備兵卒明細名簿ニ基キ名簿紙(常備兵卒ヲ贈記シ又其兵種ヲ分チ之ヲ調製スヘシ

第四十九條 豫備軍及ヒ後備軍將校人員簿ハ左式ニ準シ兵種ヲ分チ之ヲ調製スヘシ 同上(兵種)ノ下
書式 同上前欄中(步騎砲)以下十七字ヲ
削リ第二欄(府縣)ノ上(使)ヲ削ル(略ス)

第五十條 豫備軍及ヒ後備軍下士名簿ハ從前ノ現役下士名簿ヲ用ヒ而シテ兵種並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部ニ分チ之ヲ集
成スヘシ

第五十一條 常備兵明細名簿并ニ補充兵明細名簿ハ別ニ之ヲ調製セス

第五十二條 常備歸休兵名簿ハ常備名簿ニ基キ徵兵令第二條第一項ニ當ル者ハ第一書式又徵兵事務條例第百十八條第
三項ニ當ル者ハ第二書式ニ準シ其兵種ヲ區別シ之ヲ調製スヘシ

第一書式 同上前欄(常備歸休兵騎砲工輜重兵之部)ノ(略ス)

第二書式 同上(除隊歸休)以下十三字ヲ
及(府縣)ノ上(使)ヲ削ル

第五十三條 豫備兵名簿及ヒ後備兵名簿ハ別ニ之ヲ調製セス常備軍滿期豫備軍へ編入又ハ豫備軍滿期後備軍へ編入ノ後
從前ノ常備兵名簿及ヒ豫備兵名簿ヲ用ユヘシ

但常備輜重輪卒ニシテ入管セス直ニ豫備軍編入ノ者ハ常備兵明細名簿ヲ用ユヘシ

第五十四條 第一豫備徵兵名簿ハ別ニ之ヲ調製セス徵兵事務條例第百三條但書ノ名簿及ヒ前年ノ補充兵名簿ヲ用ユヘシ
(以下諸表 十六年達甲第廿二號 略ス)
省達ヲ以テ改正ス

● 伺指令

● 改正徵兵令第二十二條第七項ニ付千葉縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年一月十一日

改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキヤ若區別ナシトセハ十二年十月廿七日以前ニ溯ルヤ

指令 十七年十一月十五日

本月十一日電報改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキヤ云々伺ノ儀伺ノ通十七年一月以後二十歳トナ
ル者ハ總テ新令ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

● 徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分ノ儀大坂府ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年一月廿一日

今般徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分ハ發令ノ日ヲ以テ分界トシ暨ヘハ新舊令ヲ對照シ舊令ニテ免役ニ相當スル戸主
新令ニテ徵集部分ニ入ルモ廿八日以前ニ係ル者ハ新令第十七條第五項ニ依リ猶豫ニ屬スヘキヤ無論ト存候得共爲念
相伺候ニ付至急電報ニテ御指令アリタシ

指令 十七年一月廿四日

去ル廿一日電報徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分何右八十七年一月以後滿二十歳トナル者ヨリ新令ヲ適用スルヲ以テ假令舊令ニテ免役ニ相當スル戸主ト雖モ新令ニテ徵集部分ニ入ル者ハ假令ノ前後ヲ論セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ

●岡山縣ヨリ改正徵兵令第十七條第三項ニ養子養孫含蓄ノ儀陸軍省ヘ伺(電)十七年一月
改正徵兵令第十七條第三項ニ養子養孫ハ含蓄セサルヤ若含蓄セサルハ相續人ハ如何心得ヘキヤ且同令改正前戸主トナル者ハ父六十歳未滿ナルモ猶豫ニ屬スルヤ併セテ御指揮アリタシ

指令(電) 十七年二月六日

去月廿八日電報同前段改正徵兵令十七條三項ハ養嗣子養承祖ノ孫モ含蓄ス中段相續人ハ猶豫ニ屬セス後段十七年一月以後滿二十歳トナル者ハ戸主トナルノ日改正前後ヲ問ハス總テ新令ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

●先入兵相當ノ者札幌縣下ヘ轉籍スル時検査ノ儀岩手縣ヨリ陸軍省ヘ伺(電)十七年四月
先入兵相當ノ者検査ニ先クテ札幌縣下ヘ轉籍スルハ舊在地ニ呼ビ戻シ検査スヘキヤ將ク免役ニ屬スルヤ宜ク御指揮アリタシ

指令(電) 十七年五月十六日

客月廿三日電報同先入兵ニテ札幌縣下ヘ轉籍ノ者ハ最寄徵兵施行ノ府縣ニ於テ徵集スヘキ儀ト心得ヘシ

●先入兵家事故障歸休該當者ノ儀ニ付東京鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年八月四日
徵兵事務條例第四百九條先入兵ニシテ爾後徵兵令第十七條第十八條(第四五六八)及第十九條ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ非ルヲ以テ入營ノ上同條例第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生シ一家ノ生計ヲ營ム能ハサル者ハ歸休等ノ除職ニ及ホサル儀ト心得可然哉此段相伺候也

指令 何之通 十七年八月九日

●徵兵取調ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年八月一日

徵兵事務條例第五百三條及第五百四條ヲ以テ前略徵兵令第廿八條ニ當リ國民軍ノ外免役ニ屬スル者并同令第廿九條第三拾條第三拾壹條及第三拾四條ニ當リ平時免役又ハ徵集猶豫ニ屬スルモノ新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年検査時限ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應ジシメ候儀ニ被相定候就テハ右名稱ヲ罷メタル者ノ内更ニ舊徵兵令ニテハ免役又ハ徵集猶豫相當ノ名稱ヲ得タル者ト雖モ新徵兵令ニ據リ取調徵集猶豫ノ條項ニ適當セザレハ徵集ニ應ジシメ候儀ト心得可然哉

追テ舊徵兵令ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ニ屬シタルモノハ同令第三拾貳條乃至三拾五條ニ依リ處分スヘキ旨大分縣十七年二月一日伺島根縣十七年二月十六日伺(但島根縣伺書中明治十九年) 同二月九日御指令 同三月十三日御指令(但二十年)誤リナラン歟) へ御指令ノ趣徵兵事務伺指令抜萃録ニ相見候處徵兵事務條例第五百五拾三條同第五百五拾四條ノ趣モ有之而シテ去月七日付ヲ以テ當縣ヨリ今後右抜萃録ヲ根據トシ指令取計方ノ儀相伺候處同廿四日付ヲ以テ伺之趣開屆候事ト御指令相成彼是抵觸候儀相見ヘ候得共右ハ徵兵事務條例之通相心得可然爲念此段添テ相伺候

指令 何之通 十七年八月十四日

追番ノ儀徵兵事務條例ニ矛盾スル最前ノ指令ハ自カラ消滅セシ儀ト心得ヘシ

●寡婦へ入婚戸主トナル者徵兵猶豫ノ儀新潟縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年八月九日

夫死亡シ男子ナク一時已マ得ス寡婦又ハ女子戸主トナリ該戸主へ入婚戸主トナル者ト雖令第廿二條第七項ニ依リ猶豫ノ限リニ無之儀ト心得可然哉

指令 十七年八月十九日

書面女戸主年齢六十歳未滿ナルハ伺之通

●徵兵令中疑義ノ件ニ付陸軍省ヨリ太政官ヘ伺 十七年七月十日
徵兵令中疑義ニ涉リ處分上差支候廉別紙ノ通相伺候條迅ニ御指令相成度候也

(別紙)

- 第一 年齡六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ管ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スレテ戸主ヲ罷メ年齡六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子承祖ノ孫ハ假令徵集ニ應ス可キ年ノ一月ニ至リ戸主ヲ罷メタル者三項ニ據リ徵集猶豫ニ屬セサル義ニ候處右嗣子承祖ノ孫ハ假令徵集ニ應ス可キ年ノ一月ニ至リ戸主ヲ罷メタル者已ニ六十歳ニ至リ或ハ六十歳未満ト雖モ各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ管ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキト雖モ徵集猶豫ニ屬セサル義ニ候哉
- 第二 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主ノ嗣子承祖ノ孫ハ徵兵令第二十二條第四項ニ據リ徵集猶豫ノ限ニアラサルヲ以テ右嗣子承祖ノ孫ニシテ失踪五ヶ年ヲ經過スルモ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ同令第十七條第三項ニ據ルノ限ニアラス徵集ス可キ義ニ候哉
- 第三 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主ハ徵兵令第二十二條第四項ニ據リ徵集猶豫ノ限ニアラス且此戸主ハ年齡六十歳前後ヲ問ハサルヲ以テ右戸主失踪シテ五ヶ年ヲ經過スルモ跡ヲ繼キタル戸主ハ同令第十七條第五項ニ據ルノ限ニアラス徵集ス可キ義ニ候哉
- 第四 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ管ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スレテ戸主ヲ罷メ年齡六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子承祖ノ孫ハ別ニ明文無之候得共其實徵兵令第二十二條第三項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ト者モ異ナラサルヲ以テ均シク徵集猶豫ニ屬セサル義ニ候哉
- 第五 癡疾不具重罪ノ事故アル戸主其嗣子承祖ノ孫ヲ癡疾不具重罪等ノ事故ナクシテ之ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ニシテ戸主ヲ讓リシトキ其戸主タル者徵集猶豫ニ屬スル哉
- 第六 家族ヲ有スル戸主失踪五箇年ヲ經過シ其跡ヲ繼キタル戸主ハ徵兵令第十七條第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スルハ勿論ニ候處全家失踪又ハ單身ノ戸主ニテ失踪五箇年ヲ經過シ其跡ヲ繼キタル戸主ト雖均シク徵集猶豫ニ屬ス可キ義ニ候哉

キ義ニ候哉

- 第七 失踪トハ規避ノ確證ナク其居處分明ナラサル者逃亡トハ規避シテ其踪跡ヲ翰晦スル者ヲ稱スル義兼テ實質義舊法制部ノ説明有之候處徵兵令第二十二條第五項第九項ノ失踪ニハ逃亡ハ含當セル義ニ候哉
 - 第八 徵兵令第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條ノ名稱ヲ有スル者ト雖モ同令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタルトキハ同令第四十一條ニ據リ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集スル義ニ候哉
 - 第九 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ徵兵令第七條ニ據リ兵役ニ服スルコトヲ許サハル義ニ候處舊刑法ニ據リ懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ハ明治十四年十二月第八十一號布告新舊比較ニ照シ重罪ノ刑ニ當ルモノニ非サレハ凡テ徵集ス可キ義ニ候哉
 - 第十 重罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ戸主若クハ嗣子承祖ノ孫相續人等ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主若クハ更定ノ嗣子承祖ノ孫ハ徵兵令第十七條第三項若クハ第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スル義ニ候處舊刑法ニ據リ懲役終身又ハ禁錮終身ノ刑ニ處セラレル戸主嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主又ハ嗣子承祖ノ孫亦同様處分ス可キ義ニ候哉
 - 第十一 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ徵兵令第四十二條ニ據リ服役年數ニ算入セサル義ニ候處明治十六年十二月廿七日即チ本令布告以前ニ係ル刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年數ニ算入ス可キ義ニ候哉
- 指令 十七年八月二十六日
- 第一第二第四第五第六第八第九第十第十一ノ通
 - 第三其嗣子若クハ承祖ノ孫ニシテ跡ヲ續キタルトキハ徵兵令第十七條第五項ニ屬シ其他ノ者ニシテ跡ヲ續キタルトキハ同ノ通
 - 第七失踪ト逃亡ハ區分アルモノニシテ規避ノ確證ナクシテ其居處分明ナラサル者ヲ失踪トシ規避シテ其踪跡ヲ

籍海スル者ヲ逃亡トシテ處分可致致ト可心得事

●徵兵事務條例中疑義ノ廉千葉縣ヨリ海軍省ヘ伺 十七年九月三日

徵兵事務條例第五拾六條第六項ニ日本形五百石未滿ノ船舶ニ乘組ノ者ト有之右ハ航海船ニ乘組ノ者ヲ指稱シ浮游船及海川小廻船ニ乘組ノ者ハ含有セサル儀ト心得可然哉若掛候義モ有之候間懇ニ御指揮有之度候也

指令 十七年九月十七日

伺之懸解海川小廻船乘組者モ含有スル儀ト可心得事

●新兵入營前後異動届出ノ儀ニ付東京鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年九月五日

新兵入營前後身上ノ異動ヲ生スルハ戸長ハ之ヲ與替シ入營前ニ係ル者ハ所管後備軍司令部ヘ入營後ニ係ル者ハ所管ノ隊ヘ申出サセノハ家族異動ニ係ルモ該隊ニ於テハ之ヲ所管後備軍司令部ヘ照會セシメ候儀ト心得可然哉此段相伺候也

指令 十七年九月二十日

伺之懸入營前ニ係ルモノハ郡區長戸長之ニ與替シ府縣廳ヲ經テ後備軍司令部ヘ届出又入營後ニ係ルモノハ親族ヨリ本人ヘ通牒シ本人ヨリ所屬ノ隊ニ届出該隊ニ於テハ其旨後備軍司令部ヘ通牒スヘキ儀ト可心得事

●定期ノ届出ヲ爲サ、ル者處分方ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年九月十五日

徵兵事務條例第五拾九條ニ示サレタル通り届出タル者モ徵兵令第四拾壹條ニ據ル乎ノ辭附縣伺 八月十二日付ニ對シ八月十九日ヲ以テ伺之通ト御指令相成タル懸徵兵事務伺指令按察第三號ニ相見ヘ候右御指令ニ據ルハ舊令ニテ免役ノ資格アルト否トヲ問ハス其届出ヲ怠リタルモノハ悉ク令第四拾壹條ニ依テ處分スルモノ、如ク相見ヘ候得共右御指令ノ旨意ハ免役ノ資格ヲ有セサル者ノミヲ指シタルモノト相心得可然哉

指令 十七年九月二十日

●徵兵検査所ヘ出頭セサル者届方ノ儀ニ付高知縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年九月十三日

事務條例第四拾條壯丁疾病處刑又ハ逃亡失踪等ニテ徵兵検査所ニ出頭セサル者ノ届出ハ各明文有之候處刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者ニ於テハ何等成交無之右ハ同例第拾六條第三項按察官ノ証明書ヲ以テ届出ルノ例ニ倣ヒ之カ證明書ヲ徵スヘキ儀歟將夕同例検査ノ部ニ其明文無之上ハ該未決ノ者ノミヲ要スルノ限ニ無之哉

指令 十七年九月廿五日

書面前段伺之通

●徵兵令第拾三條ノ件ニ付千葉縣ヨリ海軍省ヘ伺 十七年九月十七日

徵兵令第拾三條但書ニ海軍豫備兵ハ技藝修習ノ爲メ召集スルコトナシト有之處兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲スハ陸軍豫備兵ト異ナラサル儀ト相心得可然哉

指令 十七年九月廿九日

伺之通 十七年九月廿九日

但海軍志願兵徵募規則ニ據リ豫備役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

●徵兵猶豫成否ノ件ニ付埼玉縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年九月四日

癩疾不具重罪ノ事故アル戸主其嗣子承祖ノ孫ヲ癩疾不具重罪等ノ事故ナクシテ之ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ニ戸主ヲ讓リシキ其戸主タル者徵集猶豫ニ屬スヘキ御旨尙太政官御指令官報 第三百五十一號ニ出ツ

指令 十七年十月十四日

伺之通但同籍ノ者ニ限ル儀ト可心得事

●國民兵名簿送付ノ件ニ付島根縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十月十日

本年九月御省達甲第三拾九號御達ニ依レハ事務條例第三拾條ノ國民兵名簿ハ郡區長ヨリ郡區駐在官ヘ送付セサル儀カ折返シ御指揮ヲ請フ

指令 十七年十月十四日

去ル十日電報伺國民兵名簿云々ノ儀ハ郡區長ヨリ郡區駐在官へ送付スル儀ト心得ヘシ

●鹿兒島縣ヨリ徴兵検査所ノ儀ニ付陸軍省へ伺(電報) 十七年十月十五日

徴兵事務取扱手續第七項ノ徴兵検査所ハ地形ノ便不便ニ依テハ貳百人未満ニテ一検査所ヲ置キ又ハ一検査所へ五百人以上召集スルモ差支ナキ哉

指令(電報) 十七年十月二十日

本月十五日電報伺徴兵検査所へ召集スル人員ノ儀ハ伺之通 十七年十月六日

●徴兵事務條例第百二十四條通牒方ノ件ニ付新潟縣ヨリ陸軍省へ伺 十七年十月六日

徴兵事務條例第百三十四條ニ云々學校長若クハ所屬長ヨリ本人所管ノ府縣廳ニ通牒スヘシト有之右學校長ヨリ通牒スヘキ分ハ徴兵令第拾八條第三項第四項及ヒ第拾九條ニ當リ其他ハ總テ當該所屬長(令第拾八條第貳項ノ公立學校教員ノ如キハ府縣長官)ヨリ通牒スヘキ儀ニ候哉

指令 十七年十月廿三日

伺之趣令第拾八條第貳項第三項第四項海軍工夫第拾九條及第貳拾條第三項ハ學校長ヨリ其他ハ所屬長ヨリ通牒スヘキ儀ト心得申

●舊教導職ノモノ徴兵募集ノ儀ニ付内務省ヨリ太政官へ伺 十七年九月五日

今般第拾九號布達ヲ以テ教導職被廢候處第拾九號公達身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フ者ト有之候ニ付從前ノ宗派ニ屬シ布達ニ從事スル者ハ徴兵事務條例第拾八章第百五拾三條ニ據リ更ニ徵集ニ應スルニ不及儀ト相心得可然哉

指令 十七年十一月八日

舊教導職タリシ者ハ其在職ノ時ノ等級ニ準シ徵集又ハ召集ヲ猶豫ス可シ

但舊徴兵令ニ據リ處分セシ者ハ其儘聞ク可シ
●除役者診斷書ノ徴否及適齡ニシテ陸海軍下士以上奉職者名簿編入ノ儀ニ付茨城縣ヨリ陸軍省へ伺 十七年十月十八日

第壹條 令第拾六條ノ除役ニ該當スルモノハ甲第四拾壹號徴兵検査規則ニ照シ兵役ノ堪否ハ軍醫ノ判別スルモノナシハ其診斷書ハ無論徴セサル儀ト心得可然哉

第貳條 適齡者ニシテ下士以上奉職ノ者ハ猶豫名簿ニ編入シ置可然哉

但海軍下士以上奉職ノ者モ同様處分スヘキ哉

指令 十七年十月二十五日

書面第壹條第貳條但書共伺之通

●徴兵未行ノ地ヨリ既行ノ地へ寄留ノ者徴否ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省へ伺 十七年十月十四日

從來徴兵未行ノ地在籍者ニシテ徴兵既行ノ地ニ全戸若クハ單身寄留スルハ其適齡者ハ勿論常備年期間ニ係ル年齢ノ者ハ徴兵事務條例第百五拾條第壹項ノ旨趣ニ準據シ本籍ノ者ト同様徴集シ可然哉

但本文ノ者一旦徵集名簿へ登記後事故アリ原籍ナル未行ノ地ニ復歸スル旨届出ルハ其意ニ任セ妨ケ無之哉

指令 十七年十月二十三日

伺之趣全戸寄留ノ者ハ徵集シ單身寄留ノ者ハ猶豫ニ屬スル儀ト心得申
但書 伺之通

●徴兵事務條例第百四拾條ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省へ伺 十七年九月二十二日

徴兵令中嗣子承祖ノ孫ニシテ徵集猶豫ニ屬スルモノハ其第拾七條第三項及第四項ノモノニ限レリ然ルニ癩疾不具重罪ノ事故ナクシテ之ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫徵集猶豫ノ限リニアラサルハ其第貳拾貳條第貳項ニ明文アル所以ノモノハ何ソヤ惟フニ年齢六十歳已上若クハ癩疾不具者ノ嗣子承祖ノ孫其名稱ヲ罷メタル故ヲ以テ更ニ徵集ニ

應スルノキ時期即年齢満二十八歳ニ至リ故ナク之ヲ罷メ更ニ徵兵適齡已前ノモノヲ以テ嗣子承祖ノ孫ト定メ再ヒ徵集猶豫ニ屬セシムルノ弊害アルヲ以テ其更定ノ嗣子承祖ノ孫ニ對シ猶豫ノ原因即六十歳已上タル一若クハ廢疾不具タル一ヲ酌量セサルノ旨趣ニ外ナラサルヘシ是ヲ以テ事務條例第百四拾條ニ徵兵令第貳拾貳條第貳項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其第六項ニ據リ戸主トナリタル者及ヒ其第七項ノ戸主ハ徵集スト雖モ其徵集ニ應スヘキ年ノ一月迄三前戸主ノ同戸籍中已ニ六十歳ニ至ルカ又ハ各自届出ヲナス年ノ九月十五日迄ニ廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ管ムコト能ハサル者ニ齊シキト又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルハ徵集猶豫ニ屬スヘシト有之其六十歳ニ至リ又ハ廢疾不具トナル專柄ハ本條第六項第七項等シク之ヲ適用スヘキモノナルヘシ如何トナレハ第六項若クハ第七項ニノミ之ヲ適用スルトノ明文ナキヲ以テナリ業已ニ之ヲ第六第七兩項ニ適用スルトキハ前戸主其六十歳ニ至リ若クハ廢疾不具トナル專柄ハ固ヨリ六十歳ノモノ若クハ廢疾不具ナルモノヲ云フニアラス則チ六十歳已下ノモノニシテ其徵集ニ應スヘキ年ノ一月迄ニ六十歳ニ至ルカ又ハ無病者ニシテ各自届出ヲナス年ノ九月十五日迄ニ廢疾不具等トナルモノヲ云フハ論ヲ俟クサルナリ故ニ其第六項六十歳ニ至ルノ前戸主トハ嗣子承祖ノ孫ヲ更定シタルトニ於テ年齢六十歳已下ニシテ已ニ廢疾不具等ノモノナレハ嗣子承祖ノ孫ヲ更定シタルカ爲メ其廢疾不具タル一ハ酌量セラレサルモノヲ云ヒ又廢疾不具等トナリタル前戸主トハ其嗣子承祖ノ孫ヲ更定シタルノトキニ於テ已ニ六十歳已上ナレハ嗣子承祖ノ孫ヲ更定シタルカ爲メ其六十歳已上タル一ハ酌量セラレサルモノヲ云フ然レモ其後ニ至リ更定ノ嗣子承祖ノ孫ニ戸主ヲ讓リ自己モ亦六十歳トナリ若クハ廢疾不具等トナルハ猶豫ニ屬セシムルハ本條ノ定ムル所ニ可有之候處官報第三百五拾壹號御省ヨリ太政官ヘ伺第五項ニ廢疾不具者事故ナクシテ更定シタル嗣子承祖ノ孫ト雖モ戸主トナル場合ニ於テハ前戸主即チ廢疾不具者更ニ六十歳ニ至ラサルモ尚徵集猶豫ニ屬スル趣御指令有之右ノ權衡ニ據レハ六十歳已上ノモノ事故ナク更定シタル嗣子承祖ノ孫ト雖モ戸主トナル場合ニ於テハ徵集猶豫ニ屬セサルヲ得サルカ如シ果シテ然ルハ右第百四十條中ノ六十歳ニ至リ若クハ廢疾不具トナル專柄ヲ其第六項ニ適用スルハ如何ナル場合ヲ指シタル儀ニ可有之哉

指令 十七年十月十四日

何之趣條例第百四十條中六十歳ニ至リ云々ノ專柄ヲ其第六項ニ適用スルハ前戸主更立嗣子承祖ノ孫ニ戸主ヲ讓リシトキ年齢六十歳未滿ト雖モ後戸主滿齡迄三年齡六十歳以上トナルノ場合ヲ指シ又廢疾不具トナルノ專柄ヲ其第六項ニ適用スルハ前戸主更立嗣子承祖ノ孫ニ戸主ヲ讓リシトキ廢疾不具ニ非スト雖モ後戸主滿齡迄ニ廢疾不具トナル場合ヲ指スモノトス故ニ年齢六十歳以上ノ者ノ更立嗣子承祖ノ孫ト雖モ戸主トナル場合ニ於テハ猶豫ニ屬スル儀ト心得得事

●徵兵之儀ニ付群馬縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十月二十二日

官報第三百九拾壹號ニ掲ケアル陸軍省御指令ニ前略六十歳以上ノ戸主其嗣子承祖ノ孫ヲ廢疾不具等ノ事故ナクシテ之ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ニ戸主ヲ讓リシトキ其戸主タルモノ徵集猶豫ニ屬スヘキヤ何之趣但同籍ノ者ニ限ル儀ト心得得事ト有之右同籍ノモノトハ實養兄弟ノ別ハ無之候哉果シテ然ラハ其更定嗣子ノ前嗣子廢嫡以前ヨリ同籍ニアルモノヲ指サレタル儀ニシテ廢嫡ノ際同籍ニアラサル二三男他ヨリ復籍又貰受ケタル養嗣子等ヘ家督ナサシムル如キハ徵集猶豫ニ屬セサル儀ト心得可然哉

指令(報) 十七年十月二十八日

去ル廿二日付何府玉縣ヘ指令但書同籍ノ者ニ限ルトハ前戸主ヲ指シタル者ト心得ヘシ

●徵兵ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年九月六日

第壹條 分家又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ本令第貳拾貳條第四項ニ依リ猶豫ノ限ニ無之處其分家絶家若クハ廢家ヲ再興シタル一明治六年一月十日以前ニ係ル者同日以後ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ本令第拾七條第三項ニ依リ猶豫ニ屬スル儀ニ候哉

第貳條 廢疾不具重罪ノ事故ナクシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ本令第貳拾貳條第貳項ニ依リ猶豫ノ限リニ無之處右事故ナクシテ嗣子承祖ノ孫及ヒ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル一明治六年一月十日以前ニ

係ルハ同日以後更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ト雖モ猶豫ニ屬スル儀ニ候哉

第三條 從來全戸失踪ノ故ヲ以親族等ヨリ各自届ヲナス場合ニ於テ若シ満齡者ノ生月相知レサルキハ生年ノ七月ヲ以テ生月ト相定メ可然哉

第四條 舊徴兵令ニ於テ國民軍ノ外免役及ヒ平時免役相當ノ者ニシテ是迄各自届ヲ怠リタル趣ヲ以テ免役及平時免役名簿へ追加申出候者目下有之候處右ハ既ニ徴兵令改正相成候儀ニハ候得共満齡ノ當時免役部分ノ者ニ付先入兵トセス新徴兵令ニ照シ徴集及ヒ猶豫ノ區分相立可然哉

指令 十七年十月二十三日

伺之趣左之通可相心得候事

第壹條第貳條 伺之通

第三條 生年ノ十二月ヲ以生月ト定メ取調ヘシ

第四條 満齡ノ當時免役ノ資格ヲ有スル者ニテ九月十五日迄ニ届出ツル者ハ舊令ニ據リ處分シ同月十六日以後

届出ツル者ハ先入兵トスヘキモノトス

●徴兵之儀ニ付東京府ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十月二十二日

茲ニ戸主アリ死亡ス嗣子或ハ相續人アルモ失踪ノ故ヲ以テ廢嫡シ更ニ他ノ者ニシテ其跡ヲ繼タル戸主ハ令第貳拾貳條第八項ニ明文有之徴集スヘキハ勿論之處其徴集スヘキ年ノ一月迄ニ失踪者失踪五箇年ヲ經過スルトキハ令第貳拾貳條第五項ニ比準シ猶豫ニ取調可然哉

指令 十七年十月二十五日

伺之趣猶豫ニ屬セサル儀ト可心得事

●福井縣ヨリ教導職徴集ノ儀陸軍省ヘ伺(電) 十七年十月六日

本年第拾九號ヲ以テ教導職廢セラルタルニ依リ從來該職ニテ免役ノ者ハ自カラ其資格ヲ失ヒタル者トシ令第百五拾

三條ニ依リ徴集スヘキ儀ト心得可然哉

指令 十七年十一月四日

去月六日電報伺教導職ニテ免役トナリタル者云々ノ儀ハ徴集ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

●宮崎縣ヨリ豫備兵海軍志願タル儀ニ付陸軍省ヘ伺(電) 十七年十月廿九日

豫備隊員ハ海軍志願兵タルヲ得ヘキカ

指令 十七年十一月一日

去ル廿九日電報伺豫備隊員云々ノ儀ハ伺之通

●大坂府ヨリ徴兵令第十八條壹項第二十條貳項消滅ノ儀ニ付陸軍省ヘ伺(電) 十七年九月

本年拾九號達ニ依リ無論徴兵令拾八條壹項貳拾條貳項ハ消滅スルヤ

指令(電) 十七年十一月四日

九月六日電報伺本年拾九號達ニ由リ云々之儀ハ伺之通

●滋賀縣ヨリ舊令ニ依リ免役ノ者其名稱ヲ罷メタル儀ニ付陸軍省ヘ伺(電) 十

七年十一月八日

今般告第貳號ヲ以テ告示相成タル舊令ニ依リ免役ノ者其名稱ヲ罷メタル儀ニ付陸軍省ヘ伺(電) 十七年九月十六日以後翌年四月十日迄ニ其名稱ヲ罷メタル者ニ限ル儀ニテ檢査時限外則チ毎年四月十一日以後九月十五日迄ニ其名稱ヲ罷メタル者ハ徴集ノ限リニアラサル儀ナルヤ

指令 十七年十一月十五日

去ル八日電報伺當省告第貳號告示ニ付云々ノ儀ハ本年九月十六日以後名稱ヲ罷メタル者ハ檢査時限内外ヲ問ハサルモノト心得ヘシ

●舊徵兵令ニテ免役ノ名稱ニ重帶タル者一方罷名稱ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省ヘ伺七
年十月二
十二日

明治十五年以降徵兵ニシテ官吏或ハ公立學校教員ナルヲ以テ免役ニ屬シタル者本年七月中共名稱ヲ罷タリ然ルニ其
罷名稱以前客歲十一月中死跡ヲ相續セシ女戸主ヘ入籍シテ戸主トナリ或ハ五十歳以上ノ者ノ養嗣子トナリ目下其戸
主及ヒ嗣子ノ名稱ハ依然存スルヲ以テ假令檢査時限内ニ得タル名稱ナレバ免役範圍内ト同視シ免役ノ儘存可然哉

指令 十七年十一月四日

同之趣女戸主ヘ入籍ノ戸主ハ伺之通五十歳以上ノ者ノ養嗣子ハ猶豫ニ屬セサル儀ト可心得事

●徵兵取扱方ノ件ニ付山口縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十月二十八日

令第三拾六條ニ當ル名稱罷メノ者届出後即チ九月十
六日以後 異動ヲ生スル者届出方ノ儀ハ別ニ明文之ナシト雖正右ハ令第三
拾五條ニ含有スル儀ニシテ其届出ヲ怠ルモノハ則令第四拾壹條第四拾三條ニ據リ處分セラル儀ト相心得可然哉

指令 伺之通 十七年十一月十七日

●異動届後レノ者處分方ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十一月十七日

明治十七年ノ徵兵ニシテ當時五拾歳以上ノ者ノ養嗣子ニテ免役ニ屬シ候處同年十月廿四日ニ離縁後籍シ免役ノ名稱
ヲ止メタルニ依リ例規ノ通三日以内ニ可届出ノ處延延同月廿九日ニ至リ其届出ヲ爲シタルモノアリ右ハ御省告第貳
號御發布以前ノ儀ニ付令第四拾壹條同第四拾三條ニ照シ處分スルノ限リニ無之哉

指令 伺之通 十七年十一月二十二日

●國民兵役者身上異動届ニ付長野縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十二月五日

國民兵役者各自届出後身上ノ異動ヲ生シタル片届出方ノ儀事務條例中明文無之處本年八月九日滋賀縣伺同月廿三日
御指令ニ據レハ各自ヨリ戸長ヘ届書差出ヘキ時日ハ府縣ニ於テ適宜取定メ戸長ハ同例第貳拾貳條郡區長ハ同第貳拾

八條但書ノ通取扱候儀ト相心得可然哉

指令(報) 十七年十二月十二日

本月五日付伺國民兵異動届扱方ハ伺之通

●富山縣ヨリ布哇國へ出稼ノ者徵兵猶豫ニ付陸軍省ヘ伺(電) 十七年十二月十五日

布哇國へ出稼寄留ノ者徵兵相當ノ節ハ猶豫相成ヘキヤ

指令(電) 十七年十二月二十二日

去ル十五日電報伺布哇國出稼寄留ノ者云々ノ儀ハ猶豫ニ屬セサル儀ト心得ヘシ

●徵兵之儀ニ付埼玉縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年十一月廿五日

徵兵檢査規則第四條ニ身軀ノ發育未タ十全ノ度ニ至ラサル者ハ翌年ノ檢査ニ回スヘキ者トスト有之然ルニ身軀四尺
九寸以上ニシテ本文ニ當リ翌年回トナス者アル片ハ疾病ノ事故ト見做シ徵兵令第拾八條第六項ニ組入可然哉

指令(報) 十七年十一月二十七日

去ル廿五日付伺身軀發育未全ノ者ノ儀ハ伺之通

●徵兵令中疑義ノ儀ニ付陸軍省ヨリ太政官ヘ伺 十七年十一月十九日

徵兵令中疑義ニ涉リ處分上差支候儀左ニ相伺候條速ニ御指令相成度此段相伺候也

第一項 徵兵令第十七條及ヒ第二十二條中癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル云々トアリ右ハ徵
兵事務官ニ於テ徵兵事務條例第百四十五條ニ據リ檢査所ニ呼出シ軍醫ノ診斷書ヲ以テ其癩疾不具等ノ情況ヲ檢査
シ果シテ一家ノ生計ヲ營ム能サルモノト認定スルモノニ限リ猶豫ノ處分ヲ爲スヘキ儀ニ候哉

第二項 前項果シテ然ラハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルヲ認定スルハ其身分若クハ職業ニ應シ家計ヲ失フモノト
否トヲ以テ區別スヘキモノニ候哉

指令 十七年十二月十三日

第一項 伺ノ通

第二項 身分若クハ職業ノ如何ヲ問ハス其身廢疾又ハ不具等ニシテ自ラ一家ノ生計ヲ擔當スルコト能ハサル者ヲ以テ廢別ス可シ

●年齢正誤ノ者徴兵所分ノ儀東京府ヨリ陸軍省ヘ伺 十七年九月三十日

茲ニ徴兵適齡前又ハ適齡ニ際シ戸籍面年齢誤認爲テ國民兵入籍届年齢モ誤認ナルノ趣ヲ以テ年齢正誤顯出ル者有之右ハ確證アル者ニ限リ開届来リ候處其開届タル年齢前年ニ溯リタル者ハ舊徴兵令ニ照シ當時ノ資格ニ依リ國民軍ノ外免役及ヒ平時免役等ニ取調可然哉

伺令 伺之通 十八年一月二十四日

但客年九月十五日迄三海令第六拾壹條ノ届出ヲ爲サヘルトキハ先入トシテ徵集スヘシ

●徴兵相當者體格乙種及身幹四尺九寸以上ノ者處分方ノ儀ニ付栃木縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年一月八日

一徴兵事務取扱手續第十六項ニ雜卒若クハ職工適當ノ者不足スルハ其不足ハ體格ノ五種兵ニ亞ク者ヨリ之ヲ補ヒ尚不足スルハ云々ト有之右五種兵ニ亞ク者トハ即合格者中體格乙種ナル者ニテ此乙種ナルモノハ假令寸尺ハ五尺三寸以上ナルモ五種兵ノ不足補充スヘキモノニ無之單ニ雜卒等ノ不足ヲ可補モノニ止マリ候様相見候就テハ若シ雜卒モ亦甲種ニ充足スルハ此乙種ナルモノハ遂ニ抽籤セシメサルモノニ候哉又ハ雜卒以下ノ補充員トシテ必ス抽籤セシムヘキモノニ候哉

但本文抽籤セシメサルモノトセハ検査後調製スヘキ名簿中何レノ名簿ニ組入レ可申哉又抽籤セシムルトセハ甲種ニテ雜卒適當モノト各別ニ抽籤セシムヘク候哉

一身幹四尺九寸以上ノモノハ手續前同項ノ旨趣ニ依リ候得ハ體格乙種ニテ雜卒ノ不足ヲ補ヒ尚不足スルハニシテ始テ四尺九寸以上中體格甲種ノ者ヨリ補填スル儀ニ候得ハ若シ種マテニテ其以數充足スルハ此四尺九寸以上ノ者

ハ直ニ翌年回シト爲スヘキ哉又ハ猶補充員トシテ抽籤セシムヘク候哉
但抽籤セシムルハ乙種者ノ例ニ倣ヒ雜卒以下ノ補充員トシテ抽籤セシム可然哉
右相伺候也
伺令 十八年一月十五日

伺之趣身幹五尺以上ノ種ハ五尺以上五尺三寸未満甲種ノ末番號二次キ四尺九寸以上ノ甲種ハ五尺以上乙種ノ末番號二次キ四尺九寸以上ノ種ハ其甲種ノ末番號二次キ別ニ抽籤セシメ共ニ補充員トスヘキ儀ト可心得申

●徴兵検査所へ出頭セサル者取扱及徵集猶豫ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年二月十日

徴兵事務條例第四拾條ニ壯丁中疾病處刑又ハ逃亡失踪等ニテ検査所へ出頭セサル者アル時ハ戸主或ハ親屬ノ者ヨリ逃亡失踪等ノ者ハ其事由患ニ戸長ノ與書證印憲兵部若クハ警察署ノ證認ヲ受ケ云々ト有之然ルニ適齡者ニシテ全戸或ハ單身戸主ニテ失踪シ他ニ親屬モ無之者ハ右事由患ヲ出スヘキモノ之ナキニ付其首戸長ヨリ届出サセ可然哉果シテ然ハ官吏ノ届書面ニ憲兵部若クハ警察署ノ證認爲相交候儀ハ總當ナラサル様相考候間戸長ハ該人名ヲ憲兵部若クハ警察署ヘ通牒スルマテニテ可然哉

茲ニ戸主アル戸主死亡ス嗣子長男アルモ失踪ノ故ヲ以テ親族協議管轄處ノ許可ヲ請ケ廢嫡シニ男適齡者ヲ以テ戸主死亡跡ヲ相續スルモノ之ノ右ハ令第六拾貳條第八項ニ依リ徵集スヘキハ勿論ノ處ニ男適齡者ハ嗣子ノ名義ハ得サルモ長男廢嫡ノ上ハ嗣子ノ位ヲ占メ戸主ノ死亡跡ヲ繼キ且ツ長男失踪五箇年ヲ經過シタル者ニ付同條第五項ノ精神ニ依リ猶豫ニ取調可然哉

指令 十八年二月十四日

伺之趣左之通可心得事

第一項 前段伺ノ通後段通牒ニ及ハス

第十二類 軍事

第二項 猶豫ニ屬セズ

●輜重輸卒身上異動届出方之儀ニ付栃木縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年二月
現役兵入營中身上異動届出方之儀ハ客年九月九日附本縣向へ御省ヨリ御指令之趣所屬ノ隊へ届出へキモノトス
有之了承候得共輜重輸卒ノ如キハ現役兵ニシテ入營セサル者常ニ半ヲ過キ候此者身上ニ異動ヲ生シトキ其届出方
ハ本人又ハ戶主ヨリ府縣駐在官或ハ郡區駐在官ノ内へ届出可然哉徵兵事務條例中明文モ無之ニ付此段相伺候也

指令 十八年三月七日

伺之趣本人又ハ戶主ノ届書ニ戸長郡區長ノ貞書證印ヲ受ケ郡區駐在官へ可届出儀ト可心得事

●豫備後備兵服役中屯田兵ニ志願スル者ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ陸軍省へ伺(電) 十八年三月九日

豫備後備兵服役中ノ者ニテ屯田兵ニ志願スルモ惣支ナキヤ直ク御指揮アリタシ

指令 十八年三月十三日

豫備後備兵ニテ屯田兵志願ハ伺之通但其旨連名簿へ記載スヘシ

●事故有之入營セサル輜重輸卒取扱方島根縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年三月三日
從前現役輜重輸卒ニシテ入營ノ際病氣又ハ犯罪等ニテ入營セサル者ハ他ノ現役輸卒ト同シク豫備軍ニ編入先入兵又
ハ翌年回等ニ不致例ニ有之候處改令ノ今日ニ至ルモ同様豫備役ニ編入シ入營延期翌年回等ノ處分ニ不及儀ニ可有之
哉

指令 十八年三月二十四日

伺之趣輜重輸卒ト雖モ徵兵令第四拾條ニ據リ處分スヘキ儀ト可心得事

●徵兵令疑義ノ儀ニ付京都府ヨリ陸軍省へ伺 十七年十月二日

條例第百三拾二條ニハ本令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ニ編入ノ際身體検査ヲ受ケシムヘシトアリ然
ルニ十七年兵ニシテ札幌農學校ニテ修業中ナルヲ以テ一箇年ノ徵集猶豫ナリタルモノ本年ニ至リ該校ニテ卒業セシ

モノアリ右者第一豫備徵員へ編入可致モノト相考候就テハ身體検査等ノ儀ハ如何相心得可然哉

指令(電) 十七年十一月二十九日

本人尙札幌へ寄留中ナレハ身體検査ヲ要セス第一豫備徵員ニ編入スヘキ儀ト心得ヘシ

●徵兵ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省へ伺 十八年四月七日

第一條 徵兵適齡者過齡ノ當時失踪シ先入兵名簿へ編入ノ者目下復歸シ及過齡届漏ノ廢發露スル者有之其年齡ヲ算
スレハ常備後備ノ年限即三十二歳ヲ經過セリ右ハ萬徵兵事務條例ニ於テハ其三十一歳ヲ越ルルハ其時々經伺ノ答
ニ候處新令ニ於テハ右等處分ノ例規無之就テハ五種兵ノ現役年限年齢ハ三十五歳迄ニ付前件ノ者モ滿三十二歳迄ハ
直チニ徵集シ其年齡ヲ超過セシ者ハ其時々相伺御指揮ヲ得ヘキ儀ニ候哉

第二條 徵兵閉鎖後能名簿ノ者翌年徵集スヘキ儀ハ條例第百四十七條三明記有之候處其名稱ヲ罷メタルハ徵兵署
閉鎖後ナレバ其年四月十日以前再ヒ條例第百三十條後段ノ資格ヲ得ルルハ尙猶豫ニ屬シ條例第百三十一條ニ當ル資
格ヲ得ルルハ仍ホ検査時限内ニ係ルヲ以テ猶豫ニ屬セス翌年徵集スヘキ儀ニ候哉

指令 伺之通 四月十四日

●徵兵諸名簿異動取扱方ノ儀ニ付東京府ヨリ陸軍省へ伺 十八年三月五日

第壹條 徵集猶豫名簿 先入兵不參名簿 入營延期不參名簿 翌年回名簿 本令第十八條第五
ル毎ニ加除訂正致シ置サルハ臨時徵集及ヒ翌年検査ニ差支候ニ付平素加除訂正可致ハ勿論ノ儀ニ候哉果シテ然
ルハ四月十一日以後九月十五日迄ニ轉居等ノ異動セシト届出ノ成規無之右ハ適宜期限ヲ定メ爲届出可然哉
第二條 前條諸名簿中ノ者他ノ府縣へ轉籍及ヒ離縁トナル者ハ本簿ヲ削除シ異動名簿ヲ調製致シ之ニ其理由ヲ登記
シ置キ轉居先キ府縣へ通報シ又他ノ府縣ヨリ轉入セシ者ハ相當名簿へ追加シ置可然哉

指令 十八年四月二日

書面兩條共同之通

●現役兵其他異動取扱方之儀ニ付東京府ヨリ陸軍省へ伺 十八年四月一日

第一條 新兵入營前甲府縣ヨリ乙府縣へ轉籍又ハ至戸寄留スル者乙府縣ニ到着スルハ番號刺符ヲ添へ府縣廳へ届出ル迄ノ取扱ハ條例第八十四條ニ掲ケ有之候得共其後ノ取扱方明記無之右ハ府縣廳ニ於テ番號刺符ヲ受領スルハ直ニ籤簿へ記入シ刺符訂正方之儀ハ後備軍司令部へ照會可致儀ニ候哉

第二條 新兵入營後身元轉居等ノ異動ヲ生シタルハ取扱方成規無之右ハ轉居ニ係ル分ハ轉居先郡區長及戸長ノ稟書証印ヲ以テ身元ヨリ直ニ本人所屬ノ隊へ爲届出可然哉

第三條 第二豫備隊員ニシテ身上ニ異動ヲ生シタルハ取扱方成規無之右ハ名簿上平素加除ヲ爲シ置サルハ臨時徵集ノ節差問候ハ勿論ノ儀ニ付適宜届出之期限ヲ相定メ其異動ヲ爲届出可然哉

指令 四月十四日

伺之趣左之通可心得申

第一條 伺之通

但刺符ノ訂正ハ領臺へ照會スヘシ

第二條 親族ヨリ本人へ通牒シ本人ヨリ所屬ノ隊ニ届出スヘキモノトス

第三條 伺之通

●徵兵検査時日ノ指定ヲ受ケ參會セサル者處分ノ儀ニ付陸軍省ヨリ太政官へ伺 十八年二月五日

徵兵検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ徵兵令第四十三條ニ據リ處分スヘキ儀ニ候處戸主ニ於テ検査時日ノ指定ヲ受ケ之ヲ其検査ヲ受クヘキ者ニ示サヘルヨリ検査所ニ參會セサル者アリ右ハ正當ノ故ナクシテ參會セサル者トナシ該條ニ據リ検査ヲ受クヘキ者ヲ告發シ可然候哉又検査時日ノ指定以前ニ於テ検査ヲ受クヘキ者失踪又ハ逃亡シ爲メニ検査所ニ參會セサル者アリ其失踪逃亡ハ指定以前ニ係ルト雖モ之ヲ正當ノ事由ト爲スラ

得サルヲ以テ是亦該條ニ據リ告發スヘキ儀ニ候哉

指令 十八年三月十日

前段伺ノ通後段令第四十四條ニ據リ告發ス可キ儀ト可心得申

●愛媛縣ヨリ近衛兵入營附添人ノ儀陸軍省へ伺 (電) 十八年四月二十八日

近衛兵附添人ハ徵兵事務取扱手續廿三項ノ割合ニ依リ爲附添可然哉

指令 (電) 十八年四月三十日

近衛兵入營附添人ノ儀ハ伺之通

●徵兵取扱ノ儀ニ付石川縣ヨリ陸軍省へ伺 十八年七月廿一日

第一條 令第拾八條第五項第六項 第十九條第廿壹條ニ該當猶豫ニ屬シタル者常備七年間ニ在ツテ令第拾七條ノ資格ヲ得ルモ可届出儀令及條例中明文無之候ニ付其事故ヲ止メサル間ハ其條項ヲ以テ論スヘキモノニテ其事故ヲ止メタルハ令第三拾六條ニヨリ可届出儀ニシテ條例第拾六條ノ書類相添へ徵集猶豫ノ儀届出タル上令第拾七條ニヨリ處分候儀ト相心得可然哉

第二條 令第拾八條第五項第六項及第四拾條 (規避ノ者)ニ該當ノ者同第拾七條ノ資格及同第拾八條第拾九條第廿壹條ノ事故ヲ得タルハ條例第拾六條ノ書類相添へ届出サセ其條項ニヨリ處分候儀ト相心得可然哉

指令 十八年九月十五日

伺之趣左之通可心得申

第一條 伺之通

第二條 伺之通

但九月十六日ヨリ翌年四月十日迄ノ間ニ第十八條第七項並ニ陸海軍生徒ヲ除ク 第拾九條及ヒ第貳拾壹條ニ當ル者ハ猶豫ニ屬セス

●徵兵徵否ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年九月十日

條例第四百拾壹條年齡ノ分界ハ令第貳拾貳條第三項ノ前戸主ニハ關係無之旨大阪府ヘ御指令按第貳拾貳條第三項ノ前戸主ニハ關係無之旨大阪府ヘ御指令五號掛帳相成就テハ前戸主ノ年齡ヲ計算スルハ其隱居シタル時ヲ以テ分界ト爲スヘキ儀ニ可有之票シテ然ルルハ五拾九歳ノ者戸主ヲ罷メ五十歳ノ養嗣子其跡ヲ繼キ戸主トナリ拾歳ノ長男隱居者ヲ有スル者ノ如キ其長男適齡ニ至レハ現戸主六拾歳以上トナルモ前戸主父祖六拾歳未滿ニシテ戸主ヲ罷メタルヲ以テ徵集猶豫ニ屬セサルカ如ク相見候得共右大阪府ヘノ御指令ハ相續其順序ヲ失シタル令第貳拾貳條第三項ニ對シ示指サレタル者ニテ前陳ノ如キ正當ノ順序ニヨリ相續ノ者ハ勿論拾七條三項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スル儀ト相心得可然哉

指令 伺之通 十八年九月十七日

●徵兵令疑義ニ付岩手縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年九月十四日

舊徵兵令第廿八條第八項ニ據リ國民軍ノ外免役相成候學校教員タルモノ其所持セル師範學校卒業證書又ハ教員免許狀有効年限滿ツルルハ自然教員ノ名稱ヲ失ヒ徵集ニ應セシムヘキ儀ニ候得共該有効年限滿限ニ先チ試験ヲ請ヒ更ニ卒業證書又ハ免許狀ヲ得教員ノ名稱ヲ失ハサルニ於テハ先キノ卒業證書又ハ免許狀ノ有効滿限ニ際スルモ徵集スルノ限ニ無之候哉

指令 伺之通 十八年九月二十二日

●臨時徵兵ノ儀ニ付山梨縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年八月廿六日

當縣西山梨郡相川村士族近藤富三附籍平民

横山 雄二

嘉永四辛亥年九月十一日生

右ノ者備明治七年臨時徵兵適齡ノ處其以前ヨリ無籍ニテ所々徘徊致居今般成籍ニ際シ同年ノ徵集ニ洩レタル廉發覺セリ然ルニ臨時徵兵ノ儀ハ一時ノ徵募ニ止リ其取扱上尋常徵兵トハ相異ノ候ニ付即今漏徵發覺スルモ告發並ニ徵集

スヘキ限リニ無之様被考候就テハ本人ハ勿論以後右等ノ者發覺スルモ御指揮ヲ俟タス不問ニ指キ不苦儀ニ候哉何等類例モ無之ニ付相伺候

指令 伺之通 十八年十月六日

●現役輜重輸卒服役期限ノ儀ニ付群馬縣ヨリ陸軍省ヘ伺 十八年十月十六日

徵兵令第九條ヲ按スルニ陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スル云々トアリ然レハ現役輜重輸卒服役期限ノ如キ何等御達アルニアラサレハ同令第三條之通現役三年ヲ終リタル後豫備役ト相心得可然哉

指令 伺之通 十八年十月三十日

●裁縫夫造靴夫等ハ徵兵令十八條工夫ニ含有スル儀ニ付福井縣ヨリ海軍省ヘ伺 (電) 十八年十月二十四日

準卒ノ内裁縫夫造靴夫等ハ徵兵令十八條工夫ニ含有スルヤ

指令 伺之通 十八年十月三十日

●沿革要領

明治三年十一月十三日徵兵規則ヲ定メ府藩縣ニ令ス○四年正月十三日布告ヲ以テ府藩縣徵兵支度料並旅費ヲ定ム○同年五月廿三日東海道府藩縣ニ令シテ徵兵差出方ヲ見合セシム○五年十一月第三百七十九號布告ヲ以テ徵兵令制定ノ圖書及告諭書ヲ府縣ニ下シテ告諭セシム○六年一月十日陸軍省ヨリ徵兵令ヲ頒布ス○七年四月廿七日陸軍省徵兵入費概則ヲ假定ス○同年十二月陸軍省第四百七十二號達ヲ以テ徵兵事務手續書ヲ定ム○八年一月陸軍省達第十二號達ヲ以テ陸軍徵兵入費概則ヲ改訂ス○同月陸軍省第廿三號達ヲ以テ徵兵令參考ヲ頒布ス○同年五月陸軍省布第百六十二號達ヲ以テ徵兵事務手續書ヲ定ム○同年第六百六十二號布告ヲ以テ徵兵令ヲ改訂ス○同月陸軍省達第百一十一號達ヲ以テ徵兵令參考ヲ改訂ス○同年十一月陸軍省達第百一十二號達ヲ以テ後備軍召集條例ヲ定ム○九年二月陸軍省達第十八號達ヲ以テ徵兵入費概則ヲ改正ス○同年十二月大藏省乙第百九號達ヲ以テ徵兵入費概則ヲ定ム○十一年八月第二十號布告ヲ以テ常備

兵役ヲ竟ヘサル前分家ヲ禁ス○十二年十月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令ヲ改正シ徵兵ニ關スル從前ノ布告達等ヲ廢ス○同年十一月陸軍省達甲第二十一號達ヲ以テ地方徵兵醫員職務概則ヲ定ム○同月陸軍省布第二號布達ヲ以テ徵兵事務條例ヲ定ム○同年十二月大藏省乙第四十八號達ヲ以テ徵兵入費定則ヲ改定ス○十四年三月陸軍省達甲第七號達ヲ以テ後備軍司令部條例ヲ定ム八年十一月達後備軍官員職務概則ヲ廢ス○同月陸軍省達甲第八號達ヲ以テ豫備軍後備軍編制條例ヲ定ム○十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令ヲ改正ス○十七年七月第十八號布達ヲ以テ徵兵事務條例ヲ定ム○同年八月陸軍省達甲第三十六號達ヲ以テ陸軍徵兵事務取扱手續ヲ定ム

第百廿三 海軍志願兵徵募規則 明治十八年六月二十日 第拾二號布達

明治十六年 第三拾八號布達海軍志願兵徵募規則別冊ノ通改正ス右布達候事 (別冊)

海軍志願兵徵募規則

- 第一條 海軍兵員タランコトヲ志願スル者ハ本則ニ照シテ之ヲ徵募ス但軍樂隊ハ別ニ規則ヲ設ク
- 第二條 志願兵ノ服役ヲ別チテ現役及ヒ豫備役トス
- 現役年期ハ長期ヲ十個年短期ヲ七個年トス
- 豫備役ハ現役長期ヲ終リシ者ヲシテ二個年間短期ヲ終リシ者ヲシテ五個年間之ニ服セシム

徵兵令ニ依リ服役スル海軍諸兵及ヒ海軍工夫ニシテ志願兵ニ轉スル者ノ服役年數ハ前後ヲ通算ス

第三條 志願兵職名ノ大別ハ左ノ如シ

水兵、火夫、職工、看病夫、厨夫

第四條 水兵火夫ニ徵募スル者ハ年齢十七歳以上二十五歳未満ニシテ體格強壯身幹五尺以上トス

第五條 水兵火夫ノ年齢ハ第四條ニ掲クル如シト雖モ左ニ掲クル者ハ出願スルコトヲ得

一年齡十五歳以上十七歳未満ニシテ體格非常ニ強壯身幹四尺九寸以上ノ者但十七歳ニ滿タサレハ服役年數ニ算入セス

二年齡三十五歳未満且體格強壯身幹五尺以上ニシテ西洋形船舶ニ従事シ水夫火夫ノ業ヲ操リシ者

三年齡三十五歳未満且體格強壯身幹五尺以上ニシテ商船學校ノ卒業證書ヲ所持シ或ハ海員免狀ヲ所持スル者

第六條 職工看病夫ニ徵募スル者ハ其職ニ熟セルモノニシテ體格強壯年齢ハ十九歳以上三十五歳未満トシ厨夫ニ徵募スル者ハ體格強壯ノモノニシテ年齢ハ十九歳以上三十五歳未満トス

第七條 豫備役ニ入ル者ニハ其證書ヲ附與シ常ニ家居シテ産業ヲ營マシメ戰時或ハ事變ニ

際シ之ヲ召集ス

第八條 現役ヲ終リ尙三個年以上ノ再役ヲ出願スル者ハ之ヲ許可ス但現役十二年ニ滿ル者ハ豫備役ニ服セシメス

第九條 現役中技藝ニ熟達シ行狀方正且才氣アル者ハ拔擢シテ下士ニ任ス

第十條 現役中ハ食料被服ヲ官給シ且相當ノ日給ヲ與フ

第十一條 現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ壹個年金拾圓宛ヲ給ス

第十二條 服役年期中ハ現役豫備役ヲ論セス何等ノ事故アルモ免役出願ヲ許サス

第十三條 現役年期已ニ滿ル者ト雖モ戰時若クハ事變ノ際或ハ航海中ハ其期ヲ延スコトアル可シ此場合ニ於テハ其延期日數ヲ豫備役年期ヨリ除算ス

第十四條 徵募ノ地方及ヒ其人員等ハ徵募ヲ要スルトキ豫メ海軍卿ヨリ其地方廳ニ達シ志願人ヲ調査セシム

第十五條 地方廳徵募ノ達ヲ受ケタルトキハ本籍寄留ノ別ナク志願人ノ下検査ヲ爲シ合格人員ヲ海軍省ニ届出可シ

第十六條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ然レトモ居住ノ地ニ親族或ハ後見人ナキトキハ其地ニ本籍アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第十七條 身元引受人ハ第一號書式ノ願書ニ志願人ノ履歷書ヲ添へ管轄地方廳ニ差出シ該廳ハ其願書正副共ニ巡回募兵使ニ出ス可シ

第十八條 左ニ掲クル者ハ出願スルコトヲ許サス

一 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

二 公權停止中ノ者

三 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第十九條 左ニ掲クル者ハ志願スルコトヲ得ス

一 陸軍諸兵ノ豫備役後備兵役ニ在ル者及ヒ先入兵タル者

二 陸軍兵ノ補充員タル者

三 徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役兵及ヒ先入兵タル者

第二十條 募兵官員及ヒ其職務ハ左ノ如シ

募兵使

海軍佐官或ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツ府縣ニ派出シテ兵員徵募ノ事務ヲ掌ル

募兵醫官

海軍軍醫ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ志願人ノ身幹體格ヲ検査スル事ヲ掌ル

募兵書記

海軍下士或ハ十一等以下ノ軍屬ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ諸記録ノ事ヲ掌ル

第二十一條 地方長官ハ屬官ヲシテ管内兵員徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第二十二條 郡區長及ヒ戶長ハ其郡區町村内兵員徵募ニ關スル事ヲ掌ル可シ

第二十三條 募兵使ハ府縣屬官及ヒ郡區長ト商議シ豫メ検査ノ場所及ヒ日割人員等ヲ定メ
 戸長ヲ經テ志願人ニ出頭ヲ命ス可シ
 第二十四條 志願人ノ検査ハ府縣屬官或ハ郡區長ノ立會ヲ要ス但郡區長事故アルトキハ其
 書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得
 第二十五條 検査合格ノ者ニハ募兵使ヨリ立會ノ府縣屬官或ハ郡區長ヲシテ第二號書式ノ
 採用證書ヲ附與セシム
 第二十六條 検査合格ノ者ニ採用證書ヲ附與シタルトキハ戸長ヨリ第三號書式ノ本人戸籍
 明細書ヲ出サシム
 第二十七條 寄留地ニ於テ採用スル者ハ募兵使ヨリ其旨本籍ノ地方廳ニ通知シ該廳ハ本人
 所管ノ戸長ヲシテ第二十六條ニ掲クル戸籍明細書ヲ出サシメ募兵使或ハ鎮守府ニ送付ス
 可シ
 第二十八條 採用ノ兵員ハ募兵使携帶ノ誓約簿ニ各自記名捺印ス可シ
 第二十九條 合格ノ者所要ノ人員ニ超過スルトキハ抽籤法ヲ以テ當籤者ヲ採用ス
 第三十條 抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムルモノトス但便宜ニ因リ一名乃至三名ヲ抽籤總代ト
 爲スコトヲ得
 第三十一條 検査呼出ニ際シ病氣或ハ父母ノ重病等ノ爲メ一時出頭シ難キ者或ハ之カ爲メ
 願書却下ヲ請フ者ハ其事實ヲ詳記シ戸長ノ證明ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使ニ申出其處分

ヲ受ク可シ
 第三十二條 徵募ノ兵員各地發程ノ期限ハ募兵使ヨリ達ス可シ府縣屬官或ハ郡區長ハ府縣
 或ハ郡區毎ニ其兵員ヲ便宜ノ場所ニ集合セシメ附添人一名若クハ二名ヲ附シ同時ニ發程
 セシム可シ
 第三十三條 疾病其他已ムヲ得サル事故ニテ發程シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ疾病者ハ醫師
 ノ診斷書ヲ添
 フ戸長ノ證明ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使或ハ鎮守府ニ届出可シ而シテ其事故止ムトキハ
 郡區長ニ届出郡區長ハ鎮守府ニ届出速ニ發程セシム可シ
 第三十四條 第三十二條ニ掲クル附添人旅費并ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費
 ハ一般徵兵ノ定則ニ照準シ官費ヲ以テ支給ス但志願人検査ノ場所へ往復并ニ滞在等ノ費
 用ハ總テ自辨タル可シ
 第三十五條 現役中公務ニ因リ傷痍疾病ヲ受ケ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ海軍恩給令ニ照準シテ
 相當ノ恩給ヲ與フ
 第三十六條 現役中傷痍疾病ニ罹ル者ハ海軍病院ニ入レ治療セシメ若シ兵役ニ堪ヘ難キ者
 ハ免役ノ上旅費ヲ給シ歸郷セシム但服役實期十一年以上ノ者ハ第三十五條ニ同シ
 第三十七條 現役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等非常ノ事故アリ一時已ムヲ得スシ
 テ父母又ハ親族等ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ハ醫師ノ
 診斷書ヲ添フ戸長ノ與書證明ヲ受ケ本人ノ所轄廳
 ニ願出ルトキハ詮議ノ上往復ヲ除キ二週日以内ノ歸省ヲ許ス其旅費ハ自辨タル可シ但二

等若水兵若火夫ハ本文ノ限ニ在ラス
 第三十八條 臨時志願兵ノ補闕員充スルモノヲ云フ補ヲ要スルトキハ募兵使ヲ派遣セヌ水
 兵火夫職工ハ鎮守府看病夫ハ軍醫本郡尉夫ハ主計本部ニ於テ徵募スルコトヲ得
 第一號書式用紙英濃紙

海軍兵員願

何年何月何日於何國何區何郡何村何町何番地

何府何國何區何郡何町何番地寄留者ハ寄留地モ
明細ニ記ス可シ
 華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何 某

年齡何年何月何年何ヶ月

右ノ者何個年期海軍水兵(火夫或ハ何々)志願ニ付御檢査ノ上御採用相成候様其筋ニ御申立
 被下度此段奉願候也

何府何國何區何郡何町何番地

華士族平民

右何某父或ハ兄又ハ何々

身元引受人 何 某印

年月日

前書之通相違無之候也

右戶長

何 某印

何府知事 何縣令 何某殿

前書願出ニ付本人檢査ノ上御取捨有之度候也

年月日

何府知事 何縣令 何 某印

海軍募兵使

御中

第二號書式

何府何國何區何郡何町何番地

華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何 某

右何個年期ヲ以テ海軍水兵(或ハ何々)ニ採用候事

海軍募兵使

海軍何官何某印

年月日

第三號書式

戶籍明細書

本管族籍 氏名 肩書ニ戸主カニ三男カ
 養子カ明記スヘシ
 出生ノ年月日
 生國地名
 本籍住所
 寄留住所 全戸カ單身カ
 明記スヘシ
 家族人名及其誕辰 但父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ記ス
 父氏 何年何月何日生 母 何年何月何日生 上名 弟氏 上名 姉同 上名
 妹 何年何月何日生 其他右ニ準ス
 前書之通相違無之候也
 年月日 右戸長 何 某印

●同指令

●扶助金下賜ノ儀ニ付山口縣ヨリ海軍省ヘ伺 十六年十一月五日
 一家ヨリ二名水兵志願合格ノキハ扶助金各自ニ下賜可相成哉
 指令 十六年十一月八日
 一家ヨリ水兵二名採用セシキハ其二名分ノ扶助料ヲ給與スヘシ
 ●海軍志願兵ノ儀ニ付宮城縣ヨリ海軍省ヘ伺 十七年十月九日

海軍志願兵徵募規則第三條第四條第五條ニ適合スルモノハ現今豫備徵員ハ勿論補充員編入ノ者ト雖モ志願スルヲ得ル儀ニ候哉

指令(電) 十七年十月二十八日
 伺之趣補充員ハ海軍志願兵タルヲ得ス

●海軍志願兵ノ儀ニ付宮崎縣ヨリ海軍省ヘ伺(電) 十七年十月二十九日
 豫備徵員ハ海軍志願兵タルヲ得ヘキ乎
 指令(電) 十七年十月三十一日
 豫備徵員ハ海軍志願兵タルヲ得

●海軍兵選定ノ儀ニ付徳島縣ヨリ海軍省ヘ伺 十七年十月十五日
 徵兵事務條例第五拾六條海軍兵徵集ノ節其第壹項乃至第六項相當ノモノハ同條例第拾六條各自居書ニ第壹項ハ卒業證書ノ寫第貳項ハ海員免狀ノ寫第三項ハ所屬長又ハ會社社長等ノ證明書第四項ハ會テ該職業ニ從事セシ証左第五項第六項ハ船長又ハ雇主ノ證明書等ヲ附著シ届出シム可ク儀ニ候哉又ハ身體檢査ノ節本人ニ訊問シ其申立ニヨリ選定スヘキ儀ニ候哉

指令 十七年十月二十八日
 伺之趣各自届出ニ記載スル職業ニ依リ徵兵事務條例第貳拾壹條ノ人別表ヲ製シ同例第五拾壹條ニ依リ區別スル儀ト可相心得申

●水兵家族扶助金ノ儀ニ付福岡縣ヨリ海軍省ヘ伺 十七年十月六日
 本年太政官第貳拾壹號布達ヲ以テ昨明治十六年第三拾八號布達海軍志願兵徵募規則第拾貳條御改正相成候處今般御省ニ第拾三號ヲ以テ下士家族扶助金ノ儀モ同様相心得ヘク尤現今服役中ノ者滿期迄ハ從前ノ道給與候旨被相違候ニ付テハ水火去家族扶助金ノ儀モ目下服役中ノ者ハ右例ニ據リ從前ノ金額御給與相成候儀ト相心得可然歟

本管族籍
 氏 名 肩書ニ戸主カニ三男カ
 養子カ明記スヘシ
 出生ノ年月日
 生國地名
 本籍住所
 寄留住所 全戸カ單身カ
 明記スヘシ
 家族人名及其誕辰 父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ記ス
 但父母ノ實養ヲ群ニス可シ
 父氏 何年何月何日生 母 同 兄氏 上名 弟氏 上名 姉 同 上名
 妹 何年何月何日生 其他右ニ準ス
 前書之通相違無之候也
 年 月 日 右戸長 何 某印

●同指令

●扶助金下賜ノ儀ニ付山口縣ヨリ海軍省へ伺 十六年十一月五日
 一家ヨリ二名水兵志願合格ノ片ハ扶助金各自ニ下賜可相成哉
 指令 十六年十一月八日
 一家ヨリ水兵二名採用セシキハ其二名分ノ扶助料ヲ給與スヘシ
 ●海軍志願兵ノ儀ニ付宮崎縣ヨリ海軍省へ伺 十七年十月九日

海軍志願兵徵募規則第三條第四條第五條ニ適合スルモノハ現今豫備徵員ハ勿論補充員編入ノ者ト雖正志願スルヲ得ル儀ニ候哉
 指令(電) 十七年十月二十八日
 伺之趣補充員ハ海軍志願兵タルヲ得ス

●海軍志願兵ノ儀ニ付宮崎縣ヨリ海軍省へ伺(電) 十七年十月二十九日
 豫備徵員ハ海軍志願兵タルヲ得ヘキ乎
 指令(電) 十七年十月三十一日
 豫備徵員ハ海軍志願兵タルヲ得

●海軍兵選定ノ儀ニ付徳島縣ヨリ海軍省へ伺 十七年十月十五日
 徵兵事務條例第五拾六條海軍兵徵集ノ節其第壹項乃至第六項相當ノモノハ同條例第拾六條各自屆書ニ第壹項ハ卒業證書ノ寫第貳項ハ海員免狀ノ寫第參項ハ所屬長又ハ會社社長等ノ證明書第四項ハ曾テ該職業ニ從事セシ證左第五項第六項ハ船長又ハ雇主ノ證明書等ヲ附着シ届出シム可ク儀ニ候哉又ハ身體檢査ノ節本人ニ訊問シ其申立ニヨリ選定スヘキ儀ニ候哉
 指令 十七年十月二十八日
 伺之趣各自届出ニ記載スル證察ニ依リ徵兵事務條例第貳拾壹條ノ人別表ヲ製シ同例第五拾壹條ニ依リ區別スル儀ト可相心得申

●水兵家族扶助金ノ儀ニ付福岡縣ヨリ海軍省へ伺 十七年十月六日
 本人大政官第貳拾壹號布達ヲ以テ昨明治十六年第三拾八號布達海軍志願兵徵募規則第拾貳條御改正相成候處今般御省シ第拾三號ヲ以テ下士家族扶助金ノ儀モ同様相心得ヘク尤現今服役中ノ者滿期迄ハ從前ノ通給與候旨被相違候ニ付テハ水火夫家族扶助金ノ儀モ目下服役中ノ者ハ右例ニ據リ從前ノ金額御給與相成候儀ト相心得可然歟

指令 伺之通 十七年十一月十三日

●沿革要領

明治四年二月十七日布告ヲ以テ海軍水卒撰用ニ付志願ノ者ハ地方官ニ於テ取調兵部省ヘ申出シ
シヨ○五年九月海軍省シ第百廿七號布達ヲ以テ海兵並水火夫徵募規則ヲ定ム○十六年十二月
第三十八號布達ヲ以テ海軍志願兵徵募規則ヲ定ム○十八年六月第十三號布達ヲ以テ前令ヲ改正ス

第十三類 教育

第百廿三 教育令

明治十八年八月十二日 第貳拾三號布告

明治十三年^{月十二} 第五拾九號布告教育令別冊ノ通改正ス

但明治十四年^{月七} 第三拾八號布告中教育令第九條トアルヲ教育令第八條ト改メ同十五年^{月二十} 第五拾六號布告ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

教育令

- 第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校教場幼稚園圖書館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ
- 第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校其他各種ノ學校トス
- 第三條 小學校及小學教場ハ兒童ニ普通ノ教育ヲ施ス所トス
- 第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス
- 第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス
- 第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス
- 第七條 專門學校ハ法科理科醫科文科農業商業職工等各科ノ學業ヲ授クル所トス
- 第八條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ル

ヘキ一箇若クハ數箇ノ小學校又ハ小學教場ヲ設置スヘシ

但本文小學校又ハ小學教場ニ代ルヘキ私立小學校又ハ小學教場アリテ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ

第九條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十一條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ普通科ヲ卒ラサル間已ムヲ得サル事故アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條 小學校及小學教場ノ學期ハ三箇年以上八箇年以下タルヘク授業日數ハ毎年二十二週日以上タルヘシ其授業時間ハ一日三時ヨリ少カラス六時ヨリ多カラサルモノトス

但土地ノ情況ニ依リ午前若クハ午後ノ半日又ハ夜間ニ授業スルコトヲ得ヘシ其授業時間ハ二時ヨリ少カラサルモノトス

第十三條 小學校若クハ小學教場ヲ設置スルノ資力ニ乏シクシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ施サントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 學齡兒童ヲ小學校若クハ小學教場ニ入レス又巡回授業ニ依ラスシテ別ニ普通教育ヲ施サントスルモノハ戸長ノ認可ヲ經ヘシ

但戸長ハ兒童ノ學業ヲ其町村ノ小學校若クハ小學教場ニ於テ試験セシムヘシ

第十五條 學校教場幼稚園書籍館等ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立トス

第十六條 公立學校教場幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘク其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十七條 私立學校教場幼稚園書籍館等ノ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

但公立小學校又ハ小學教場ニ代用スル私立小學校又ハ小學教場ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十八條 町村立私立學校教場幼稚園書籍館等設置變更廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條 小學校及小學教場ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

中學校其他ノ學校ノ教則ハ文部卿其綱領ヲ頒布スルコトアルヘシ

第二十條 公立學校教場ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村ノ協議ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十一條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校教場ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

十七年第十七號布告(第十七)及十二年大藏內務兩

- 第二十二條 公立學校教場ノ敷地ハ免稅タルヘシ
- 第二十三條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス
- 第二十四條 各府縣ハ小學教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ
- 第二十五條 教員ハ男女ノ別ナク年齡十八年以上ニシテ品行端正相當ノ學力アリ文部卿若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ
- 第二十六條 文部卿ハ吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムルコトアルヘシ
- 第二十七條 凡學校ニ於テハ男女教室ヲ同クスルコトヲ得ス
但小學校及小學教場ニ於テハ男女教室ヲ同クスルモ妨ケナシ
- 第二十八條 生徒試驗ノトキハ父母或ハ後見人等來觀スルコトヲ得ヘシ
- 第二十九條 町村立學校教場ノ教員ハ戶長ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ
- 第三十條 町村立學校教場ノ教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ
- 第三十一條 各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又農學校商業學校職工學校其他ノ專門學校ヲ設置スヘシ
- 小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍リ難キトキ處分方 明治十四年七月二十一日
第三拾八號布告

- 教育令第八條小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍リ難キ事情アルトキハ別ニ區域ヲ畫スルヲ得ヘシ此旨布告候事 十八年第二十三號布告但書ヲ以テ第九條ヲ第八條ト改ム
- 但本文ノ區域内ニ於テ會議ヲ要スルトキハ區町村會法第十四條及第十五條ニ準據スヘシ 十七年第二十一號布告ヲ以テ(區町村會法)ノ下(第八條)ヲ(第十四條)及(第十五條)ト改正ス
- 學齡未滿ノ幼兒保育方 明治十七年二月十五日
文部省第三號府縣へ達
學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様取計ヲヘシ此旨相達候事
- 公立小中學校專門學校設置ノ地所無代價下渡方 明治十三年一月二十九日
第六號府縣へ達
中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀ニ付明治七年九月第三拾壹號ヲ以テ相達置候處今般教育令布告候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ無代價ニテ可下渡候條官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ內務省へ可申出此旨相達候事
- 公立農學校商業學校職工學校設置ノ地所公立專門學校同様取計方 明治十四年三月四日
第拾號府縣へ達
明治十三年一月第六號ヲ以テ公立小學校公立中學校公立專門學校同様取計方ノ地所ハ無代價ニテ可下渡旨相達置候處今般教育令改正布告候ニ付テハ自今公立農學校公立商業學校公立職工學校設置ノ地所モ公立專門學校同様可取計此旨相達候事
- 公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スルトキハ每一枝五町歩以内無借地料使用差許候條官有地ノ内 十六年十月二十日
第四拾五號府縣へ達
公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スルトキハ每一枝五町歩以内無借地料使用差許候條官有地ノ内差支ナキ場所ヲ撰ヒ內務省へ申出ヘシ此旨相達候事

● 伺指令

● 學事ニ關スル寄附金處分ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ文部省ヘ伺 十六年十二月十九日
教育令第二十七條ニヨレハ凡學事ニ供スル寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得サルハ勿論
ニ有之候處茲ニ其利金ヲ以テ小學校若クハ中學校費ニ供スヘキ用途ヲ指定シ數年前一時若干金ヲ寄附シ今日ニ至リ
當初ノ用途ヲ變シ更ニ其利金ヲ以テ他ノ學校(假令ハ農業學校商業學校ノ類)ノ費用ニ供セシヨリ顯出ルモノアリ右
ハ其用途學事ノ範圍外ニ出テサル以上ハ一切本人ノ顯出ニヨリ許可致シ可然哉將タ右等ノ場合ニ於テハ其用途ヲ變
スルヨリ生スル所ノ利害ヲ審按シ果シテ之カ爲メ學事上ニ不都合ヲ生スルコトナシト認ムル場合ニ限り之ヲ許シ否
ラサルモノハ之ヲ許サハル等適宜處分致シ可然哉
指令 十七年一月三十一日
書面後段伺之通

● 中學校寄附金處分ノ儀ニ付長崎縣ヨリ文部省ヘ伺 十七年四月二十八日
本縣々立中學校ニ該郡内人民ヨリノ寄附金ニシテ教育令第七條ニヨリ支消シタル殘金有之候處今般該校廢止候
ニ付テハ其殘金ハ從前中學校之遺產ニ外ナラサル儀ニ付長崎縣中學校ニ移シ其寄附人ノ指定セシ用途ニ充テ支用シ
可然哉

指令 伺之通 十七年五月十三日

● 應請卒業生取扱ノ件熊本縣ヨリ文部省ヘ伺 十七年九月二十日
縣立師範學校ニ於テ應請試驗ヲ受ケ其卒業證書ヲ所持スル者官立公立學校ノ教員タル時ハ本年一月十六日和歌山縣
伺ニ對シ全月三十一日御省御指令之趣モ有之儀ニ付兵役上ノ取扱モ教育令第三拾四條ニ依リ附與シタル證書ヲ所持
スル者ト至ク同様ノ儀ト存居候處左ノ伺指令ノ旨趣ニ據レハ應請試驗ニ依リ卒業シタル者ハ兵役徵集ノ猶豫ニ屬セ

サル部ト相成居卒業證書ノ効力彼此相異ナル様相見ヘ教員取扱上疑團ヲ懷キ候若夫應請卒業生ニシテ教員ニ從事シ
半途兵役ニ徵セラレ候様ニテハ徵兵滿前ノ者ニハ卒業證書ヲ與フルモ無効ニ屬スルモノ多ニ付試驗難致且教員ニ
モ採用難致筋ニ立至リ教育上障礙ヲ生シ候トモ右ニ拘ハラヌ陸軍省ヨリ千葉縣ヘノ指令ニ依リ前段和歌山縣ヘノ御
指令ハ自然消滅候儀ト可相心得哉將又右御指令ノ旨趣ハ學業上ニ於ケル効力ニ止リ兵役ノ點ニハ更ニ關係無之儀ニ
候哉
千葉縣伺 明治十七年
八月二日

第三條 徵兵事務條例第百貳拾三條徵兵令第拾壹條及第拾八條第貳項ノ卒業證書ハ學期貳箇年以上ノ學校ニ於
テ貳箇年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ニ限ルトアリ右ハ教育令第三拾五條ニ依リ應請試驗ニテ得タル卒業證書
學期並ニ課程ヲ
卒リタル證書
モ勿論含有シ居ル儀ト心得可然哉
陸軍省(指令)八月十
三日 含有セス

指令 十七年十一月二十八日
書面後段伺之通

● 町村ノ境界ニ仍ラス區域ヲ劃シ開會スヘキ學事會ノ儀ニ付岡山縣ヨリ内務文部兩省
ヘ伺 十八年七月三十一日

小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍ラサルハ十四年第三十八號布告但書ノ通り區町村會法第十四條第十五條ニ依リ
別ニ區域ヲ定メテ學事會ヲ開設スヘキ等ニ付右等之場合ニ於テハ學事會ヲ開會致居候處客年ノ該會ニ於テ教育費ノ
爲メ負債ヲナシ收支ヲ取計候向モ有之候然ルニ本年四月該區域ヲ改正シ町村ノ境界ニ依リ學區ヲ定メ候ニ付該區域
ハ目今小學校設置ノ區域ニ無之候得共該區域ニ於テナシタル負債ヲ償却スルノ方法ヲ議スル爲メ會議ヲ開カサル可
ラス候ニ付右ハ舊學區ノ教育費ニ關スル事件ノ結了スル迄ハ學事會ヲ開キ然ルヘキ哉

指令 十八年九月十一日

書面伺之通

●中學區域戸長敷人ノ所轄ニ涉ルモノ事務取扱方青森縣ヨリ文部省ヘ伺(電) 十八年八月廿三日

本縣公立中學區域戸長敷人ノ所轄ニ涉ルヲ以テ其ノ事務ハ便宜郡長ヲシテ取扱ハシメ不苦哉

指令(電) 十八年九月廿四日

八月廿三日伺中學區域事務ノ件ハ伺ノ通

●町村學事引繼方ニ付京都府ヨリ文部省ヘ伺 十八年八月三十一日

一今般教育令御改正ニ付從前學務委員ニ於テ取扱候事務ハ戸長ヘ引繼ヘキ筋ニ候處戸長敷人ノ所轄ニ涉ル區域ノ學事ニシテ從來其會議ヲ郡區長ニ於テ管理シ戸長ヲシテ施行セシメサルモノハ郡區長ニ爲引繼候テ可然哉

一前段郡區長ヘ引繼候上ハ自今改正教育令第拾四條第廿九條ニ係ル事務ノ如キモ郡區長ニ於テ取扱不苦候哉

指令(電) 十八年十月八日

八月三十一日付伺第一項學務委員ノ事務ハ區町村會法第十五條ニ據リ郡區長ニテ管理セル答ナレハ此際改メテ

引繼カシムルノ限ニアラス第二項伺之通

●教育令疑團之件岡山縣ヨリ文部省ヘ伺 十八年九月八日

一本年八月教育令御改正學務委員被廢候ニ付テハ學區內之諸務ハ專ラ戸長ヲシテ幹理セシムヘキ之處爰ニ一學區內敷名之戸長アリテ其所轄亦數箇ニ相分レ居候處學事ノ如キハ細大之事務總テ全學區ニ涉リ措辦セサルヲ得サル場合有之候條石戸長ハ學事ニ關シテハ全學區一團樂ヲ以テ事務爲取扱可然哉

一教育令第三條ニ小學教場之文字ヲ被揭候右教場ハ小學校ト本支之關係ヲ有シ兒童ノ通學不便ニシテ且ツ小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏數箇所ニ開設スヘキ者ニ候哉

指令 十八年九月十一日

書面伺之通

●中學區域戸長敷人ノ所轄ニ涉ルモノ事務取扱方青森縣ヨリ文部省ヘ伺(電) 十八年八月廿三日

本縣公立中學區域戸長敷人ノ所轄ニ涉ルヲ以テ其ノ事務ハ便宜郡長ヲシテ取扱ハシメ不苦哉

指令(電) 十八年九月廿四日

八月廿三日伺中學區域事務ノ件ハ伺ノ通

●町村學事引繼方ニ付京都府ヨリ文部省ヘ伺 十八年八月三十一日

一今般教育令御改正ニ付從前學務委員ニ於テ取扱候事務ハ戸長ヘ引繼ヘキ筋ニ候處戸長敷人ノ所轄ニ涉ル區域ノ學事ニシテ從來其會議ヲ郡區長ニ於テ管理シ戸長ヲシテ施行セシメサルモノハ郡區長ニ爲引繼候テ可然哉

一前段郡區長ヘ引繼候上ハ自今改正教育令第拾四條第廿九條ニ係ル事務ノ如キモ郡區長ニ於テ取扱不苦候哉

指令(電) 十八年十月八日

八月三十一日付伺第一項學務委員ノ事務ハ區町村會法第十五條ニ據リ郡區長ニテ管理セル答ナレハ此際改メテ

引繼カシムルノ限ニアラス第二項伺之通

●教育令疑團之件岡山縣ヨリ文部省ヘ伺 十八年九月八日

一本年八月教育令御改正學務委員被廢候ニ付テハ學區內之諸務ハ專ラ戸長ヲシテ幹理セシムヘキ之處爰ニ一學區內敷名之戸長アリテ其所轄亦數箇ニ相分レ居候處學事ノ如キハ細大之事務總テ全學區ニ涉リ措辦セサルヲ得サル場合有之候條石戸長ハ學事ニ關シテハ全學區一團樂ヲ以テ事務爲取扱可然哉

一教育令第三條ニ小學教場之文字ヲ被揭候右教場ハ小學校ト本支之關係ヲ有シ兒童ノ通學不便ニシテ且ツ小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏數箇所ニ開設スヘキ者ニ候哉

一教育令第貳拾五條教員ノ年齡學力等之儀ハ私立學校小學校ヲ除クニモ關スル儀ト相認可然哉果シテ然レハ私立學校教員免許狀授與規則ヲ製シ可相伺哉

指令 十八年十月三日

書面伺之通

第一項別ニ可及指令候事(指令左ニ掲ク)

第二項 伺之通

但小學教場ト小學校トハ本支ノ關係ヲ有スルモノニ無之候事

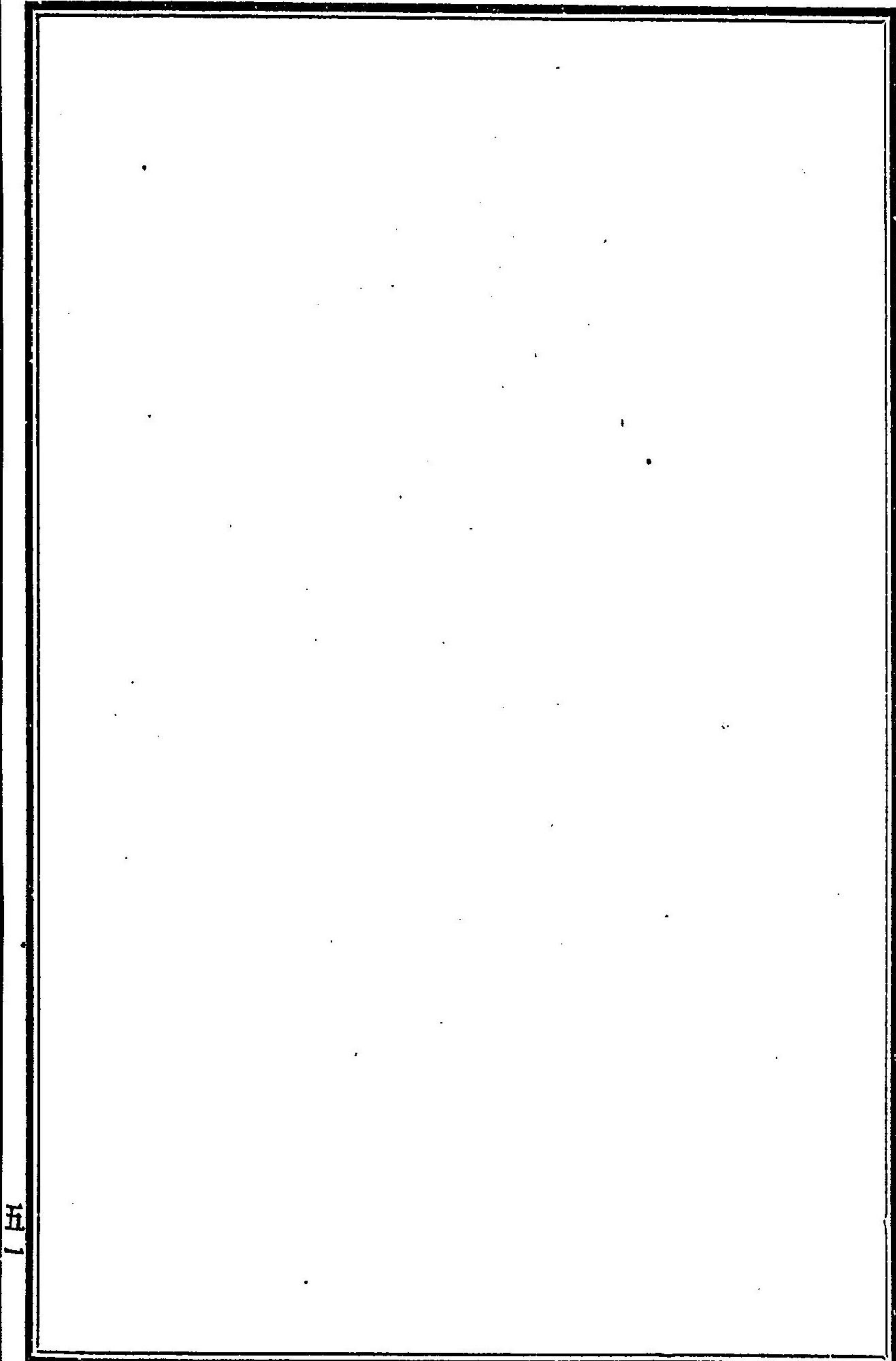
第三項 前段公立學校一般ニ關スル儀ト心得後段免許狀授與方之儀ハ當省ヨリ可相達候事

指令 十八年十月十日

九月八日付教育令ニ關スル伺第一項ハ區町村會法第拾五條但書ノ場合ニ於テハ伺之通電

●沿革要領

明治五年八月第百二十四號布告ヲ以テ學制ヲ定メ邊僻地ノ小民ニ至ル迄學問普及セシム○
同月文部省第十三號布達ヲ以テ學制ヲ頒布シ全國ヲ分テ大中小學區ヲ置キ每小學區ニ小學一校ヲ設ケ居民ノ子弟ヲ教育セシム○十二年九月第四十號布告ヲ以テ五年第百二十四號布告學制ヲ廢シ更ニ教育令ヲ定ム○十三年十二月第五十九號ヲ以テ前令ヲ改正ス○十八年八月第廿三號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス



第十四類 勸業

第百廿四 各地方勸業諮問會并勸業委員設置方

明治十六年五月十六日
第拾三號布達

各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會并勸業委員ヲ設置スルコトヲ得

第一條 諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條 諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管内農商工事ニ名望アル者ヲ選テ之ニ充ツ其人員并處務ノ順序等總テ府知事縣令適宜之ヲ定ム可シ

第三條 諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨ス可シ

第四條 勸業委員ハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ又ハ(區郡)長戶長ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條 勸業委員ノ人員撰擧方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シ

第六條 區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲシテ會員タラシムルコトヲ得

第七條 府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ請ク可シ

第八條 勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村及聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例ニ非

ラス

第九條 農商務卿及主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フコトアル可シ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

右布達候事

○勸業諮問會并勸業委員設置心得方明治十六年七月二十日農商務省第八號府縣へ達

本年五月第拾三號布達相成候ニ就テハ左ノ條項爲心得相達候事

第一諮問會ニ諮問スヘキ事項

一海陸運漕ノ利害(道路港灣ノ開鑿修築)ニ關スル事 二漕渠用惡水疏通ニ關スル事 三惡蟲及有害鳥獸驅除ノ事 四動植物蕃殖及改良ノ事 五山林栽培及保護ノ事 六農商工事統計ノ事 七前六項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事

第二諮問會員ノ定限

會員ハ任期ニ定限ナク又其數ヲ限ラスト雖モ五十名ヲ超ユヘカラス

縣會議員選務委員衛生委員戶長等ノ職務アルモノト雖モ農商工事ニ名望アルモノハ之ニ諮問會員ヲ兼務セシムルモ妨ケナシ

農商務省官吏及農商工上等會員又ハ府知事縣令ノ許可ヲ得タル該府縣ノ官吏ハ會場ニ列シ意見ヲ陳ルコトヲ得ヘシ但會員ノ數ニ加ヘス

第三諮問會々頭

府知事縣令之ヲ勤ムヘシ但書記官又ハ各課長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第四諮問會說明委員及書記

府知事縣令其廳官中ヨリ之ヲ命スヘシ

第五諮問會開會ノ期節又ハ臨時開會ヲ要スヘキ場合

通常府縣會開會以前ヲ以テ通常諮問會開會ノ期節トシ其臨時開會ノ場合ハ府知事縣令ノ見込ニ依ルヘシ

第六諮問會則ノ要旨及節說ノ採擇

會則ハ總テ談話ノ體ヲ用ヒ節說ノ採擇ハ會頭ノ意見ニアルヘシ但場合ニヨリ會員ノ意見ヲ臆別クヘキ爲メ起立ノ作
用ニ依ルモ妨ナシ

第七諮問會員ノ招集

會員ノ招集ハ府知事縣令ノ達書ヲ以テシ通常開會ノ日數ハ概テ十五日以内臨時開會ノ日數ハ概テ七日以内トスヘシ

第八諮問會費

旅費日當ハ府縣會議員ノ旅費日當ニ超ヘサル額ヲ目途トシ府縣會議ニ附スル等ハ總テ府縣會規則ノ成法ニ依ルヘシ
諮問會員ニ年手當ヲ給スルノ必要アルハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スルコトヲ得其他開會ノ費用ハ府縣廳中費ヲ以
テ支辨スヘシ

第九勸業委員ノ擔任

勸業委員ハ府知事縣令ノ裁可ヲ受ケタル處務順序ニ依リ請持部内ノ農商工事ノ上進ヲ圖リ及府縣廳區役所ノ指揮ス
ル處ノ事務并戶長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スヘシ

第十區
郡長戶長諮問ノ事項

諮問ノ事項ハ概テ第一ノ事項ニ依ルヘシ諮問ハ勸業委員各人ニ諮問スヘキモノトス

第十一勸業委員ノ選舉

選舉區域ハ實地ノ景況ニ依ルヘキモノトス但其受持部ノ甚廣大ニ失セサランコトヲ要ス
勸業委員ノ選舉ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ選舉セシメ府知事縣令之ヲ選拔スルノ場合アルヘシ

第十二農業者商會工業會勸業會及同業會

各會ハ名稱ヲ一ニシテ檢束スルモノニ非ス譬ハ農業者會中ニ農業者アリ商業者會中ニ商業者アリ同業者會中ニ單一種ノ同業者或ハ各種同業者ヲ聯合シタル同業者アルノ類トス

第十三勸業委員ノ設置及各會設立ノ誘導

準則ヲ設ケテ諭達シ或ハ郡長戸長ニ指示スル等同一ニ施行セント圖ルアルハ稟議シテ認可ヲ請クヘシト雖モ有志者ヲ説諭奮起セシムル等ノ如キハ認可ヲ請クヘキ限ニ非ス

第十四勸業委員費

旅費日當額ハ區町村會若クハ聯合區町村會又ハ關係各業者ノ議決ヲ經ル等總テ區町村會法ノ成法ニ依ルヘシ

勸業委員二年手當ヲ給スヘキ必要アルハ之ヲ協議費ヨリ支辨シ或ハ其幾分ヲ地方稅中勸業費ヲ以テ補助スルヲ得ヘシ勸業上ニ付勸業委員ヲ府廳廳ヘ招喚スヘキ費用アルハ其旅費日當ハ地方稅中勸業費ヨリ支給スヘシ

第十五施行ノ後本省ヘ報告スヘキ件

諮問會員ノ人名及處務ノ順序

勸業委員ノ人員選舉方法及處務ノ順序

各會設置ノ組織

已上ニ關スル諸費用ノ豫算決定額及仕譯書

其他該件ニ關スル緊要事件

勸業委員ノ人員選舉方法及處務順序評定心得方

明治十六年九月廿五日 農商務省第拾壹號府廳ヘ達

本年五月第拾三號布達第五條勸業委員ノ人員選舉方法及處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評定ニ任スヘキノ處該會ノ設置無之地方ニ於テハ其手續ヲナスヘキ爲メ之ニ代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモ不苦爲心得此旨相達候事

茶業組合準則

明治十七年三月三日 農商務省第三號府廳ヘ達

近來習俗偽似ノ茶ヲ製出シ又ハ不良茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右者正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候達ニ付各管内ニ於テ茶業ニ從事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合爲相立其規約認可ノ上農商務省ヘ可届出此旨相達候事

茶業組合準則

第一條 茶業ニ從事スル者ハ製造者ト販賣者トト問ハス郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但シ自用茶ノミヲ製スル者ハ此限リニアラス

第二條 組合ノ名稱ハ何郡區何町村茶業組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ若世スル等總テ不正ノ茶ハ製造賣買セサル事

第二項 乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事

第三項 製茶荷造ノ上ハ必組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事

第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條 組合員ハ必ス其組合ノ證券ヲ携帶スヘシ

但證券ニハ府廳廳ノ捺印ヲ受クヘシ

第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條 各府縣下便宜ノ地ニ取締所設置ヲ設ケテ各組合ヲ統轄スヘシ

第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 全國中便宜ノ地ニ中央茶業組合本部ヲ設ケ各地茶業組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ 十七年農商務省第 三十八號達ヲ以テ本條以

下四條ヲ追加ス

第拾壹條 中央茶業組合本部ノ規約ハ農商務卿ノ認可ヲ受ケヘシ

第拾貳條 中央茶業組合本部ノ役員ハ各地茶業組合取締所ノ役員中ヨリ互選スヘシ

第拾參條 中央茶業組合本部ノ費用ハ各地茶業組合取締所役員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第拾肆條 右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルヲ得 同上條ヲ以テ第十條ヲ第十四條ニ改ム

○同業組合進則 明治十七年十一月二十九日 農商務省第三拾七號府廳ヘ達

同業者組合ヲ結ビ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠候處往々其目的ヲ達スルニ能ハサル趣ニ付令般同業組合進則 相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作り認可ヲ請フ者アルハ此進則ニ基ツキ可取扱此旨相達候事

但認可ノ都度當省ニ届出ツヘシ

同業組合進則

第壹條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第貳條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第壹項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第貳項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徴收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ 但單業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ管利事業ヲ爲スヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事業及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ

第七條 規約ヲ改正スルハ更ニ認可ヲ請フ可シ

第八條 分立又ハ合併スルハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フ可シ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ 但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

○同業組合進則適用方 明治十八年八月八日 農商務省第三拾五號府廳ヘ達

客歲十一月 本省達第三拾七號同業組合進則ハ專ラ管下重要物産ノ改良繁殖ニ關スル農工商業者ノ組合ニ限リ適用スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

●同指令

第十三號公達
トアルハ布達
ノ際ナラン

●本年第十三號公達(勸業諮問會勸業委員設置)之儀ニ付東京府ヨリ農商務省ヘ伺 十六年六月十四日

第一項 該公達第六條初項ニ依ルハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業者商會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業

第十四類 勸業

會其他同業會ヲ設置スルハ「云々」ト有之抑々區町村等ノ名義ヲ以テ此等ノ各會ヲ設置スルハ即チ公共ノ事業ナルニ付本條別ニ明文ナシト雖モ之ヲ設置スルト爲サハルトヲ始メ諸般ノ事項ニ至ル迄區町村會若クハ聯合會ノ評議ニ付スヘキ者ノ如シ然レモ同第八條ヲ參觀スルニ此等ノ各會ハ均シク區町村等ノ公會ナルモ其經費ハ或ハ區町村等ノ公費ニ屬シ或ハ各業者ノ私費ニ屬スヘキヲ以テ結リ事業ト經費ノ間ニ於テ公私ノ別ヲ生スル場合モアルヘシ蓋シ區町村會ハ其第一條法文ノ通り公共ニ關スル事件ト其經費ノ收支方法トヲ合セ議スル所ニシテ經費ナキノ事件ヲ議スルハ其本分ニ有之間敷右ニ付其公費即チ協議費ヲ以テ支辨スル場合ニ在テハ之ヲ該會ノ評議ニ付スル可ナリト雖モ其私費即チ各業者支辨ノ場合ニ在テハ該會之ヲ評議スルノ限リニ非サルヘシ果シテ然リトセハ第六條ノ各會ハ其支辨方ノ如何ニ由リ該會ノ評議ニ付スルト付セサルトノ別アル義ニ候哉若シ其別ナシトセハ均シク付スル義ニ候哉又ハ均シク付セサル義ニ候哉

第二項 第六條末項ニ依レハ「勸業委員ヲシテ會員ヲシムルヲ得」ト有之蓋シ得トハ許可ノ言葉ニシテ其レヲシテ會員ヲシムルト否ラサルトハ一區町村會ノ意思如何ニ在ルノミ然ハ則チ勸業委員ノ本條各會ニ於ケルハ客員タルニ止リ視テ以テ正員トナスヘカラサルニ似タリ然ルニ本條單ニ其客員ノ組成ノミヲ示シ其正員ノ結構ヲ定メラレス元來會アレハ必ス其定リタル正員アルヘキハ事物自然ノ數タリ今假令言明ナキモ苟モ爰ニ該各會ヲ設クル上ハ必ス正員ヲ置キ而シテ其正員ハ區町村會ニ於テ適宜之ヲ撰舉可致我ト相心得可然哉

第三項 同第七條ニ依レハ「府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ請クヘシ」ト有之本條ヲ以テ第六條ト對照スルニ農商務卿ニ稟議認可ヲ請クルノ一項ハ前條ニ之レナクシテ本條特ニ之ヲ示セリ今其然ル所以ヲ考フルニ前條各會ハ既ニ民意ノ趣ク所トナリ自然ニ興起シタルモノニ付稟議認可ヲ請クルノ要ナシト雖モ本條ノ如キハ自然ニ興起ニ先ク文化増進ノ爲メ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ設置セシムルモノナレハ特ニ稟議認可ヲ請クルヲ要シ其手續ヲシテ一層鄭重ナラシメタルノ法意ナルヘシト被存候由之觀之其所謂誘導シ設置セシムルヲ得トハ假令區町村人民其誘導ニ應セサルモ府知事縣令ニ於テ要用ト認ムルハ其職權ヲ以テ設置セシムルヲ得ル義ト相心得可然哉果シテ然ラ

ハ第六條自然興起ノ各會ト本條誘導設置ノ各會トハ元來其組織性質相異ナルヲ以テ好シ自然興起ノ各會ニ付テハ區町村會若クハ聯合會ノ評議ヲ用フヘキモノトスルモ誘導設置ノ各會ニ付テハ其評議ヲ用フルニ及ハサル儀ニ候哉
指令 年號月日無之

伺ノ趣左ノ通可相心得事

- 第一項 農業者商業會工業會及勸業會ノ設置ニ付テハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ付シ其他ノ同業會設置ニ付テハ該同業者ノ評議ニ任スヘシ
- 第二項 伺ノ通
- 第三項 前段見解ノ如シト雖命令ヲ用テスルノ限ニアラス

但本文誘導シテ設置セシムル場合ト雖モ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ附セサルノ限ニアラス

勸業諮問會ノ儀ニ付栃木縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年六月十六日

- 第一 布達第二條ノ諮問會員ハ農商工事ニ名望アル者ヲ撰擢當置シ定期或ハ臨時召集シテ諮問スル儀ト心得可然哉
- 第二 果シテ前條ノ如ク常置スル者トセハ其定員ヲ立テサルヲ得ス然ルニ一物産即生絲又ハ製茶ノ件等ニ限リ廣ク當業者ノ意見ヲ問ハント欲スル時ハ常置諮問會員ノ外別ニ召集諮問シ而テ諮問會員ト同一ノ取扱ヲ爲シ不苦候哉
- 第三 該會員ハ縣會議員及戶長奉職ノ者モ補充不苦候哉
- 第四 諮問會ノ會長ハ縣令又ハ書記官ノ内ニテ之ニ當ル可キ歟或ハ勸業課長等適當ノ隨官ヲ以テ之ニ充テ可然哉果シテ隨官ヲ以テ之ニ充テ不苦儀ニ候得ハ縣令代理者ニ無之單ニ縣令ヨリ撰拔シテ會長ヲ命スルモノト心得可然哉
- 第五 諮問會員ノ旅費日當ヲ除キ其他開會ニ要スル諸雜費及書記給料等ノ支辨方如何取計可然哉
- 第六 布達第五條勸業委員ノ人員撰擢方法及處務ノ順序等ハ區町村會云々ト有之候得共當管下禾々町村會開設致サハル分モ有之且縱令町村會開設有之分タリトモ本件ノ如キ其町村ニ於テ協議上決定スル時ハ別ニ町村會ヲ開カサルモ差支無之候哉又ハ必ス町村會ヲ開キ議定セシムル可キ歟

第七 布達第七條府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置節要ヲ認ムルハ云々ト有之然ルニ本縣管下ノ如キハ從前勸業委員ヲ設置シ且客年来民業談會ヲ混工ノ開設ヲ論達セシ處目今各地陸續開會シ頗ル裨益アルヲ認定候既テハ今回ノ御布達ニ基キ其設置方法ハ更正可致候得共要スルニ必用ト認メ候間目下直チニ着手シ可然哉

指令 十六年七月二十日

第一 定期又ハ臨時開會ノ儀ハ伺ノ通但常置スルト否トハ適宜ニ任ス

第二 伺ノ通但會員ハ其數ヲ限ラスト雖モ五十名ヲ超ユ可ラス

第三 縣會議員學務委員衛生委員戸長等ノ職務アル者ト雖モ等シク職務セシムルヲ得

第四 府知事縣令之ヲ務ム可シ但書記官又ハ各課長ヲシテ代理セシムルヲ得

第五 旅費日當外ノ諸費ハ府縣廳費ヲ以テ之ヲ支辨ス可キモノトス

但書記ハ府知事縣令其屬官中ヨリ之ヲ命ス

第六 必ス區町村會又ハ聯合區町村會ヲ開キテ評定セシム可シ

第七 伺ノ通

●勸業委員設置之儀ニ付靜岡縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年七月五日

本年五月大政官第十三號ヲ以テ勸業諮問會並勸業委員設置之儀布達相成候處其第五條ニ勸業委員ノ選舉方法及處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シト有之右ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ評定ノ上出願候モノニシテ不都合無之ト認ムルハ直チニ裁可ヲ與ヘ可然候思者候得共其第七條末文ニ此場合ニハ農商務卿ニ稟議シ認可ヲ請クヘシト有リ之ニ因テ之ヲ見レハ前陳ノ場合ニ於テ誘導ヲ俟タス人民ヨリ出願候者ハ經伺ヲ要セス直チニ裁可シ第七條ニ據リ誘導設置セシムル場合ニ限リ可伺出願ト相心得可然哉且人員撰舉方法處務ノ順序等ハ第五條ノ明文ニ據リ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ評定セシムヘキハ勿論ニ候得共設置ノ際該會ノ開設無之町村ニ於テハ人員撰舉者其町村ニ於テ之ヲ公撰セシメ處務ノ順序ハ適宜之ヲ協議セシメ可然哉

右兩項例分之御指令有之度此段相伺候也

指令 十六年七月十八日

伺之趣

前項伺之通

後項區町村會又ハ聯合區町村會ノ設ケアラサルハ第五條ノ手續ヲ爲スヘキタメ之ヲ開カシムヘシ

●勸業委員之儀ニ付靜岡縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年七月十日

當縣ニ於テ從前勸業委員ヲ設置シ其給料旅費ハ地方稅ヲ以テ支辨シ既ニ十六年度ニ係ル給料旅費共本年通常縣會ニ於テ可決致シ居候得共本年五月第十二號ヲ以テ勸業諮問會並勸業委員設置ノ儀布達ニ付テハ右勸業委員ハ廢止セサルヲ得サル儀ニ候哉又ハ元來法律規則ニ據リ之ヲ設置シタル儀ニアラサルヲ以適宜從前ノ通存置スルモ妨ケ無之候哉目下差掛候儀有之候間電報ニテ御指令相成度此段相伺候也

指令(電報) 勸業委員ノ設ヘ前段伺之通 十六年七月十七日

●勸業諮問會設置ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年八月一日

御省本年(七月)第八號御達第五項ニ勸業諮問會開會期節ハ通常府縣會開會以前ヲ以テスヘキ旨ニ有之右ハ該諮問ノ事件ニ就キ地方費ヲ要スル場合モ可有之爲メニ如此被相承候儀ト存候然ルニ當縣ニ於テハ一年ニ一回開會スヘキ見込ニ付其地方費ニ關スル事件ハ則チ右第五項ニ依リ又其費途ニ關セサル事件ハ目下開會候テ可然乎且又本年第三號御布達ハ十六年度開會開場後ニ發セラレタルニ付其勸業諮問會ニ屬スル會員ノ旅費日當ハ議決ノ外トセサルヲ得ス實ニ豫算外ニ生シタル事件ニ付之ヲ同年度豫備費ニ資リテ可然乎又ハ己ニ本年度勸業費議決中參者明細書ノ内勸業委員手當及勸業會費合金九百九拾八圓七拾五錢アリ是レハ右御布達ノ旨趣ニ依リ從前ノ勸業委員ヲ本年六月限り廢シタルハ此兩費ハ全ク不用ニ屬セリ因テハ該費ヲ流用シテ支辨スヘキ哉尤孰レニスルモ常置委員ヘ諮問ノ上實施スヘキ旨ニ有之候且從前ノ勸業委員ヲ廢セシ以後ハ勸業上ニ關スル通信報告等主トシテナスヘキモノ無之姿勢ニ有之

抑々勸業諮問會ノヲタル本縣ニ於テハ第一山林保護ニ漁法改良ニ其他諮問ニ付スヘキ件許多アリ是等ハ皆忽諾スヘカラサルモノニ付速ニ該諮問會ヲ設置セサル可カラス仍テ右開設時季及費途支出ノ件トモ併テ相伺候至急何分ノ御指揮相仰候也

指令 十六年八月九日

一勸業諮問會開會期節ハ伺之通

一同上會員ノ旅費日當支辨方ノ儀ハ末項伺之通

●明治十六年第十號御布達(勸業諮問會及勸業委員設置)各條中疑義之廉ノ儀ニ付福島縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年七月二十日

第一條 諮問會ノ會頭ハ其主務ノ屬官ヲシテ會頭トシ又ハ會員ニ於テ互撰セシムルモ適宜ニ定メ可然哉

第二條 主務ノ官吏ハ諮問會ニ列シ意見ヲ述ルモ差支無之哉

第三條 諮問會ノ細則ハ縣令之ヲ定ムルモ會員ニ於テ制定セシムルモ適宜ニ可有之哉

第四條 諮問會員トナスハ官吏ヲ除クノ外進官吏ト雖モ其適任ト認ムルモノハ會員トナシ可然哉

第五條 諮問會場ニ要スル諸雜費ハ縣會ノ議ニ附シ勸業費ヲ以テ支辨スルモ差支無之哉

第六條 勸業委員ヲレテ農事通信委員ヲ兼務セシムルモ差支無之哉

第七條 各條中ニ明文ナシト雖モ其組織ヲ爲ニ付テノ要件(諮問會員ノ任期又ハ開會度數ノ類)ハ總テ適宜ニ相定メ可然哉

指令 十六年八月六日

伺之趣左之通可相心得事

第一條 本年當省第八號達第三項之通心得ヘシ

第二條 全上第二項第三ノ通心得ヘシ

第三條 全上第六項ノ如ク相心得縣令之ヲ定ムヘシ

第四條 全上第二項第二ノ通心得ヘシ

第五條 全上第八項第二末段ノ通心得ヘシ

第六條 全上第二項第一及ヒ第五項ノ通心得ヘシ

第七條 伺之通

●農商工會議ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年八月十七日

區町村會又ハ聯合區町村會ニテ評定シタル商法會議所及ヒ府知事縣令ノ裁可ヲ經タル同業會等ノ決議ノ如キハ其關係ノ町村及ヒ同業者ニ在テハ町村會同様ノ効力ヲ有スルモノト被存候然ハ其決議ノ施行モ又其關係ノ區戶長又ハ郡長ニ於テ便宜之ヲ爲スモノト相心得可然哉

右相伺候至急御指揮相成度候也

指令 十六年九月七日

伺之趣區町村會又ハ聯合區町村會ニアラサル他ノ各會ノ決議ハ區郡長又ハ戶長ニ於テ施行スルノ限ニアラサル儀ト可相心得事

●勸業諮問會及勸業委員設置之儀ニ付富山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年八月廿五日

第一 本年七月第八號御達第二項ニ戶長學務委員衛生委員縣會議員等ノ職務アルモノト雖モ諮問會員ヲ兼務セシメ得ルヲ示サレタルニ據レハ勸業委員ヲシテ諮問會員ヲ兼テシメ或ハ諮問會員ヲ勸業委員ニ撰舉スルカ如キモ無論不苦儀ト相心得可然哉

第二 諮問會員ハ五十名以内ヲ以テ豫メ若干名ト定メ置クモ臨時其諮問スヘキ事項ニ依リ其幾部(假令ハ農務ニ關スル諮問ヲ要スルハ農事ニ名望アルヲ以テ撰任シタル會員ノミ商務ニ關スル諮問ヲ要スルハ商事ニ名望アルヲ以テ撰任シタル會員ノミ)ノ會員ヲ招集スルニ止ルモ不苦哉將タ全部(其定員不殘)ノ招集ヲ要スル儀ニ可有之哉

第三 農商工事統計通信等ノ事務ハ平素勸業委員ニ負擔セシムヘキ質ノモノト存候得共管下偏ク勸業委員ヲ設置ス

ルノ氣運ニ至ラサル時ハ便宜擔當部落ヲ定メ假ニ諮問會員ニ取扱ハシムルモ不苦哉

第四 十三號布達第六條ノ各會其區域或ハ同業者中ニ公立シタルモノ其部内ノ利害ニ關スル事項ヲ議定シ郡戶長又ハ縣令ニ申報スルモノハ其事件ニ依リ縣令郡戶長之ヲ該部内ニ施行スルモ不苦哉

右條々相伺候條々至急何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

指令 十六年九月七日

第一三四各項共同之通

第二項前段同之通

●勸業諮問會其他之儀ニ付島根縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年八月八日

一官報第十九號(七月廿三日)管職東京府伺第一項御指令ニ農業者商會工業會及勸業會ノ設置ニ付テハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ付シ其他ノ同業會設置ニ付テハ該同業者ノ評議ニ任スヘシト有之案スルニ同業會中有志者各一己人ノ資格ヲ以テ組織スルモノアリ區町村又ハ聯合區町村ノ公共上ヨリ成立ツヘキモノアリテ其有志者ヲ以テ組織スルモノハ固ヨリ第十三號布達ノ範圍外ニ屬スヘシト雖モ彼ノ區町村又ハ聯合區町村ヨリ成立ツモノニ至テハ便宜上ヨリ見ルモ理論上ヨリスルモ到底同業者ノ協議ニ放任スヘカラサルヘキ乎例之沿海漁村ニ漁業會ヲ開キ養蠶地方ニ養蠶會(共ニ同業會ナリ)ヲ設クルカ如キハ(本縣下石見國製紙業ノ如キ其盛衰消長ハ忽チ該國一般ノ損益利害ニ關スルヲ以テ之ヲ聯合町村ノ公共事業ト云フ亦敢テ不可ナカルヘシ)猶農業者地方ノ農業者聯合會ニ於ケル商業者ノ商業者ニ於ケルト同一一般ニ付其公共上ヨリ(一己人ノ資格ニアラサルヲ云フ)成立ツ所ノ同業會ハ先ツ區町村會若クハ聯合區町村會ノ議決ヲ經セシムルモ不苦哉

一第十三號布達(本年五月)第八條ニ勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルヲ得云々ト有之抑勸業委員ノ設置各會ノ設立タル先ツ區町村會若クハ聯合區町村會ノ決議ヲ經テ然ル後成立ツヘキモノナレハ其設立方ヲ議定スルノ際必スヤ其費用ノ支辨法ヲモ併セ議セサルヘキハ之ニ應スルヲ得ルト云フノ精神ニ候哉

一第八號(本年七月)御達中第十一項ニ勸業委員ノ撰舉ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ撰舉セシメ府知事縣令之ヲ撰拔スルノ場合アルヘシト有之右ノ場合(變則)ニ於テハ其辭令狀ハ府知事縣令ヨリ交付スヘキハ勿論ト被存候處單ニ投票點者ヲ以テ當選人ト定ムル場合(正則)ニ於テハ其當選狀ハ區戶長ヨリ(數町村聯合ノモノハ郡長)交付スル儀ト可相心得哉

右相伺候差掛リ候儀モ有之至急御指令相成度候也

指令 十六年九月十一日

第一二項共同之通

第三項府知事縣令ニ於テ撰拔スルノ場合ハ伺ノ通ト雖其通常ニ在テハ撰舉方法ニ定ムル所ニ從フヘキモノトス

●勸業委員費ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年八月三十一日

客月二十日御省第八號達ヲ以テ本年太政官第十三號布達心得方御達相成候條項中第十四勸業委員費ノ項ニ於テ前略關係各業者ノ議決ヲ經ル等總テ區町村會法ノ成法ニ依ルヘシト有之右關係各業者ノ議決ハ町村會法中適從スヘキ正條無之様被相者候間御達ノ文意ハ區町村會若クハ聯合區町村會ノ議決ヲ經ルモノハ區町村會法ニ依ルハ勿論ナリト雖モ關係各業者ノ議決ハ區町村會ノ成法外ニ涉ルヲ以テ適宜開會議定セシムルノ儀ニ候哉若シ各業者ノ議決モ區町村會法ニ依ルヘシトスルトキハ同法中第何條ニ依リ該會ヲ開クヘキ儀ニ候哉目下伺出ノ向モ有之聊疑義相生シ候條至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

指令 十六年九月十一日
伺之趣ハ前段見解ノ如シ

●同業組合準則ノ儀ニ付愛知縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年二月九日

第一同業組合準則中第三條第八項ニ據リ違約者處分ノ規約ヲ定メタル後其組合中ニ於テ違約者有之規約ニ照シ之ヲ處分スルニ當リ違約者之ヲ拒絕スルトキハ其處分方如何取計可然哉

第二同第四條第五條等ニ違反スルモノハ其處分方如何取計可然哉

第三同第五條ニ同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコト不得ト有之右ハ同業組合ノ名義ヲ以テ收利ノ爲營業等ヲ爲スヲ得サルノ儀ニ候哉或ハ同業中申合セ締賣締買等社會有害ナルコトヲ爲スヲ得サル儀ニ候哉

指令 十八年三月十日

第一項 司法ノ處分ニ附スヘシ

第二項 第四條第五條共其總限リ違警罪ノ明文ヲ掲ケ置適宜處分スルハ不苦候事

第三項 前段伺之通

●同業組合準則ノ儀ニ付愛知縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年三月二十五日

客年十一月御省第三拾七號違同業組合準則ニ據リ組合ヲ設クル者其規約中違約者處分方法ニ組合ノ規約ヲ違背シタルモノハ組合ヲ除名スル云々ノ項ヲ掲グルモノアリ抑同業組合準則第四條ハ組合ノ設アル地區内ニ於テハ其組合ニ加入セザレハ組合員ト同業ヲ管ムヲ得サラシムルノ精神ナリ然ルヲ規約違行ノ廉ヲ以テ組合ヲ除名スルトキハ元來組合ニ加入セスンテ同業ヲ管ムヘカラサルヲ以テ自然其營業ヲ停止スルノ姿ニ相成候ニ付右除名云々ノ項ハ規約中ニ掲載セシムヘカラサル儀ニ候哉

指令 伺之通 十八年四月十六日

●同業組合準則ノ儀ニ付廣島縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年二月二十五日

客年十一月廿九日御省第三十七號ヲ以同業組合準則達成候ニ付右準則ニ基キ十二月廿日ヲ以管下ヘ布達候處追々組合相立規約ヲ作リ認可出願スル者有之候處該則第一條及第四條但書ニ方リ少シク疑團ヲ生シ目下若縣リ處分方支候條左ニ相伺候

第一條 地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作ルトアリ假令ハ茲ニ農業組合ヲ組織スルニ地主ニシテ地所ハ悉皆小作ニ付シ地主ハ一點ノ地モ耕作セス

第二條 農田ヲ所有シ其農田ハ悉皆他人ニ請負ハシメ自家ハ一切製鹽ヲ爲サス

右兩項ノ如キハ地主及其小作請負稼ノ者通シテ利害ヲ共ニスルモノニ付總テ同業者中ヘ算入スヘキモノニ候哉

第三條 第四條但書ニ事業ノ規摹及ヒ趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルハ其旨ヲ具シ管轄廳ニ申出其認可ヲ請フヘシトアリ

今茲ニ同業ニシテ規模ヲ同フシ其目的ヲ異ニス左ノ如キモノアリ甲ハ需用供給ノ不備備ヲ恐レ營業ノ季節ヲ制限シテ濫造多數ヲ戒メ之ニ亞クニ改良ヲ以テ目的トス

乙ハ營業期節ヲ制限セス音ニ改良ヲ主トシテ可成少費多獲ノ目的ヲ達セントスルニ在リ

右甲乙其目的ヲ大ニ異ニシ如何様ニ熟議セシムルモ調ハスシテ組合シ難キノ場合アルトキハ各立ヲ許スヘキモノニ候哉

指令(電報)

二月廿五日付同業組合準則第一二條ハ伺之通第三條ハ事實ニ就キ伺出ヘシ

●同業組合準則中疑義ノ廉愛知縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年二月二十八日

客年十一月御省第三拾七號違同業組合準則之儀ニ付疑義ノ廉左ニ相伺候也

一本縣ニ於テハ營業者相親睦シテ營業ノ進歩ヲ圖リ世間ノ信用ヲ堅クセンカ爲メ規約ヲ定メ組合ヲ設立セント欲スルモノハ爲メニ客年一月營業組合設立準則ヲ布達シタリ然ルニ縣下名古屋區ノ如キハ各營業者故モ幅濶ノ地

ニシテ管理及諸統計上不都合不少ニ付同区内商工業者ニ限リ前準則ニ據リ組合ヲ設立スヘキ旨更ニ布達シタリ然處客年十一月御省第三十七號ヲ以テ同業組合準則ヲ達セラレタリ然ト雖正是亦同業者中組合ヲ設立セント欲スルモノ、爲メニスルニ外ナラス然ルニ名古屋区内ノ如キハ前陳ノ景況ナルニ付必ス組合ヲ設立セシメサレハ諸管理行届キ難ク依テ同区内ニ限リ敷ニ實施シタル振合ヲ以テ設立セシムルモ不苦儀ニ候哉

二客年十一月御省第三十七號達同業組合準則ニ據リ組合ヲ設立シ其組合同業者ニ於テ組合中ノ事件及其營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ル等ノ爲メ集會スルハ其性質同業會ニ外ナラサルモ元組合中ノ事ヲ議シテカ爲メ集會スルモノナルヲ以テ勸業委員ヲシテ之カ會員ヲシムルヲ得ヘキモノニ無之哉果テ然ラハ十六年五月大政官第

十三號達第六條ノ同業會トハ不見候候テ可然哉
三同第一條ニ據リ其地区内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り懸罷ノ認可ヲ得タル後規約ニ違フモノハ其規約ニ掲クル所ノ違約者處分方法ニ據リ處分セサルヘカラス此場合ニ當リ無謂苦情ヲ申立其處分ニ服セサルモノアリテ不得止組合ヨリ懸罷ニ届出ルハ實際ヲ詳查シ其止ヲ得サル場合ニ於テハ之ガ營業ヲ停止スルヲ得ヘキカ本縣ニ於テ會テ實施シタル組合準則ニハ如此キモノハ組合ヲ除名シ之レヲ懸罷ニ届出ツヘキ旨明示シタル處元來無知蒙昧ノ輩組合ノ社會ニ利アルヤ否ヤヲ知ラス却テ除名ヲ希望スルノ風アルヲ以テ實際組合ヲ支持スルノ効ナシ如此ナルヲ以テ懸罷カ其地区内ニ於テ營業ヲ停止スルノ權ヲ有セサルハ到底組合ヲ維持シ營業ヲ保護スルヲ得ヘカラス右營業ヲ停止スルハ少ク過激ニ涉ルカ如シト雖正元一人一己ノ爲メニ同業者ヲシテ妨害ヲ蒙ラシムルモノナルニヨリ是等ハ勿論懸罷ニ於テ斷然營業ヲ停止シ可然哉

四同第四條ニ據リ組合ニ加盟スルヲ拒ミ懸罷ニ申出懸罷於テ之ヲ加盟スヘキモノタルノ認定ヲ與ヘタルモ猶彼是苦情ヲ申立加盟セサルモノハ懸罷ハ前項同様其地区内ニ於テ其營業ヲ停止スルヲ得ヘキ儀ニ有之候哉
五同業規約違約者處分並ニ自他ノ妨害ヲ禦ク爲メ左記ノ如キ條項ヲ掲ケ出願スルモノアルモ元弊害ヲ豫防シ規約ヲ鞏固ナラシムル爲メナルヲ以テ勿論差支ナキ儀ト心得可然哉

一 違約金ヲ出サシムル
二 同業中ノ取引ヲ中止スル
一 違約ノ旨ヲ新聞等ニ廣告スル
一 被雇者不正ノ處業アリテ解雇シタルハ同業組合中ニ於テ之ヲ雇使セサル
指令 十八年五月十三日
伺之趣左之通可相心得申

- 第一第二 伺之通
- 第三 組合之規約ニ任スヘシ
- 第四 追テ何分之儀相達スヘシ
- 第五 伺之通

●同業組合ノ儀島根縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年四月二十九日

客年貴省第三十七號ヲ以テ同業組合準則御達相成候ニ付テハ心得方左ニ

第一條 準則第一條ニ農工商ノ業ニ從事スル者云々トアレ正漁業者又ハ湯屋娯樂結渡世ノ如キモ亦其中ニ含蓋スル乎
第二條 同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ組合ヲ設ケ管罷ノ認可ヲ得タル上ハ其地区内ニ於テ同業ヲ營ムモノハ必ス規約ニ加盟セサルヘカラス筋ニ付(準則第四條但書)ノ場合ヲ除キ(若シ故ナク加盟ヲ拒ムモノアルトキハ懸罷ニ於テ懸罷説諭ニ及フヘシト雖モ其願不遂若クハ狡獪剛愎ニシテ論旨ニ應セス爲メニ組合一般ノ取締ニ關シ遂ニ規約ノ効力ヲ失フ如キ場合ニ在テハ一時其營業ヲ停止スルモ不苦乎

第三條 一旦同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ組合ヲ設ケタル上ハ爾後俄ニ新同業者ヲ増加シ其數四分ノ一二超ルモ其地区内ニ於テハ新同業者ニ向テ尚既定規約ヲ履行セシムルノ權アル乎
指令 十八年六月四日

同ノ趣左ノ通可心得事

第一條 漁業者ハ同ノ通

但湯屋又ハ髮結業ハ含當セズ

第二條 追テ何分ノ儀達スヘシ

第三條 同ノ通

●同業組合準則之儀ニ付山梨縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年五月十八日

客歲十一月御省第三拾七號御達同業組合準則ニ據リ取設ケタル規約書中違約者處分方法之儀ニ付愛知縣ノ伺ニ規約違背ノ廉ヲ以テ組合ヲ除名スルハ自然其營業ヲ停止スルノ姿ニ相成ルヲ以テ右除名ノ項ハ規約中ニ掲載セシムヘカラサル儀ニ候哉ト云フニ對シ伺之通ト御指令相成候趣官報第五百三拾七號ニ登載有之是ニ因テ之ヲ觀レハ假令同盟者中規約ニ背ク數同ニ及フモ其組合ノ處分ニ於テハ到底唯違約過怠料等ヲ徵スルニ止マリ其營業ヲ停止又ハ禁止スルノ條項ハ掲ケ得ヘカラサルモノ、如クニ候得共其故意ヲ以テ屢規約ニ背キ爲メニ組合一般ノ營業ニ妨害ヲ來タス如キモノハ其地區内ニ在テ營業ヲ停止若クハ禁止スルニアラサレハ以テ組合ヲ設置シタルノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘシト被著候付テハ愛知縣ヘノ御指令ハ營業ノ儘除名スルヲ得ストノ御主意ニシテ前陳ノ如キ場合ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルノ條項ヲ掲クルハ敢テ妨ケナキ儀ト相心得可然哉

指令 十八年八月十九日

伺之趣ハ人民相互ノ規約條項中ニ掲クヘカラサル儀ト心得事

●本年第三拾五號達ノ儀ニ付東京府ヨリ農商務省ヘ伺 十八年八月廿七日

一明治十七年御省第三拾七號ヲ以テ同業組合準則相達セラレ候處本年尚又御省第三拾五號ヲ以テ右組合準則ハ專ラ管下重要物産ノ改良蕃殖ニ關スル農商工業者ノ組合ニ限リ適用スヘキ旨更ニ相達セラレタリ右第三拾五號御達囑管下ノ文字ニ仍レハ一管下ノ重要物産ナレハ其產出者若クハ製造者又ハ販賣者ニ論ナク各之ヲ適用スルヲ得ヘキ

モ若シ製産者ト販賣者ト管轄ヲ異ニスル場合ニテハ製産者所在ノ地ニ於テハ其物品ハ其管内ノ重要物産ナルモ販賣者所在ノ地ニ於テハ他管内ノ物産ナルヲ以テ其販賣ノ方法ハ之ガ改良蕃殖ニ關シ利害得失ノ關係大ナルモ適用スルヲ得サルカ如ク相見ヘ候得共物産ノ改良蕃殖ハ其產製ノ精巧ト之ガ販賣ノ敏捷ト相須テ其隆盛ヲ企圖スヘキ者ニ付產出製造若クハ販賣ニ拘ハラズ管下ニ於テ取扱候重要商品ニ關シ組合ノ設ケヲ必用ナリト認定スルモノハ適用シ可然哉

一又右第三拾五號御達中ノ重要物産トハ特リ目今著名若クハ販賣高ノ多キ商品ノミナラス改良蕃殖ノ爲メ爾後製産販賣ノ多キヲ加フヘキモノモ其經營上ニ於テ組合ノ設ケヲ必用ナリト認定スルモノハ適用シ可然哉

指令 伺之通 十八年九月十一日

●同業組合ノ儀ニ付札幌縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年八月十九日

本月御省第三十五號御達ニ據リ自今同業組合準則ニ依リ認可ヲ與フヘキ組合ハ專ラ管下重要物産ノ改良蕃殖ニ關スルモノニ限リ候處右御達以前ハ種別無之已ニ認可ヲ與ヘシ小樽回船開屋組合 拾號ヲ以テ御屆濟札幌請負人組合 本年五月地第百五拾 札幌米商組合 本年六月地第貳百九號ヲ以テ御屆濟 本年六月地第貳百九號ヲ以テ御屆濟ハ唯其商業上ニ關シ組織セシモノニテ物産改良蕃殖ノ主意ニ無之ニ付依然認可ヲ與ヘ置キ候テハ向後同種類ノ組合設置出願ノ節認可ヲ與ヘサルモノニ對シ穩當ナラサルニ付右認可ヲ與ヘタル三組合ハ此際認可取消可然哉

一物産改良蕃殖ニ關セス同業組合準則ヲ適用セサル組合設置出願ノ者有之節法律規則其他差違無之モノハ會社設立ノ例ニ效ヒ姑ラク相互ノ規約ニ可任旨ノ指令ヲ爲シ其旨御省ヘ御届仕可然哉

指令 十八年九月十二日

伺ノ趣左ノ通可心得事

第一項 重要物産ニ關係ナキト認ムルモノハ同ノ通

第二項 其期限ヲ適宜處分スヘシ

第十四類 勸業

但別段届出ルニ及ハス

十八年七月十八日

●同業組合準則之備ニ付東京府ヨリ農商務省ヘ伺

去ル十七年御省第三拾七號御達同業組合準則第九條ニ同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ云々但其聯合ニ府縣以上ニ涉ル
 其ハ開會地管轄區ヲ經由シテ云々トアリ右本條ノ聯合會トハ即チ各箇ニ組織シタル其々ノ組合聯合シテ開設スル會
 議ノ名稱但書ハ則其會議ニ府縣以上ノ組合ニ涉ルトキノ例規ニシテ一組合ノ地區ニ府縣以上ニ涉ルカ如キモノハ素
 ヲリ右第九條ノ限ニ非サルハ勿論準則中他ニ憑據スヘキ條項ハ無之候得共其關係府縣ノ各廳協議ノ上右地方廳管轄
 認可ヲ與ヘ候テ可然モノト存候然ルニ頃日東京府川口郡及神奈川縣兩縣下漁業者ヨリ右第九條但書ニ據リ開會地ナル神奈
 川縣廳ヲ經由シテ同業組合設立認可ノ儀御省ニ出願セシ趣旨下漁業者ノ之ニ同調セシ者共ヨリ届出目下御省ニ於テ
 御達中ノ趣ニ相聞ヘ候右ハ必竟漁業者及神奈川縣廳ニ於テ準則第九條ニ就テ見解ヲ異ニシ出願セシモノナレハ結
 局該願書ハ御却下相成當然ノ處分ニ被歸候儀ト信用致候得共既ニ御受理相成候上ハ準則第九條ノ但書ハ或ハ其地區
 二府縣以上ニ涉ル同業組合ニモ適用スヘキ精神ニテ有之ヤ疑團ヲ生シ候ニ付此段相伺候

指令 十八年九月十二日

伺ノ趣ハ組合交渉スル所ノ地方廳管轄ヲ以テ本省ノ認可ヲ請フ儀ト可心得事

第百廿五 北海道へ轉籍移住者手續ヲ定ム

明治十六年四月二十四日 第拾號布達

北海道へ轉籍移住者手續別紙ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十五年^五第拾號同年^七第拾五號布達及同七年^七舊開拓使第二號布達第一第二第三
 條ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

右布達候事

(別紙)

北海道轉籍移住者手續

第一條 北海道へ轉籍移住スル者ニシテ資力ナキモノニ限り此手續ニ依テ保護スルモノト

第二條 渡航ノ保護ヲ出願スルモノハ其願書ニ住スヘキ國郡名^{町村名ノ詳カナルモ}並產業

ヲ營マントスルノ目的ヲ詳記シ猶左ノ各項ヲ附屬書トナシ原籍戶長及ヒ郡區長ヲ經由シ
 テ管轄廳ヘ出願スヘシ

- 一 戶籍寫
- 二 從來ノ營業及家産ノ程度
- 三 荷物ノ噸數

但携帶スヘキ農具及家具品類ノ大概ヲモ記載スヘシ

第三條 郡區長ハ轉籍移住出願者ヘ移民心得ノ旨趣ヲ懇篤ニ示諭シ仍ホ願書ノ事情目的ノ
 當否ヲ審査シ意見ヲ具シテ之ヲ府知事若クハ縣令ニ開申スヘシ府知事縣令ハ之ヲ事實適
 當ノモノト認ルトキハ其旨ヲ副書シ農商務省ヘ進達スヘシ

第四條 渡航ノ保護ハ左ノ制限ニ依ル

- 一 三菱會社共同運輸會社運漕社ノ船舶開帆ノ港ヨリ乘船ヲ許可スヘシ但到著スヘキ港
 ハ函館江刺壽都小樽室蘭浦河幌泉大津岩内増毛宗谷根室厚岸釧路濱中網走

擇捉(單冠灣)ノ十七港灣トス

- 二 渡航票ハ函館港迄ノモノト移住地最近ノ港灣迄ノモノトノ二葉ヲ下付スヘシ故ニ其出發港ヨリ移住地最近ノ港灣マテ直航ノ船便アルトキハ二葉ノ渡航票ヲ併セ乗船切符ト引換乗船スヘシ直航ノ船便ナキトキハ先ツ函館縣迄ノ渡航票ヲ乗船切符ト引換同港ニ著シ函館縣廳ヘ殘一葉ノ渡航票ヲ持參シ更ニ渡航ノ儀ヲ出願スヘシ
- 三 函館著港ノ上船都合ニ依リ陸行セントスルモノハ函館縣廳ヘ出願スヘシ但陸行ヲ許可スルトキハ持參スル所ノ渡航票ニ換ヘテ其運賃ニ當ル金額ヲ支給スヘシ
- 四 陸行ノ場合ニハ其旨ヲ函館縣ヨリ沿道ノ縣廳及ヒ郡區役所警察署ヘ通達スヘシ沿道ノ郡區役所警察署ニテハ宿泊其他注意ヲ加ヘ時宜ヲ斟酌シ及フ丈ケ保護ヲナスヘシ但別途費用ヲ給セス
- 五 手荷物ノ外一戸ニ付五拾才以内ノ荷物運賃ヲ支給スヘシ
- 第五條 制限外ノ荷物ハ勿論發着ノ船便船待滞在中ノ費用ハ總テ自辨スヘシ
- 第六條 渡航願ノ許可指令並渡航票ハ管轄廳ヲ經テ下付スヘシ又事宜ニ依リ郡區役所ヲ經テ下付スルコトアルヘシ
- 但郡區役所ヨリ願人ニ下付シタルトキハ渡濟ノ上其郡區長ヨリ府知事縣令ニ其旨ヲ開申スヘシ

第七條 渡航者ハ下付ノ渡航票ヲ以テ三菱會社共同運輸會社運漕社汽船ノ開帆スル各港ノ

内便宜ノ場所ニ至リ乗船切符ト引換乗船スヘシ

渡航票ト乗船切符ト引換タル後ハ總テ汽船會社ノ規則ニ從フモノトス若シ引換後乗船時間ヲ過キ乗後レ又ハ事故アリテ乗船ヲ止メタルトキハ右會社定ムル處ノ時間内ニ再ヒ乗船切符ト渡航票ト引換ノ手續ヲナスヘシ右切符引換ニツキ該會社ニ對スル償金ハ自辨スヘキモノトス

渡航中不得止事故アリテ上陸シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其地郡區長(郡區役所アラサル地ニテハ戶長)ノ公認ヲ請ケ其趣キヲ原籍郡區長府知事縣令ヲ經由シ農商務省ヘ届出且其際渡航票面ノ金額ヲ農商務省ヘ辨償スヘシ

但急劇ナル病難ニ罹リ乗船ヲ止メ又ハ乗後レ若クハ航海中上陸スル場合ニ於テモ總テ此手續ヲ爲スヘシ尤モ該地醫師ノ診斷書ト郡區戶長ノ公認ニ依テハ費用ノ辨償ハ特別處分スルコトアルヘシ

第八條 渡航者許可ヲ得タル後事故アリテ原籍地若クハ乗船スヘキ港ニ於テ滞留三十日ヲ超ルトキハ其事由ヲ詳記シ其地ノ郡區長(郡區長アラサル地ニテハ戶長)ノ公認書ヲ副ヘ農商務省ヘ届出ツヘシ猶ホ滞留百六拾日ヲ過クルトキハ本人ヨリ直チニ渡航票ヲ農商務省ニ返付シ其旨原籍郡區長ヲ經テ管轄廳ヘ届出ツヘシ

第九條 渡航者其乗船スヘキ港へ着シタルトキハ其地ノ郡區役所(郡區役所アラサル地ハ戶長役場)ニ其旨ヲ届出ツヘシ此届出ヲ受ケタル郡區役所戶長役場ニテハ注意ヲ加ヘ乘

船ニ關シ及フ丈ケノ保護ヲ加フヘシ但別途費用ヲ給セス

第十條 函館港ヨリ更ニ渡航ヲナストキハ函館縣廳ニテ渡航者ノ願ヲ審査ノ上許可スルモノトス

第十一條 汽船會社ハ渡航者ヨリ受收スル處ノ渡航票ヲ以テ金額受取方農商務省ヘ申出ヘシ函館港ヨリ乗船スルモノハ函館縣廳ヘ申出ヘシ

第十二條 第四條第一項ニ記載スル處ノ港灣ノ内移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距離三里以上ニ涉ルモノハ滿三歳以上ノ人員ニ應シ每一里一人ニ付金五錢ノ手當ヲ給與ス但滿三歳未滿ノ幼兒及距離三里未滿ノモノハ給與ノ限ニ在ラス

第十三條 移住地到着ノ上他ノ雇人稼人ノ類ニ非スシテ自ラ營業ヲナス者ヘハ一戸ニ付假家作料金拾圓及營業器具代金八圓五拾錢特ニ農業者ヘハ種物代金壹圓五拾錢宛ヲ給與スヘシ

第十四條 保護ヲ受ケ移住シタル者其移住後滿五ヶ年以内ニ北海道ヲ去リ他ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ既ニ保護支給シタル金額ハ戸主若クハ本人ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

(渡航允許證票略之)

○北海道移住農民給與更正規則 明治七年七月四日 開拓使第貳號布達

當使管内移住農民給與ノ儀從來ノ定則ヲ更正シ本年八月一日ヨリ別記規則之通施行條條此旨布達候事 十六年第十號布達但書ヲ以テ規則第一條第二條 第三條ヲ廢ス

(別紙)

移住農民給與更正規則

第四條 著籍ヨリ舉家一手ヲ以テ三ヶ年間開墾シタル土地ハ地價上納ニ及ハサル事

但征收檢地ノ上地券相渡シ私有地トシ其年ヨリ七年間除租ノ事

○北海道へ移住シテ就産セントスルモノ樹酌折衷スヘキ事情ノ要項ヲ諭ス 明治十六年四月二十五日

農商務省訓達

北海道へ移住シテ就産セントスルモノハ左ノ事情ヲ斟酌折衷スヘキハ肝要ナリトス

一北海道開拓ノ舉に就ては夙に開拓使に於て寒暖地質等ノ調査をせし人民ノ移住にハ甚適長にして衣食住ノ需用をなすに關るものなき天賦ノ好土地なるは往々雇外國人ノ調査せる報文にも詳らかなり而して其海産に富むの地たるは人口に膾炙せるものにして實地も亦然り然れども海産の事たる其漁場所なるものに限りありて北見千島二國を除くの外は業に已に海濱の漁場所殆むと餘地なきに至るか如しと雖ども陸地開墾の進歩に伴ふて漁業も亦著しく盛大なるべきは自然の勢なり

又開墾に適するの曠野多く永久就産の基を立つべき良境なるは是又今更に辨するを缺たす數千年來開闢の功を盡し僅に残存するの原野を見るか如き内地の比にあらす渺々たる曠野ハ幾百萬町歩の開墾をもち一得べくして遂に算測の及ハざるもの、如く然れども地味の稍宜しき場所ハ多くハ密林なるを以て目下の狀勢にてハ無情にも其樹木を伐採して開墾地となさざるを得されハ愛林の情ハ暫らく擱くも隨分開墾にハ骨の折れる事と識るへ一尤場所によりては恰も良き平野にして地味の宜しき箇所もあれども是又くま笹或は雜草の盤根結ばれて壯牛の數頭牽け非らざれば新墾不能はざるの地多し就中谷地濕地多けれハ是等ハ適宜なる排水法を施したる上ならでハ開墾降手の及ハざるもの多し大體如斯なるを以て新墾の容易からざるハ豫期すべき事なり

二彼地の寒氣旺盛なるハ内地人の毎に愛ふる處なれども敢て寒氣の強きを恐るゝを要せずと云實地經歷者の言に依れ

ハ寒氣の爲に障りなきを必らず期すハからざるも素より一時の事に過すて大に身體を害せらるゝ程の障りあるを聞かす却て暖地に言ふもの移住の後漸次健康を覺ゆるとの説ハ聞を得たり獨り本邦のみ然るに非らず北亞米利加合衆國の如きハ最も寒暑の酷烈なるを聞ゆる中に就き稍我北海道と北緯の度を同とするニューハンプシャー州マサチューセッツ州等にて其寒度ハ我に増す事一層の嚴なりと聞ゆれども其開墾の月に年に旺んるハ世の人の觀る所の如ク然り雖も開墾なり漁場所の稼なり身體強壯にて忍耐あるものにあらずんハ其目的を達し能ハざるハ勿論にて殊に漁場所の稼ハ男子三十年乃至三十四五年以内の壯丁に非らずれハ實用に適せざるものと云斯の如き事情を豫め了得すハ事肝要なりとす

三開墾を以て目途なきの移住者ハ必用なるは少くとも移住後一ケ年乃至二ケ年位の食料を支ふべき資金なくんば實地就業の意志を遂げ難かるべし何ぞなれば當初より多くの土地を耕耘し能ハざるハ理勢の免かれざるものにて且永久基礎の經營に準備なくんば非されはなり

四移住者は成るべく一村落をもなすハ程の人を團結して渡航するを必用とす其故は未だ人煙稀少隨て運輸甚不便理なるの地なれハ需用品の購入ハ農産物の賣捌き價に其物品の多額にあらざれば商人も入込まず且前にも陳る如く密林巨木を伐除きて開墾するにも多人數の協力を要し又彼地にてハ牛馬を野飼にするの慣習有れば之れハ植物を荒らすを防ぎ猛獸の妨害を除く等有形のものにて人衆の團結を要する斯の如きのみならず猶且無形の事物に就ても人煙稠けれハ異郷の憂さをも忘れ同郷人多けれハ德義上よりも廉耻上よりも俱に事業を助くるもの多けれハなり

五移住者の團結中にハ大工も鍛冶も家根屋開業醫(其他諸の職業者あるも素より便なり)等も結合するは尤も便理なりと云畢竟無人の境に一村落を成すの備なれハなり

六移住すべき地を撰むハ移住者の最大緊要事件なれハ多人數を團結して移住せんとするものハ其内より能く人を撰みて先以て彼地に渡航せしめ船體に就き移住地の指示を能く了したる上猶實地に就き將來に得益あるべき地を撰むべし七移住すべき地を撰むハ輕々一度の看過にて俄に定むハからず能く官となく民となく彼地の先覺者に就き實地の事を踏問し地味の厚薄新墾の難易等ハ勿論運輸の便否山川の位地氣候の善惡等の事に篤く注意すべし彼地ハ内地

とハ未だ異なるの情態ありて場所により得失の相去る甚だ速きも多けれハなり飲用水の事にも能く注意すべし八彼地ハ元來綿類の産出なき地なれハ需用衣服類夜具類は勿論醫へ不用と見做すべき古衣にては持合せたるものは成るべく荷物の際ひだになりとも挟み持参すれば彼地必用防禦の爲め又は後日經濟の爲め得益多かるべし

九新墾の地に用ふべき農具は成丈け丈未なるを好まず尤持合のもの或は手慣れたるものを持参するハ其意に任すべし然れども新に用意するものは其形もの優しきもの或ハ其實の脆弱なる品柄等を求めて渡航せんよりハ寧ろ彼地にて實地に適するものを買ひて用ゆる方實際の用に適すべし農具の中にハ根倒しに用ふべき大鋸及斧山刃等ハ必らず入用なりとす

十鍋類陶器類等ハ彼地にては蓄め得べしといへども直段殊に高く不便理に付成るべく從來持合せのものは荷造の都合を能くして持参する方甚だ得益なるべし但し華美のものハ申迄もく不用なりと識るべし

十一植物の種子ハ彼地の寒暖風土に應ずんハ成熟し難きものなれハ敢て内地より持参せんよりハ彼地にて苗開拓使以來試験を経て實用の種子を請用するを得ます但麻苧等の種子ハ内地の種を用意すべし其他蔬菜類ハ何れの種子も能く生長するなり

十二初年ハ殊に植物播種に深く心を用ひ能く先前移住の經歷者に請り季節を徹らざる様注意すべし

十三該地に移住のものハ協力同心に非ざれば著しき美果を結ぶ能ハざるもの、如ク然れば成るべく當初目的を定むる上に就き實地の事を参酌して約束を定め堅く之を遵守すべきハ事業奏効の基礎あるべし故に團結者の中より諸般の統轄を囑するに足るべき者一人及其補佐たるべきもの若干名を撰みて主宰せしむるを良とす若然らずて各自の意に任せ目前の小利に馳せ永久の家産を興すべき事を疎かにせば其弊や終に百年の謀を認り折角奮發して異郷に移住せる功なきに至らん實に鑒すんハ非ざるなり

十四彼地に移住すべきにハ季節を撰まざるべからず降雪の頃より翌年融雪の頃迄の間ハ移住をなすとも初年に在てハ何等の業をもなす能ハざるを以て三月下旬より四月中旬までに移住し融雪の候を越え直に開墾に着手し播種の季節

を失はざる様諸般の手廻しを爲すハ最も緊要なる事とす又數十戸若クハ數百戸團結して移住を謀るときハ先づ強壯
 なる者若干を撰み前年十月頃には渡航せしめ小屋掛等の手配を爲し雪中に至らば開墾すべき場所の伐木に従事する等
 都て翌春總人數移住の準備を爲すハ實際大に便益を得る者とす
 十五家屋ハ移住の當初防禦を主とする草壁草屋根の簡易なる居を設け漸次資力に基き且土地の情況をも熟知せるの後
 に及んで各自の嗜好に任せ家屋を稱せしむべき程のものを經營せしむハ實益を謂ふべし
 十六凡そ北海道へ移住の志ありて資力の乏しきものハ官にて渡航の保護を加へらるゝ爲め渡航手續の設けありて布
 達あり然れども是れも差定められたる漁船の寄港へき港より彼地に差定められたる着港迄のものなれば其前後の事
 に就ても能く注意すべきもの多し其主として乗船の船都合を閉合せて後任地を發せしむべきやうにして無用の船待な
 るべきハ勿論彼地各自の着せしむべき港へ直航の船あり尤も都合宜しけれども直航船ハ稀なるべけれハ其初は一旦函
 館港に上陸して更に網管船の義を函館縣廳に請願すべし然れハ夫々網管船の事を處辨し遣すべし乍去時によりてハ
 數日間便船なく船待せざるを得ざる事ありハ此場合にてハ移住すべき地の遠近及陸路便否等を略りて寧ろ船待せん
 よりハ陸行の方便の事あるべし然る時は本人の請願に任せて海上渡航費の額を給して陸行を許可すべき事あるべし
 猶各自自途の寄港より移住地には多少の距離あるものにして是等は兎に角陸行せざるを得ざるものなり其陸行に就
 ても種々心得べき事多かるべけれども就中彼地固有の物品にあらざるものハ目下の處にてハ内地よりの運送に係る
 を以て殊に高價なるものあり其一二を擧げば草鞋の如きハ内地より用意すれハ敢て代錢を意とするに足らざるべき
 も彼地にてハ格外の高價なるに驚くべし反之薪炭の如きは實に内地に比例ならざるの餘多し安價なるか如き理
 勢の免かれざるものなれば旅籠料等は内地より適に高料なりと期すべし人馬の雇ひ入は殊更に高賃なり加之道路
 の惡くして老幼は馬に乗りされハ行旅に得ざるの場所もあれば夫此旅行中の費用は甚だ嵩むべきものなりと感
 へし尤も郡役所にて特に周旋あるべき心得には致し置くべしとて不便の地なれば其覺悟なくんばあらず
 右諭達候事

○北海道轉籍移住者渡航手續細節 明治十六年六月十八日 農商務省第六號府廳(達)

本年四月第拾號布達北海道轉籍移住者渡航手續細節左之通可相心得此旨相達候事

一 渡航ノ保護ヲ出願スル者ハ別紙願書々式ニ依ルヘシ

二 荷物運送官費支給ノ制限外ニ涉ルノ場合ト雖正強テ荷造ノ區別ヲ要セス但其制限外ニ涉ル分ノ運賃ハ其乗込タル
 船ニ自費直拂セシムヘシ(参考一尺立方ヲ一オト冊ス)

(十七年第十一號自達ヲ以テ括弧中一オト冊シ四十オヲ以テ一噸ニ比例ス)トアル(四十オ)
 (ヲ)百オニ改メ十七年第三十一號自達ヲ以テ一オト冊(ノ)下(シ)ヲ(ス)ト改メ以下別除ス)

三 渡航者ノ乗込タル船横濱ニテ若滞船日ヲ重テ三菱會社共同運轉會社運酒船中ニテ網管乘船スヘキノ便利アル
 場合ニ於テハ當該乘組船長又ハ取締役ノ加印ヲ以テ網管乘船ノ義ヲ本省へ願出ルルハ之ヲ認可シ更ニ乘船票ヲ下
 附スヘシ

四 移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距離三里以上ニ涉ルモノ、手當金ハ移住地ノ管轄廳於テ其里程相當ノ金額ヲ
 給與スヘシ

五 年度内經費ノ都合ニ依リ翌年度迄渡航保護額ヲ差止ルアルハ官報及東京日々新聞報知新聞上ニ於テ其旨五日
 間廣告スヘシ

(北海道轉籍移住渡航保護額式略之)

○自費ヲ以テ北海道へ轉籍移住ノ者保護方 明治十七年一月十五日 農商務省第三號告示

北海道へ轉籍移住ノ爲メ自費ヲ以テ渡航スルモノト雖モ營業ノ目的確實ナリト認ムルハ移住地到着ノ上資力ナキ者
 ニ限リ明治十六年四月第十號布達移住者手續第十三條ニ準シ假家作料并ニ營業器具代及ヒ農業者へハ特ニ種物代ヲ給與
 ス尤モ移住後滿五箇年以内ニ北海道ヲ去リ他ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ同手續第十四條ニ依リ保護金額辨償セシムヘ
 シ此旨告示候事

○北海道へ轉籍移住ヲ出願スル者心得方 明治十七年五月二日 農商務省第三號告示

○北海道へ轉籍移住ヲ出願スル者心得方

○北海道へ轉籍移住ヲ出願スル者心得方

明治十六年四月第拾號布達北海道へ轉籍移住者手續ノ差ハ移住者ノ目的ヲ遂ケ得ルヤ否ノ上ニ關シ本人ノ志操身體家族ノ模倣家産ノ程度等精密ノ調査ヲ要シ苟クモ不都合ナルモノハ渡航保護ヲナズヘカラサルハ實地ノ景狀即チ十六年四月本省號外論達ニ示スカ如クニシテ之ヲ既往移住者ノ履歷ニ鑑ミルモ猶然ルナリ且十六年六月本省第六號達第五項ニ示ス處ノ年度内經費ノ都合ニ依リ翌年度迄渡航ノ保護ヲ停止スルコトアルヘキナリ然ルニ渡航保護願人中心ニ未タ許可ヲ得サル已前早ク已ニ家財ヲ賣却シ足ヲ賅テ渡航票ノ下付ヲ相持テ適シ資格ノ不都合ナルモノ若クハ經費ノ都合ニ依リ許可相成ラサルノ場合ニ會シ進退難レ谷ノ事情ヲ具シ哀願若クハ苦情ヲ相唱フル等ノ向ナキニシモアラス畢竟渡航保護上ノ布達及達ヲ疎カニ解シ論達ノ旨趣ヲ等閑ニ附スル等ニ出ツルモノト謂ヘシ甚不都合ノ次第ニ付將來渡航保護ノ許可ヲ得サル已前輕舉スヘカラサルハ勿論論達ノ旨趣ヲ篤ク服膺シ尚願書ハ可成調査ノ時日ニ餘裕アルヘキ様進達方ニ注意スヘシ此旨告示候事

沿革要領

明治二年七月廿二日蝦夷地開拓志願ノ者ニ土地給與方等ヲ布令ス○七年七月開拓使第二號布達ヲ以テ管内移住農民從來給與ノ定則ヲ更正ス○十五年五月第十號布達ヲ以テ北海道渡航移住者手續ヲ定ム○同年七月第十五號布達ヲ以テ前令手續第一條中ノ願書提出方ヲ示ス○十六年四月北海道へ轉籍移住者手續ヲ定メ十五年第十號第十五號布達及七年開拓使第二號布達第一第二第三條ヲ廢ス

第百廿六 民有森林伐採鑛物土石採掘ヲ停止ス 明治十七年二月十五日 第三號布達

明治十五年二月第三號布達左ノ通改正ス
民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ積雪ヲ支フルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ採掘セハ他ニ障害ヲ及ホスコト不抄ニ付是等ノ箇所ハ實地ノ景狀ニヨリ其事業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

右布達候事

○民有森林伐採鑛物土石採掘處分方 明治十七年三月一日 農商務省第三號府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達
明治十七年二月第三號ヲ以テ明治十五年二月第三號布達改正之儀布達相成候ニ付テハ明治十五年二月當省第三號達左ノ通改正候條此旨相達候事
民有森林ノ内水源涵養土砂止風潮除積雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ採掘セント欲スルモノアルハ其都度實地ノ景狀ヲ檢査シ處分方可伺出

第百廿七 鳥獸獵規則 明治十年一月二十三日 第拾壹號布告

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事 (別紙)

鳥獸獵規則

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス
第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クカタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ
第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方管廳へ差出スヘシ十四年第四十三號布告ヲ以テ(テハ)ノ下(内務省)ヲ以テ(農商務省)ト改正ス
ヲ(警視廳)ト改正ス

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルコトヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一職獵稅 金一圓

一遊獵稅 金十圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方管廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手數料トシテ金二十五錢ヲ納ムヘシ^{同上}

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ

一十六歳未満ノ者

一白痴風癩等ノ者

一故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス

一都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一禁獵制札ノ場所

但製札ハ獵銃ニ擬テ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限リニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下并ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ^{十年第八十五號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス}

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此時限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ農商務省ニ届出ヘシ^{十年第四十三號布告ヲ以テ(内務省)ヲ(農商務省)ト改ム}

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戶長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍料スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取リ訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カ

ラサル罰金ヲ科スヘシ

第十四類 勸業

第十八條 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ
十年第八十五號布告ヲ以テ追加ス

○鳥獸ノ害ヲ爲ス山間等ノ村落銃獵仲期方
明治十七年三月二十九日
農商務省第八號府縣へ達

鳥獸獵規則第十條但書ニ據リ鳥獸ノ害ヲ爲ス山間等ノ村落銃獵仲期ノ儀届出ノ節該鳥獸名記載無之調査上差支候條以
後右届出之節ハ必該鳥名獸名ヲ明記シ被害ノ景狀ヲ具シ可差出此旨相達候事

○鳥獸獵免狀ヲ有スル者改姓名又ハ轉住スル時免狀書替渡方
明治十七年六月三十日
農商務省第八拾號警視廳府縣(東京府沖繩縣)へ達

鳥獸獵免狀ヲ受ケタル者其期限中改姓名又ハ管内甲地ヨリ乙地へ轉住スルトキハ免狀書換手數料取立ルニ及ハス本人
所持之免狀姓名又ハ住所ノ事改メ主任者捺印下付候儀ト可相心得此旨相達候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候事

●伺指令

●鳥獸獵違犯者之儀ニ付兵庫縣伺十七年二月四日

鳥獸獵免狀ヲ得シ者ノ子父ノ獵銃ヲ劫ヘ無免狀ニテ銃獵セシヨリ則明治十年第十一號布告改正鳥獸獵規則第二條第
十七條ニ依リ神戸縣裁判所ニ於テ罰金ニ處セラレシ者有之右之者更ニ銃獵免狀下附願出ルル該規則第七條第三項
ニ該當免狀付與セサル義ニ候結果シテ然ラハ山間僻地ニシテ他ニ營業ノ目的モ無之父ノ職業ヲ繼續スル能ハス營業
上實ニ惻察スヘキ事情有之候得共斷然前條之通リ相心得可然哉

指令 十七年二月十六日

伺之趣ハ規則第七條第三項ノ限ニ無之候條免狀付與不苦候事

●神奈川縣ヨリ去明治十年四月中内務省へ伺鳥獸獵規則第二條但書ニ對スル指令ハ取消更ニ左ノ通心得ヘキ旨去三
日農商務卿ヨリ同縣へ達シタリ(十七年六月)

鳥獸獵規則第二條但書ハ有害鳥獸ヲ銃殺スル場合ヲ謂フモノニシテ威銃ノ謂ニアラス

(參照)臨時銃砲免狀ノ義ニ付伺

本年一月鳥獸獵規則御改正公布第二條中有有害ノ鳥獸ヲ除クカクメニハ地方官ノ便宜云々トアリ右臨時免狀ノ如キハ
空砲ヲ以テ有害ノ鳥獸ヲ威除スルモノニシテ彈丸ヲ用ヒサルモノト相心得可然哉御規則中明文無之ニ付此段相伺候
也

明治十年四月七日

神奈川縣令 野村 晴

指令 伺之通尤其防害空砲ニテ難防ニ至テハ一時彈丸相用ヒ候トモ不苦儀ト可相心得事

●鳥獸職獵ノ儀ニ付石川縣ヨリ農商務省へ伺十八年一月十七日

明治十年一月内務省第七號及同年同省第七號三號達ハ明治十七年三月御省第六號達ヲ以テ廢セラレ候ニ付テハ
准官吏ハ勿論巡查等外吏ニ至ル迄職獵差許不苦儀被相考候得共分界判然致サス取扱上疑義ヲ生シ候ニ付仰御指令候
也

指令 十八年一月二十六日

伺之趣神官戶長郵便取扱人巡查等外吏ハ職獵差許不苦其他判任以上ハ准官吏ト雖モ渾テ職獵不相成候事

●沿革要領

明治元年四月廿一日布告ヲ以テ市中ハ勿論山野ト雖モ獵リニ發砲ヲ禁ス○同年九月發
砲ノ禁ヲ犯シ獵リニ鳥打等ヲ爲シ農事ヲ妨クル者ノ爲メニ取締方ヲ布令ス○二年四月廿八日
布告ヲ以テ發砲ノ禁ヲ犯スモノハ其器具ヲ沒收セシム○三年五月七日布告郡内外諸邸宅中ニ於テ發砲ヲ禁ス

○五年正月第廿八號布告ヲ以テ銃砲取締規則ヲ定メ規則中鳥獸獵取締方ヲ掲ク○同年二月大藏省第廿三號布達
ヲ以テ從來ノ獵師役稅ヲ改メ獵銃免狀稅ト稱ス○六年一月第廿五號布告ヲ以テ鳥獸獵免狀取締規則ヲ定メ從
前ノ獵銃稅ヲ廢ス○同年三月第百十號布告ヲ以テ前令ヲ改正シ鳥獸獵規則ト稱シ元年九月發砲取締方及二年
四月發砲ノ禁ヲ犯ス者器具沒收方ノ布告ヲ廢ス○七年十一月第百廿二號布告ヲ以テ更ニ前令ヲ改正ス○十年

第一百廿八 獸醫免許規則 明治十八年八月二十二日

第貳拾八號布告

獸醫免許規則別冊ノ通制定シ明治十九年七月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

獸醫免許規則

- 第一條 獸醫ハ獸醫學術ノ試験ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス
- 第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ
- 第三條 官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第四條 外國ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫學ノ開業免狀ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試験ヲ經

サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

- 第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ
- 第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニヨリ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ
- 第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ
- 第十條 獸醫廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第十一條 獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ農商務卿其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ
- 但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ
- 第十二條 前條ニ據リ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ
- 第十三條 農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ調査シ特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ
- 第十四條 官許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○獸醫開業試驗規則ヲ定ム

明治十八年八月二十二日

今般第貳拾八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付獸醫開業試驗規則左ノ通相定メ明治十九年三月一日ヨリ施行ス

獸醫開業試驗規則

第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 農商務卿ハ毎年二回獸醫開業ノ試験ヲ舉行スヘシ

但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六箇月前ニ告示スヘシ

第三條 農商務卿ハ主事者及ヒ試験委員ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

但時宜ニ依リ地方官ニ委任シ其試験ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條 農商務卿ハ獸醫學術開業試驗ヲ舉行スル毎ニ官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニアリテ獸醫學ヲ專修シタル者又ハ地方ニ於テ名望アル獸醫學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 獸醫學術試験科目ハ左ノ如シ

第一 家畜解剖學

第二 同 生理學

第三 同 藥物學

第四 同 內科學

第五 同 外科學

第六條 獸醫學術ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ毎年六月十二日中地方官ニ差出スヘシ地方官ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ農商務省ニ進達スルモノトス

第七條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ選定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第八條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ及第證書ヲ與フヘシ但及第證書ニハ主事者試験委員連署スヘシ

第九條 試験ニ落第シタル者ハ六箇月ヲ經ルニ非ンハ再試験ヲ請フコトヲ得ス右布達候事

○獸醫開業受験人心得ヲ定ム

明治十八年八月三十一日

農商務省第拾九號告示

今般大政官第拾七號ヲ以テ獸醫開業試験規則布達相成候ニ付受験人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 獸醫開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 獸醫開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第拾七號布達獸醫開業試験規則第六條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ著シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ヘシ

第四條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

(願書式畧之)

○疫牛處分假條例

明治九年二月二十九日

農商務省第貳拾號府縣へ達

傳染牛疫豫防之儀去明治四年辛未年六月七日太政官公布之趣モ有之候處近年内地ニ流行シ既ニ明治六年ヨリ七年ニ至ル迄牛疫ニ罹リ斃ルモノ亦四萬二千餘頭ニ及ヒ農業ヲ妨礙シ牧畜ノ進路ヲ遮斷スル等巨害枚擧スルニ暇アラス元來

右傳染牛疫之儀ハ歐洲諸邦ニ於テ屢々流行シ慘毒無量結局難治ノ症ニシキハ殆ト一國ノ健牛ヲ蕩盡スルニ立至リ候儀モ往々有之候處未タ彼ノ地ニ於テモ治療ノ方法不相立到底之レヲ左右スルモ徒費徒勞ニ屬シ還テ人手ヨリ他ニ傳

フルノ實害アルニ付速ニ患牛ヲ撲殺シ傳染ノ原根ヲ斷チ健牛ヲ豫防スルヲ以テ古今良醫ノ定論トスル處ニ付右牛疫ノ

徴候有之節ハ斷然牛主共ニ於テ撲殺スルハ當然ノ事ニ候得トモ一時姑息ノ情ヨリ因循時機ヲ失ヒ終ニ疫毒蔓延候テハ不容易儀ニ付特別ノ除穢ヲ以テ賠償撲殺法取設候條別紙疫牛處分假條例ニ照準以來各府縣ニ於テ精密其徴候ヲ探偵シ牛疫ノ疑アラハ牛價ヲ其主ヘ償與シ速ニ之レヲ撲殺シ疫毒ノ源根ヲ滅却候様取計可申尤モ照會ノ爲メ牛病新穢並疫牛容體書下ケ渡候條爲ト照準夫々處分方厚注意尚管内人民ヘモ告諭可致此旨相達候事

(別紙)

疫牛處分假條例

- 第一條 人民伺立ノ牛疾病アルキハ其牛主ニ於テハ兼テ管轄廳ヨリ告示スル所ノ醫ニ請フテ診察セシメ若シ牛疫ノ徴候アラハ直ニ之ヲ區戸長ニ届出區戸長ヨリハ速ニ其管轄廳ヘ届出ヘシ
- 但醫員懸隔ノ地等於テ之ヲ迎フルノ際既ニ牛疫ノ徴候アルキハ直ニ區戸長ニ届出ツヘシ
- 第二條 管轄廳於テハ區戸長ヨリノ具狀ニヨリ速ニ官員ヲ派出シメ検査ノ上疑アルモノハ病ノ輕重ヲ不問直ニ之ヲ撲殺シ其他ハ專ラ豫防法ヲ行フヘシ
- 第三條 牛疫感染ノ牛ヲ撲殺スルキハ相當ノ代價ヲ其主ニ下渡スヘシ故ニ所有主ニ於テ之ヲ拒ムヘカラス
- 但牛價ハ其品位ニ依リ相當支給スヘシト雖モ必ズ一頭ニ付金三拾圓ヲ越ユヘカラス
- 第四條 牛疫發見セハ直ニ管内ニ布達シ及ヒ勸業寮並附近ノ地方廳ヘモ之ヲ通知スヘシ
- 第五條 牛疫發見シタルキハ其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リ直ニ道筋ニ標札ヲ立テ病牛ハ勿論健牛ト雖モ右限外ニ出ルヲ禁シ又他ヨリ限内ニ入ルヲ禁スヘシ假令病根全ク滅却ノ後タリトモ尚三ヶ月ヲ經サレハ其出入ヲ許スヘカラス尤四方十里以内畜牛無之場ヘ往復或ハ移轉スルハ此限ニ非スノ下ニ限リ加ヘ但書全文ヲ改正ス
- 但標札文面及ヒ寸法等ハ其地方ノ適宜ニ任スヘシ尤モ右費用ハ府縣稅ノ内ヨリ支出スヘシ
- 第六條 牛疫起發ノ地ヘハ直ニ巡查ヲ派出シ該病ニ係ル諸般ノ取締ヲ爲サシム可シ
- 第七條 牛病新穢及ヒ疫牛容體書一府縣ニ付二十部宛下渡スヘキニ付各管内適宜ノ地ニ於テ相當ノ醫生ヲ撰ミ右書類

ヲ下渡シ豫メ講習セシメ牛病ノ診斷ヲササシムヘシ且該醫ノ住所姓名ハ管内ヘ告示スヘシ

但醫員ノ手當ハ一ヶ月金拾五圓以内ヲ以テ勤日數ニ應ジ旅費ハ定則日當表五等府縣管内旅費ヲ支給スヘシ 九年 第六十號省達ヲ以テ但書ヲ追加シ十四年

號省達ヲ以テ但書ヲ追加シ十四年

第八條 牛主ヘ償付スル金額ハ同ニ不及豫備金ノ内ヲ以テ速ニ施行シ醫員ノ診斷書及ヒ牛主姓名頭數年齡預等詳細取調書相添其時々當省ヘ届出ヘシ 十一年 第九號省達ヲ以テ(頭數)ノ下ニ字ヲ加フ

但金員受取方ノ儀ハ三ヶ月分取束ヲ大藏省ヘ申立ヘシ

第九條 疫病ニ罹レ或ハ撲殺シタル牛ノ遺骸ハ辛未年ノ公布ニ照準シ燒棄スルハ勿論ナリト雖モ其地方ノ便適ニヨリ一丈二尺ノ地下ニ埋没スルモ妨ケナシトス

九年 第六十號省達ヲ以テ但書ヲ追加シ九年

但撲殺燒棄埋没等ノ費用ハ所有主ノ自費タルヘシ 第九十四號省達ヲ以テ(但)ノ下ニ字ヲ追加ス

茲ニ紀元千八百六十五年英國ニ於テ牛疫流行ノ際同國家醫官ノ中最モ卓越ナル博士シモンズ氏ヲ書セシムル所ノ左ノ説ヲ以テ議員之ヲ公論トセシナリ

牛大ニ沈鬱シテ活潑ナラズ食ヲ反芻スルヲ止メ頻リニ戰慄シ行步蹣跚タリ寒甚シ呼吸促進シテ頭ヲ低レ眼球紅色ヲ瀾シテ涕液ヲ流セリ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ内唇及ヒ上顎ニ於テ生色ナルモノヲ著布シテ且ツ下痢アリ

ポーランド國ノ學士セーマン氏ノ説左ノ如シ

牛ノ食物缺乏及芻ヲ止メ鬱悶シテ口中並ニ小牙ヨリ粘液ヲ生シ且ツ小瘡ヲ發シ臭氣ヲ放チテ爾餘眼ヨリ粘液ヲ泄シ次テ臭氣アル下痢ヲ下シ咳嗽シ漸次衰弱シテ偶々斷頭ヲ一方ニ屈メテ斃死ス

博士レーヤド氏カ疫病傳染ノ性ニツイテ著ハス所ノ書中ニ述ヘタル左ノ説ハ千七百五十七年ニ公告セリ

此傳染疫ノ初徴ハ食欲減少シ頭ヲ伸シ鬚下スルニ困難耳ニ痒ヲ覺ユル如ク揺シテ又垂レリ眼暗濁ナリ怠慢ニシテ運動ヲ好マズ爾後全ク食欲ヲ絶ス眼鼻ヨリ膿様ノ液ヲ泄シ常ニ下痢シ上顎及ヒ口傍ニ於テ結膜シ多ク夕時ニ在テ呻吟シテ横臥セリ

因テ今茲ニ當牧羊場第一區ノ兩國沖ニ於テ斃牛ノ徵候如何アリシヲ陳ス可シ

牛ノ食欲缺乏シ及獨ヲ止メ頭及ヒ耳ヲ垂レ間歇狀冷戰慄シ下痢ヲ生シ咳嗽シ呼吸促進ス眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ初メ眼

ヨリ出タル液ハ全ク稀薄ナレハ病長スルニ及テ次第ニ稠厚トナリ遂ニ膿狀ニ變セリ

眼球赤色ヲ潮シ瞳孔ヨリ粘液ヲ生シ臭氣ヲ放テ苦臭アル大便ヲ下ス頻リニ嘔吐シ病長スルニ及テ呼吸益發迫セリ病牛

ノ内前ニ肥軟スル畢士レーヤド氏カ述ル説ノ如ク頭ヲ伸セシ徵候アルヲ注目セリ而シテ專ラ博士シモンツ氏カ説ノ如

ク行歩踉蹌タリ亦咳嗽嘔吐スルトボーランド國ノ畢士カ説ト同一タリ如斯至ク病期ヲ終テ熱ノ下級ニ在ルヲ徵ス

第十條 第五條中健牛ノ他ヨリ限内ニ入ルヲ禁スルト雖モ各開港場等外國人在留ノ地ニ於テ目下食料ニ欠乏スルカ如

キハ嚴重検査ノ上屠牛ニ限リ此例ニ非ラスヲ以テ本條以下追加

第十一條 鄰府縣接比ノ村落ヨリ牛疫發起スルハ該國ト協議シ管轄ノ内外ニ關セス限内ヲ定ムヘシ

○傳染牛疫豫防法並斃死後處置ヲ定ム

明治九年三月七日 內務省乙第貳拾四號府縣へ達

今般傳染牛疫處分條例相違候處尙別紙之通豫防法並斃死後處置相違候條條下管内人民へ諭達可致此旨相違候事

(別紙)

傳染牛疫豫防法並斃死後處置

一若シ一戸ニ傳染牛疫ノ徵候發顯スルハ疫牛處分假條例ヲ遵奉シ之ヲ撲殺シテ其死體ハ速ニ一丈二尺ノ地下ニ埋没

スルカ或ハ燒棄スルハ勿論傳染病ニ紛ハシキモノト雖モ直様其由ヲ近隣ニ知ラセ健牛ヲ所持スルモノト互ニ往来出

入スヘカラス

一戸數頭ノ牛ヲ畜養スルモノハ若シ一頭ノ牛々疫病ノ徵候アルハ直ニ健牛ヲ他ノ牛類無之地へ引移スヘシ尤疫牛

處分假條例ノ通其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リトス

一地方ニ傳染病發起ノ聞エアレハ一層注意觀察ヲ清淨ニシ瘴癘ナド度々取替エ濕氣ヲ乾カシ空氣ノ流通ヲ能クスル

トヲ怠ルヘカラス且ツ左ノ藥劑ヲ時々限内ニ散布スヘシ

一石炭酸水 水一升五合位 鹽酸カルキ一合

又ハ一鹽酸カルキ水 水一升五合位 鹽酸カルキ一合

右ノ藥品ニ乏シキ地ニテハ生石灰ヲ散布スヘシ

一飼料ハ和カニシテ消化シ易キ物ヲ與フヘシ

但シ燕麥粉ノ得易キ地ニテハ常食ニ與フルヲ最良トス

一千草ハ鹽水ヲ振リ掛ケ潤シ與フヘシ

但シ多分ノ青草ヲ與フルハ下痢ヲ醸ス恐アレハ加減スヘシ

斃死後處置

一傳染病ト覺敷キ症ニテ斃ルヘモノアラハ厩舎ノ内外ヲ能ク洗ヒ硫黃一斤ヲ煎シ石炭酸水ヲ散布シテ臭氣ヲ去ラシム

ベシ尤モ病牛ノ糞尿其外治癒ニ用ヒタル一切ノ物品ハ深ク土中へ埋ムルカ又ハ硫黃ヲ散布シテ燒捨ツベシ

一病牛ヲ取扱タル人ハ衣服ヲ取換ヘ身體ヲ清淨ニシ一周間ヲ經サレハ健牛ニ近ツクベカラス

一總テ斃牛ヲ取扱ヒタル場所ヘハ石炭酸水ヲ散布スヘシ 生石灰ニ

一傳染病牛斃死ノ厩舎ヘハ六ヶ月ヲ經サレハ健牛ヲ繋クヘカラス

同指令

馬疫處分ノ儀ニ付佐賀縣ヨリ農商務省へ伺 十七年八月二十三日

馬疫劇烈傳染ノ模樣アリ疫牛處分假條例第二條ニ準シ撲殺取計可然哉

指令 十七年八月廿五日

疫馬撲殺ハ持主へ説明シテ處分スルハ不苦賠償金ハ下附セス

宮城縣ヨリ司法省へ刑法第二百五十六條ノ醫業ニ獸醫モ包含セシヤノ義ニ付請訓

十七年八月二十日

第十四類 勸業

八百六十一

刑法第二百五十六條ニ旨得スレテ醫業ヲ爲シタル者云々トアリ該醫業トアルハ獸醫ヲモ包含セシヤ將夕包含セ
サル儀ト心得可然哉聊疑議ヲ生シ候條至急何分ノ御訓示有之度候也

内訓 十七年九月三日

別紙請訓之趣刑法第二百五十六條ハ獸醫ヲ包含セサル儀ト心得此旨及内訓候也

●獸醫ノ儀ニ付廣島縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年九月五日

今般第二拾八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付テハ從來本縣ニ於テ開業免狀ヲ授與シタル獸醫ハ規則第一條ニ
據リ明治十九年六月三十日限リ消滅スル儀ニ候哉將夕本縣開業免狀ヲ締認シ更ニ御省ニ於テ免狀御下附可相成候儀
ニ候哉

指令 十八年九月十六日

伺之趣ハ前段伺之通

●牛馬疫之儀ニ付宮崎縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年九月三日

牛疫之儀ニ就テハ處分方夫々御達之次第モ有之候處本縣之儀ハ最モ重ニ馬ヲ以テ農事ヲ經營候ノミナラス畜馬ハ本
縣ニ於テ實ニ緊要的ノモノナルヲ以テ若シ管内ニ於テ馬疫流行候ハ則チ明治九年内務省シ第貳拾號達疫牛處分假
條例及同年同省シ第貳拾四號達傳染牛疫預防法并ニ斃死後處置ノ條項ニ隨ヒ處分候儀ト相心得可然哉若シ又其一地
方ニ於テ特ニ緊要ナル家畜則チ羊豚類ニ傳染病ノ流行アルハ其狀況ニ依リ前述之通ニ處分方相心得可然乎

指令 十八年十月一日

伺之趣追テ家畜傳染病預防規則制定迄牛疫之外牛馬羊豚傳染病ニ係ル豫防規則之儀ハ其縣ニ於テ適宜處分法相
設尙可伺出候ト可心得事

●獸醫開業ノ儀ニ付青森縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年九月十六日

今般本縣ニ於テ酌場農學校獸醫科得業生ヲ準判任御用掛ニ採用候處右ハ第貳拾八號布告獸醫免許規則第三條ニ依リ

卒業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンヲ願出ルルハ直ニ該免狀ヲ授與セラル、モノト存候得共元來獸醫術得業生タルノ
資格ヲ以テ採用致候モノニ候ヘハ在官中ハ別ニ開業免狀ヲ願出ス候トモ他開業獸醫ト同ク隨意ニ人民ノ求メニ應シ
牛馬并ニ諸畜治療爲致候テ差阻無之候哉

指令 十八年十月二日

伺之趣官職之有無ヲ問ハス開業免狀ヲ有セサル者ハ人民ノ求メニ應シ治療不相成儀ト可心得事

●獸醫之儀ニ付福島縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年十月九日

從來ノ馬醫ナルモノ數村ノ農馬、病馬ニテ集メ蹄剪刺絡等ノ術ヲ施シ來候處本年第廿八號公布實施後ハ右蹄剪刺絡共
獸醫ニアラサレハ施術不相成哉

指令 伺之通 十八年十月二十三日

第百廿九

山野ノ入火取締方

明治七年三月二日 内務省甲第三號布達

地方ニ寄火入杯ト唱ヘ茅野秣場等肥饒ノマメ枯草ヲ燒候儀有之往々右ヨリ火勢蔓延官私山
林ヘ燒込候儀不少不都合ノ次第候條以來右火入致シ候節ハ其都度區戸長ヘ爲届出不取締ノ
儀無之緣管下村々ヘ嚴重可申付此旨布達候事

○民有ノ山野ニ入火シ又ハ官林下草刈取ノ者取締方 明治十一年二月一日 内務省シ第七號府縣ヘ達

官林保護ノ儀ニ付テハ兼テ達置候次第モ有之候處人民所有山ニ火入シテ官林ヲ延燒シ官林下草等刈取ノ許可ナクシテ
刈ニ官林ニ立入候者等之候テハ官林保護不相立候ニ付左之通可取計此旨相達候事 十四年農商務省第二號達ヲ以
テ(下草)ノ下五字ヲ削除ス
一人民其所有山ニ火入スル時ハ明治七年甲第三號達ニ照準可致ハ勿論其近傍ノ官林監守人設置ノ場處ハ過クモ前日迄

二 監守者へ申報スヘキ旨可達置事

但官林監守任免ノ節ハ區務所へ可達置事

一 官林下草等刈取差許候者へハ豫メ鑑札ヲ渡シ置キ鑑札ヲ帶ヒスシテ立入不相成旨可達置事同上(下草)ノ下
六字ヲ削除ス

○山林濫伐野燒等ノ憂ヲ防キ人民ニ諭シテ荒衰ヲ挽回セシム明治十三年十二月三日
内務省乙第四拾九號府縣へ達

今般太政官ヨリ被相達候旨モ有之山林ノ殺ハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟上最忽セニスヘカラサル所ニシテ一タヒ其制ヲ愆レハ寒暑ノ序ヲ失ヒ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全國殖産ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付全國山林官民有ノ別ナク在來ノ材料ヲ愛惜シ濫伐野燒ノ憂ヲ防クハ勿論漸次閑地ニ於テ樹木植栽等ニ着手シ山林保護ノ道相立候様此際一層注意シ管下人民へ懇ロニ相諭シ山林ノ荒衰ヲ挽回候様取計可申此旨相達候事

第百二十 部分木仕付條例

明治十一年三月十四日
内務省甲第四號布達

植林之儀ハ最モ方今ノ急務ニ付今般部分木仕付條例別紙ノ通施行候條其趣旨ヲ體認從事候様可致此旨布達候事

(別紙)

部分木仕付條例

第一條 樹木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支無之時ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡シ地味ニ適當セル木種ヲ植挿セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ收メシムル之ヲ名ケテ部分木ト云

但官林伐木跡ト雖モ從前部分ノ慣行有之箇所ハ本文ニ準スルヲ得ヘシ

第二條 第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ先ツ該所ノ反別ヲ測量シ地味

ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照ラシ地方廳ニ願出ヘシ

第三條 前條ノ場合ニ於テハ地方廳於テ官吏ヲ派遣シ巡視點檢事實相違ナキキハ之ヲ聞届ケ別紙第二號書式ニ倣ヒ貸地券狀ヲ下ケ渡スヘシ

第四條 樹木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ厚薄ニヨリ二官八民(假令ハ百本ノ立木ナレハ二十本ヲ官收シ八十本ハ人民ニ付與スルヲ云フ)以上實際適宜ニ之ヲ區分スヘシ同年甲第二十號同省布達ヲ以テ(ヨリ五官五
民迄ノ間)九字ヲ削リ(以上實際)ノ四字ヲ加フ

第五條 第四條掲クル所ノ部分方法ハ成木ノ上立木ノ儘分配スルアリ又ハ伐木ノ節官民於テ各評價人ヲ出シ總計金額ヲ豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス

但不得已事故アツテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レル樹木ヲ買上クヘシ

第六條 地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ毎年人民へ貸渡シタル地所反別(植付挿付)木種具數及ヒ拜借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ分翌年一月限り内務省地理局ニ届出ヘシ

第七條 官ハ地所ノ貸渡料ヲ取立サルヘシ借人ハ植挿養護ヲ擔任スルモノトス

第八條 植挿ノ後樹木成育スルニ隨ヒ手入伐木セント欲スルキハ前以テ地方廳ニ願出ツヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不都合ナキモノハ是ヲ許可シ其翌年一月限り遺漏ナク内務省地理局ニヘシ而シテ臺帳ニ就キ其翌年一月限り遺漏ナク内務省地理局ニ

届出ツヘシ

但十五年以後ニ至リ拔伐スル木品ハ最初ノ約束ニ基キ各之ヲ配賦スヘシ

第九條 地所拜借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通仕立主ヲシテ標木ヲ建設セシムヘシ

裏

何府下何國何郡何町字何四至境界

第何號幾官幾民部分林反別何程

何年何月 植付 押付

仕立主何郡何村

何之誰

第十條 仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡サント欲スルキハ其事實ヲ詳記シ地方官ニ願出ツヘシ地方廳ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルキハ証券ニ裏書シテ下渡シ追テ内務省地理局ヘ届出ツヘシ

但本文ノ樹木ヲ質入書入セント欲スルキハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準擬シ所戸長ノ檢認ヲ受クヘシ

第十一條 借地反別ハ豫メ其制限ヲ定メスト雖モ其植栽見込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スルモノトス

但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植挿ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ追次其植繼ヲ許スヘシ然レモ三ヶ年ヲ過キ猶其植挿未了ノ地ハ直ニ返附セシムヘシ

第十二條 一時植立并追次植繼ニ拘ラス實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ届出之レガ檢査ヲ受クヘシ

(願書及證券雛形畧ス)

○部分仕付出願ノ者心得方

明治十一年六月三日
内務省甲第四號布達

本年三當省甲第四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達並候處右ニ照準出願ノ者ハ別紙ノ條件相心得不都合ノ儀無之候可致此旨布達候申

(別紙)

一部分木仕付條例ニ準シ官地拜借許可濟ノ後條例第十條ノ手續ヲナサス竊ニ其地ヲ他人ニ貸シ又ハ質入書入ヲ爲スモ
一 同斷許可濟ノ日ヨリ滿一年ヲ過キテ植挿着手セサルモノ
但條例第十一條但書ノ場合ハ本文ト抵觸スルコトナシ

一 同斷一ヶ年以内ト雖モ主願ノ樹木ヲ植挿セス他事ニ使用セルモノ

一 植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置シノ地ニ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキコトヲ著明ナル
其ト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三年ニ至リ猶甲地ニ移植セサルモノ

右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地并地上ニ附着セルモノヲ取上ケ最初貸渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徴收シ且其者等(第一條ノ所爲ニ依リ其地ヲ借リ又ハ再此條例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サス)ハ書入質入ニ取リタル者モ亦同シ

○部分木仕付條例頒布ノ趣旨ヲ人民ニ諭サシム 明治十一年三月十五日 內務省第七號府縣へ達
森林ノ經國ニ緊要ナルハ勿論ニ候處近來工事進歩土木多端ノ折柄木材ノ需用日一日相増候ニ付テハ植樹ノ儀ハ最モ方
今ノ急務ニ有之然ルニ偶種樹ニ志アルモ所有地無キカ爲奮手致シ得サル者有之哉ニ相聞候ニ付今般部分木仕付條例頒
布候條其趣旨管下人民へ丁寧告諭シ國益ヲ永遠ニ圖候條可致此旨相達候事

專賣特許條例 明治十八年四月十八日
第七號布告

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣略規則及明治五年三月第百五號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

專賣特許條例

第一條 有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘ

シ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許證ヲ下付スヘシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書并必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ依

リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條 專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 左ノ諸項ニ觸ルヘモノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

一 他人ノ既ニ發明シタルモノ

但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

二 專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ

三 治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ

四 醫藥

第五條 軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商

務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條 專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條 專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ願出ヘシ

第八條 專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原

專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト

合セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十條 專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十一條 專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條 專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第十三條 專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許證ヲ返納セシムヘシ

一 第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二 願書并明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

一 專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ届出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二 專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條 專賣特許證ヲ下付シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條 專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付

スヘシ

一 五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾圓

二 十年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾五圓

三 十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金貳拾圓

四 讓與分與ヲ願出ル者 金五圓

五 追加特許ヲ願出ル者 金五圓

六 專賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者 金壹圓

第十八條 專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

第十九條 專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ并要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サハルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條 專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十二條 第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條 第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 第二十二條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條 專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

明治四年四月七日專賣略規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年^三月^三日^三第百五號布告但書ニ依リ届出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ヶ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ

○專賣特許手續

明治十八年四月十八日 第五號布達

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定ム

右布達候事

(別紙)

- 專賣特許手續
- 第一條 專賣特許ニ關スル願書及届書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ
 - 第二條 專賣特許ヲ願出ルトキハ壹個ノ發明ニ付願書ニ通明細書并圖面各三通ニ免許料ヲ添フヘシ
二人以上協同シテ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書及明細書等ニ連署スヘシ
 - 第三條 明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ
 - 第四條 專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
 - 一 發明ノ名稱
 - 二 專賣特許ノ年限
 - 三 條例ニ抵觸セサル旨
 - 四 願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨
 - 第五條 明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
 - 一 發明ノ目的及性質ノ大體説明
 - 二 圖面ノ解説(圖面ヲ添フルトキハ)
 - 三 發明ノ製作構造組成及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ説明
 - 四 發明ノ區域
 - 五 發明人ノ族籍住所氏名

第六條 圖面ニハ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ說明ト符合セシムヘシ

第七條 條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ願書ニ通ニ專賣特許證約定書寫及免許料ヲ添フヘシ

第八條 條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ

第九條 條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ通ヲ差出スヘシ

第十條 條例第六條第二項及第十二條氏名變換ノ届出ヲ爲ストキハ農商務省ニ於テ專賣特許證ニ裏書ヲ爲スヘシ

第十一條 條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ免許料ヲ添フヘシ

第十二條 專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脱漏又ハ過誤アルコトヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ通ヲ差出スヘシ

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス

第十三條 專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ届出ヘシ

第十四條 條例第四條第一項ニ觸レ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條 附則第二項ニ依リ使用特許ヲ受ケント欲スル者ハ其來歴ヲ詳記シタル願書ニ通ヲ差出スヘシ

●同指令

●專賣特許條例及手續條項中疑義ノ廉琦玉縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年四月二十七日

今般第七號御布告專賣特許條例及第五號御布告專賣特許手續條項中疑義ノ廉左ニ

一條例第五條中ニ又ハ廣ク用井シムルコトヲ必用ナリト認ムル發明ニハ農商務省ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス云々ト有之右ハ軍用品ノミニ限ラス諸般ノ物件ニシテ社會公益ノ最モ大ナルモノト公認セラルヘモ惟リ發明者ニ專賣權ヲ附與スルハ却テ之カ擴充ヲ妨グルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ發明者ニハ相當ノ報酬金ヲ與ヘラレ而シテ該發明品ハ何人ヲ問ハス製造販賣勝手ヲラシムヘキ御仕向ニ候哉

二同第八條但書ニ追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ストアルハ譬ヘハ其物件ニ改良ヲ加ヘテ追加專賣特許ヲ願出ル時ハ其追加特許證ノ日付ケヨリ起算シテ更ニ向フ何年 原特許五年ナレハ追加特許モ五年同ノ特許ヲ受ケ得ラルヘ義ニ候哉又ハ當初十五年ノ特許ヲ得テ既二十年ヲ經過セシ後改良ヲ加ヘ追加ヲ願出ルトキハ殘リ五年丈ケノ特許ニシテ其以上ヲ超ユルコトヲ得サルノ意ニ候哉

三同第十五條其第二項ニ專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣云々トアルハ譬ヘハ何某ノ發明ヲ以テ專賣特許ヲ得タル物品ト同一ノ物品外國ニ發明者アリテ齊シク其政府ノ專賣特許ヲ得テ本邦ニ齎シ來リテ之ヲ販賣スル者アルハ右何某ノ專賣權ハ右ノツカラ消滅ストノ意ニ候哉又ハ專賣特許ヲ得シ發明品ヲ自カラ外國ニ送リテ製造セシメ之ヲ輸入シテ販賣セシコトノ發覺シタル時專賣ノ權ヲ剝奪セラルヘトノ意ニ有之候哉

四同第二十條ニ專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ云々ト有之右發明品ヲ偽造ストハ他人ノ專賣特許ヲ得タル發明品ヲ模造シテ之ニ發明者ノ姓名及ヒ特許ノ年月日年限等ヲ標記シタルモノハ謂ヒニシテ外國ヨリ輸入ストハ他人ノ專賣特許ヲ受ケタル發明品ヲ竊カニ外國ニ送リテ造ラシメ之ヲ輸入販賣シ或ハ其輸入品ヲ模範トシテ製造販賣シ一方ヨリ專賣權ヲ侵サレタリトシテ告訴スルモノアルモ外國品模造ノ口實ヲ以テスルカ如キ故意ノ者ヲ指ス義ニ候哉將ク方法ヲ竊用ストハ例ヘハ專賣特許ヲ得タル發明品圓形ナレハ方形ニシ木製ナレハ鐵製ニシテ形容ヲ殊ニスルマテニテ其實右發明者ノ考按意匠ヲ全用シタル者ヲ指ス義ニ有之候哉

五同第二十四條ニ詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ偽稱シタル者ハ云々ト有之右詐偽ノ所爲云々トハ條例第二十條ノ事項ト類似ノ故意騙購ヲ以テ既ニ特許ヲ受タルモノハ謂ヒニシテ偽稱云々トハ專賣特許ヲ得スシテ特許ノ名ヲ密用スルヲ指ス義ニ有之候哉

六手續第十三條ニ專賣特許ヲ受タルモノ約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ届出ヘシトアルハ專賣權ヲ有スルモノ自己ノ都合ニ依リ讓與分與ノ手續ニ依ラス特許年限中若干年間若クハ全期他人